

# ゴスペル

## パウロによるとローマ人への手紙

### 導入

使徒パウロもローマに行って福音を宣べ伝えたいと心から思っていました。しかし、彼は何度かブロックされました。そして主は彼に、ローマ人への手紙という文書を通してその都市の信者たちにそれを伝えるよう促しました。その中で彼は、主イエス・キリストご自身からの啓示によって受け取った福音を紹介しました（ガラテヤ 1:12）。

その内容は、聖書やキリストについて聞いたことのない異邦人から、聖書に精通したユダヤ人の律法学者まで、あらゆる階級の人々の状況をカバーしています。そして神の法。

ローマ人への手紙はパウロの同時代人だけを対象に書かれたものではありません。その内容は何世紀にもわたっており、私たちにも有益です。15:4。それは、過去の罪の赦しと、現在と将来において神の御心に従って生きる力を手に入れる方法をすべての人に示します。彼の指示に従う者は魂を救い、永遠の命を受け継ぐことになる。

パウロは救いのテーマについて語る時、「自分に与えられた知恵によれば…彼のすべての手紙には理解しがたい点がある」と書いています（ペテロ第二 3:15,16）。このため、私たちは次のことを理解しています。この重要な書簡のメッセージを正しく理解するには、聖書と聖書を比較しながら、その内容を逐一説明する必要があり、その努力の結果としてこの本が制作されました。

この本の焦点は、ローマ人への手紙に示されている福音のメッセージを明確にすることです。このため、彼は第1章から第12章までを節ごとに説明することに重点を置いています。最終章については言及していません。最終章は、キリスト教徒の生活における実際の義務と信者への挨拶を提示することに専念していました。

この出版物の目的は、出身、国籍、宗教的指向、神についての知識の程度に関係なく、地球上のすべての人々が、

福音を伝え、救いの道を見つけてください。魂の救いを探しているなら、ここで探しているものが見つかるでしょう。神のお恵みがありますように。

## ローマ人への手紙 1

「イエス・キリストのしもべであり、使徒として召されたパウロは、神の福音のために取り分けられました。神の福音は、神が以前聖書の中で預言者を通して約束されていたものであり、それは、次のとおりダビデの子孫から生まれた神の御子に関するものでした。死者の中からの復活を通して、聖化の御霊に従って力を持った神の子であると宣言された肉、私たちの主イエス・キリスト、私たちはこのキリストを通して恵みと使徒の地位を受け、その御名を通してすべての国民の間で信仰の従順を与えられました。、あなたもその一員としてイエス・キリストに属するよう招かれています。神に愛され、聖徒と呼ばれるローマにいるすべての人々に、私たちの父なる神と主イエスから恵みと平安がありますように。

クリスト」。ロム。 1:1-7。

使徒とは、福音を宣べ伝えるために神によって召された人のことです。キリストはパウロを呼び、この仕事のために彼を引き離しました。彼は自分のしもべについて、「これは、異邦人の前、王たちの前、イスラエルの子らの前で、わたしの名を冠するために、わたしに選ばれた器である」と述べました（使徒行伝9:15）。パウロは、あるじの呼びかけに従っていることを示すことから手紙を始めます。それは簡単に述べることによって行われます

彼が神から学んだこと、そして彼が受けた使命。

彼は、ユダの子孫の間に生まれ、ユダヤ人によって十字架につけられたイエス・キリストが、父である聖霊の力によって復活させられた生ける神の子であると確信していました。なぜなら、イエスご自身がダマスコへ向かう途中でお会いしたからである。当時、彼はキリスト教徒を迫害していた。彼はイエスが詐欺師であると信じており、イエスを信じる者を地球上から根絶するために積極的に活動することで、神に真の奉仕をしていると考えていました。この目的を求めて、「依然として主の弟子たちに対して脅迫と死を吹き込みながら、彼は大祭司のところへ行き、ダマスカスとシナゴグへの手紙を求めた。そうすれば、その宗派の一部を見つけることができれば、男性がどうかに関わらず、あるいは女性は、捕虜としてエルサレムに連れて行ってください。そして彼が旅を続けるうちに、ダマスカスに近づいたとき、突然天からの光の炎が彼を取り囲んだのがわかった。そして、地面に倒れながら、彼はこう言う声を聞いた。

サウル、サウル、あなたは迫害しているのですか？ による 何 自分

そして彼は言った、「主よ、あなたは誰ですか？」そして主は言われた、「わたしはあなたが迫害するイエスです。」刺し傷に抵抗するのは難しいです。すると彼は、震えて驚いて言った、「主よ、あなたは私に何をしてほしいのですか？」

すると主は彼に言われた、「起きて、町に入りなさい。そうすれば、そこで何をしなければならぬか告げられるでしょう。」使徒 9:1-6。三日後、キリストはご自分のしもべアナニヤを彼のところに遣わされました。アナニヤは「家に入り、手を置いてこう言いました。『兄弟サウル、あなたが来る途中にあなたに現れた主イエスが、私を遣わしてくださったのです。あなたは再び目が見え、聖霊に満たされるかもしれません。そしてすぐに彼の目から鱗が落ちるように、彼は視力を取り戻しました。そして立ち上がってバプテスマを受けました。そして食事を終えると、彼は慰められた。そしてサウルはダマスコにいる弟子たちと数日を過ごした。そしてすぐに、会堂でイエスを神の子であると宣べ伝えました』使徒 9:17-20。

パウロはその後の期間で自分の使命をよりよく理解しました。ダマスカスでの出来事の直後、彼はアラビアに向けて出発した。それから彼は再びダマスカスに戻り、「3年後、エルサレムに行きました」とガル。 1:17,18。この間、彼は聖書の研究と与えられた幻を通して、主から特別な啓示を受けました。これらについて彼は後に次のように証言しました。「私は主の幻と啓示について話します。

私はキリストにある男性を知っていますが、彼は14年前（体内かどうかは知りません。体の外かどうかは知りません。神は知っています）、第三の天に引き上げられました。そして私は、この男が（体内か体外か、私には分かりません。神が知っています）樂園に引き上げられ、人間が話すことは合法ではない、言いようのない言葉を聞いたことを知っています。」コリント第二 12:1-4。それは彼が教えた福音を学び、ローマ人に説明しようとしていたときでした。彼について彼は次のように証言しました。「兄弟たち、私が宣べ伝えた福音は人によるものではないということを、私は伝えておきます。私はそれを受け取ったわけでも、誰からも学んだわけでもありませんが、イエス・キリストの啓示によるものだからです。」ガル。 1:11,12。したがって、彼によって伝えられたメッセージは、天そのものから、キリストご自身から私たちに来ます。

パウロはまだ手紙の序文の中で、福音のメッセージを受け取る私たち全員がキリストを信じ、その普及者となることを望んでいることを明らかにしています。彼は、「すべての国民の間で主の御名のための信仰の従順」に福音を伝える任務を受けたと述べています。その中にあなたもイエス・キリストとして召されています。

したがって、ローマ人への手紙で福音を学ぶことによって私たちが学ぶことは、他の人に教えるという目的になります。したがって、説明を正しく理解する必要があります。ローマ人への手紙に関するこの解説の目的は、そのメッセージの理解を促進し、各読者がこの神聖な目的を達成できるようにすることです。

私たちは皆、ローマ人への手紙に示されている使命に含まれているので、この手紙の挨拶もまた私たちのものです。「聖徒と呼ばれる神に愛されるすべての皆様へ：私たちの父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平安を」。

「ローマにいる皆さんへ。」

手紙を書くとき、それは公開情報のために書かれます。この手紙の挨拶は私たちと昔のローマ人の両方に宛てて書かれているので、パウロにこの手紙を書くよう促したキリストは、この手紙のテーマである救いの福音についての私たちの考えが次のようなものであることを知っていたと推測できます。彼らのものです。私たちは自分自身のことを知りません。「心は欺瞞だ…誰であろうと

分かるだろうか？」ジャー。17:9。しかし、神はそうなのです。詩編作者はこう言いました。 、あなたは私を調べて、私を知っています...

あなたは遠くから私の考えを理解しています...私の舌に言葉がなくても、見よ、おお

お客様 、お見通しですね。"詩 139:1,2,4 したがって、私たちは神と議論するのではなく、ローマ人への手紙が私たちに向けて書かれたものであることを受け入れ、キリスト教徒と同じように救いの福音についての理解を変えるのが賢明です。古代ローマの。このことは、19 節から解説を始めるとよく理解できるでしょう。

「まず第一に、あなた方全員のために、イエス・キリストを通して私の神に感謝します。なぜなら、あなた方の信仰は世界中に伝えられているからです。なぜなら、私が霊において、御子の福音によって仕えている神が、私がどのようにあなたのことを絶え間なく言及し、神のご意志によって、いつか私に良いものが与えられるようにいつも祈りの中で尋ねているかを証人として下さるからです。あなたのもとに来る機会、あなたと一緒に。それは、私があなたに会いたいと願っているからであり、あなたがたに何らかの霊的な賜物を伝えて、あなたが慰められるように、つまり、あなたがた双方の信仰によって私も慰められるようにしたいからです 1:8-12。

として

私の。"

ロム。

キリストの使徒たちはエルサレムで弟子たちを備えることに全力を注ぎました。

「エルサレムにあった教会に対して大規模な迫害があったとき……使徒たちを除いて、全員がユダヤとサマリアの地に散らばっていた」。使徒 8:1。そして、「海外に散り散りになった迫害されたクリスチャンたちがどこへでも行って御言葉を宣べ伝えた」使徒 8:4 ように、福音は当時世界帝国の首都であったローマにも届きました。

「神の王国は、あたかも人が地面に種を蒔き、昼夜を問わず眠り、起き上がり、その種がどのようにして発芽し、成長したかのようなものです。」海。

4:26,27。したがって、福音のメッセージを分かち合うよう私たちに勧めるとき、主は私たちにこう言われます。「パンを水の上に投げなさい。何日も経つとあなたはそれを見つけるだろう」。11:1。

パウロはキリストによって「異邦人への使徒」に任命されました。しかし、彼はローマで直接説教したことはありませんでした。しかし、彼は、自分が受けたキリストの特別な啓示とその福音が、他の人たちと分かち合うために自分に託された特別な財産であることを知っていました。だからこそ、彼は別の機会に次のように宣言したのである。そして、私がそれを発表しないとしたら、私は悲惨です

福音！" コリント 9:16。神から与えられたあらゆる特権には責任が伴います。

彼は、自分が受け取った霊的な賜物を伝えることでローマ人が慰められるだろうと知っていました。特に彼は福音について深い知識を持っていたためです。しかし、彼は謙虚に、自分の弟であるローマ人の信仰体験を知ることでも自分も祝福され、慰められるだろうと認識しています。そこには「あなたと私の双方の相互の信仰によって慰められますように」と書かれています。偉大な使徒の生涯には謙虚さが特徴的でした。そしてそれは、キリストの王国に入るための基本的かつ不可欠な条件であるため、すべての真のクリスチャンに見出されます。最初の至福の言葉で、師はこう言いました。「心の貧しい人たちは幸いです。天の国は彼らのものだからです。」マタイ 5:3。私たちがどれだけ長くキリストとともに歩んできたとしても、たとえ最も新しい改宗者の経験からも常に学ばなければなりません。彼はこう言いました。「預言者たちにそう書いてあります。そして彼らは皆、神によって教えられるでしょう。」ヨハネ 6:45。最も小さい者から最も偉大な者まで、すべての信者は神から学んだので、私たちは常に彼ら全員とともに、彼らが父から受けたものを学ぶことができます。秩序やリーダーシップ、世界的な教会を導く働きにおいて、指導者であっても神が最年少に与えた「啓示」に従うことを強いられます。私たちは、神が私たちの末の兄弟たちの生活の中で彼らを暗闇から神の素晴らしい光に導いてくださった証しの知識を霊的生活に組み込むことができます。しかし、神は人々を教会の牧師に任命し、体の中に階層を設けました。指導者が神の言葉に示された意志に従って行動するときはいつでも、キリストと同じ霊がすべての誠実な信者を尊重するように導かれます。次のように書かれています。「あなたの羊飼いに従い、彼らに服従しなさい。なぜなら、彼らはあなた方の魂を、彼らに罪を償う者として見守っているからです。それはあなたがうめき声を上げずに喜びをもってそれを行うためであり、それはあなたにとって何の役にも立たないからです。」 13:17。したがって、教会の誰もが、指導者も指導者も、教会で証しを聞くときに、神が互いの人生や経験の中で何をなさったかを認識することができます。そしてそこから学びましょう。しかし、この慣行は、確立された秩序を破壊するための正当化として持ち出されるべきではありません。

「しかし、兄弟たち、あなたたちに気づかないでほしいのですが、私はあなたたちといっしょに行こうと何度も計画していましたが（しかし今まで阻止されてきました）、それはあなたたちと他の異邦人の間でも実を結ぶためでした。私はギリシア人にも野蛮人にも、賢明にも無知にも恩義がある。ですから、私は自分の中にある限り、あなたに福音を宣べ伝える準備ができています。

あなたはローマにいるのよ」ロム。 1:13-15。

パウロはもっと早くローマを訪れたかったのですが、それまでは「妨げられていた」ことを認めています。彼は、どのような人間の道具が彼の旅を妨げていたかについては言及していませんが、彼の言葉から、敵であるサタンがローマの信者たちが彼に託された福音の啓示の光線を受け取るのを何らかの形で妨げようとしていたことがわかります。しかし、課せられた困難によっても彼の目的は弱まらなかった。彼は、彼らに伝えたい福音の啓示のエッセンスを記した文書を送ることに決めました。彼はこう言いました。「私はギリシア人にも野蛮人にも、賢明にも無知にも感謝しています。ですから、私の中にある限り、ローマにいるあなたたちに福音を宣べ伝える準備ができています。」これらの言葉から、この一連の手紙は福音の説明に捧げられると結論付けられます。

「私はキリストの福音を恥とは思っていません。それは、ユダヤ人をはじめギリシャ人を含め、信じるすべての人に救いをもたらす神の力だからです。「しかし、正しい者は信仰によって生きる」と書かれているように、神の義は信仰から信仰へと彼の内に明らかにされるからです。」ロム。 1:16,17

「ゴスペル」という言葉は良い知らせを意味します。原文の翻訳されたローマ人への手紙 1 章 16 節の福音書は、救い主イエス・キリストの誕生の知らせにも登場し、「大いなる喜びの知らせ」と訳されています。「大きな喜びの知らせをあなたに伝えてください。喜びはすべての人々にとってのもので、なぜなら、あなたは今日ダビデの町で生まれたからです。それは主であるキリストです。」ルカ。 2:10。 11. パウロは、福音は「神の力」とであると主張します。良いよりも同時に神の力となり得るのはなぜでしょうか。なぜなら、福音は私たちが罪から救うために神の御子が来られることを告げることで構成されており、それによって罪に打ち勝ち義を实践する力が与えられるからです。パウロは福音は「キリスト」から来たものだと言います。キリストという言葉は、ポルトガル語で「メシア」として知られるヘブライ語を翻訳した原語のギリシャ語に由来しており、遣わされるという意味です。弟子アンデレがイエスに会った後、弟のペテロにイエスのことを告げに行ったとき、彼はこう言いました、「わたしたちはメシア（訳すとキリスト）を見つけました」ヨハネ 1:41。彼はイエスが神から遣わされた者であることを確認しました。

罪が存在して以来、人々は神が救い主を送ってくださるのを待ち続けてきました。イザヤは靈感によってイエスについて語り、遣わされる者は神の御子であり、その御子を通して人間と天の父との間に平和が回復されるであろうことを明らかにしました。そして君主権は彼の肩にあります。そして彼の名前は、素晴らしいカウンセラー、平和の王子、イザとなります。 9:6。彼は私たちのために二つの業を行って平和を作りました。その最初のもは、私たちの罪を負い、カルバリの十字架での彼の死によってその罪を償うことでした。「罪の報酬は死である」。そして、「彼は私たちの罪のために負傷しました…その罰は、

彼の上に平和がもたらされました。」 「彼は木の上で私たちの罪をその体で負っておられます。」このように、「キリストは私たちを律法の呪いから救い出し、私たちにとって呪いとなった。『木にぶら下がっている者は皆呪われている』と書いてあるからである。』彼は「聖書に従って私たちの罪のために死んだ」1コリント15:3（引用：ローマ6:23、イザヤ53:5、IIペテロ1:24、ガラテヤ1:24）。

3:13、コリント第一 15:3）。第二の働きは、神から受けた聖霊を心に注ぎ、私たちに回心させて聖化することです。「彼は義の霊と呼ばれる」とイザヤ書は記している：「そして、シオンに残されエルサレムに留まる者は聖なる者と呼ばれるであろう。エルサレムに住む者たちの間で書き記されているすべてのことは、主がこう言われるとき、「シオンの娘たちの汚れを洗い流し、正義の精神と熱意の精神によってエルサレムの血をその真ん中から清めるであろう。」イザヤ 4:3,4。しかし、神の戒めは義です：「神の戒めはすべて義です。」詩 119:172 したがって、私たちは、義の霊が私たちに十戒に従わせると結論付けます。

キリストは霊を通して私たちの心の中で働き、罪への生来の傾向と闘い、誘惑に対する勝利を与えてくださいます。そしてこれらは、あなたがたがそのようなことをしないように、互いに対立しています。5:17。そしてこのようにして、神は「ご自分の御心に適うように、あなたがたのうちに働いて、意志と行動の両方を行われるのです。」 「これ フィリピ 2:13 それは私たちの意志、私たちの感情、動機を変え、文字通り私たちに従順をもたらします。が、あの日の後にわたしが彼らと結ぶ契約である、と主は言われる、わたしはわたしの律法を彼らの心に置き、彼らの心に書き記す」とヘブライ 16:14。 10時16分。そしてこの約束は、私たちがキリストを信じたときにのみ成就することができます。「神のすべての約束はキリストのうちにあり、彼を通してアーメンだからです」（アーメンは「そのとおりです」という意味です） 2コリント1:19,20。

神のこの働きを通して、私たちの生活に従順が明らかになります。これは、パウロが福音について言うときに言及していることです：「なぜなら、『しかし、義人は信仰によって生きる』と書かれているように、その中では神の義が信仰から信仰へと明らかにされるからです。』福音は、提示するメッセージです。キリストは、私たちにキリストへの信仰を持つよう勧めています。私たちが信じる時、キリストは神から受け取った霊を私たちの心に注ぎ、それが私たちの心と考えを変える力として働きます。このようにして、神は私たちが義の実践に導いてくださいます。十戒に従うことです。したがって、福音のメッセージを受け入れることの唯一の本当の成果は、神が私たちに知らせたすべての戒めに完全に従うことであると結論付けられます。言い換えれば、福音を受け入れることの成果は、すべての光に対する完全な忠実であるということです。私たちは何が正しいのかを神から受け取っているため、それを実践する義務があります。

「というのは、神の怒りは、不義の中に真理を持っている人間のあらゆる不敬虔と不正に対して天から現われているからである。神について知られている事柄は、神が彼らに明らかにされたからである。目に見えないものであっても、神の永遠の力と神性は天地創造の時から理解されており、創造されたものによってはっきりと見えるので、それらは許しがたいものである。」ローマ 1:18-20。

「神はだれにも見たことがありません。」ヨハネ 1:18。しかし、神は、天と地と全宇宙という、ご自身が創造された作品の中にご自身の啓示を残されました（創世記 1:1）。広さ、「神の栄光を宣言し、その広さは神の手の働きを宣言する」詩 19:1。そして預言者イザヤは、わたしたちが「わたしたちは皆、あなたの御手の業である」と宣言しています イザ 64:8 詩編作者はこう宣言しました。わたしはあなたの御手の働きを黙想します 詩 143:5。このように、神の 2 つの目に見えない特徴は、すべての人に理解できる方法で、彼らの体と彼らを取り巻く被造物の中に明確に現れています。(1) 神の永遠の力。(2) 彼の神性。無限に知性があり、善意を持った存在だけが、これほど多くの相互依存し、完全に統合されたシステムによって駆動される美しい存在を構想し、構築することができただろう。脳と心臓が調和して共同して機能する赤ちゃんの美しさと繊細さを考えてみましょう。脳は心臓を制御し、心臓から血液が供給されます。どれも以前に登場したものではなく、他のものから独立しているものではありません。両方は必然的に同じ体内で一緒に創造されました。「そして主なる神は土の塵で人を形作り、その鼻に命の息を吹き込まれた。そして人は生きた魂となった。」創世記 2:7。誰が人体の細胞を生かし、誰が細胞を作るのか。小さな電子が原子核の周りを回っているのは誰でしょうか。鳥が毎日食べ物を見つけられるように誰が与えているのでしょうか。誰が私たちの体に働くために必要なエネルギーを食べ物から抽出させているのでしょうか。誰が私たちに睡眠を与え、野原を美しい花で覆っているのでしょうか。唯一の正しい答えは、「神、その力とすべてに対する無限の愛によって、すべての人に対する摂理において、人間は創造主としての神性と立場、そして神の維持力を実証しています。」

人間はまた、自然界のあらゆるものは、植物であれ、動物であれ、私たちの体の器官であれ、他者に奉仕するために存在しており、自分自身だけに奉仕することで繁栄するものは何もないことにも気づいています。

したがって、この原則に反する行為をする言い訳は誰にもありません。自分の快樂だけを求め、他人を意図的に抑圧して利己的に生きるのは間違いであることは、誰もが直感的に認識しています。神は、このように進むことは、間違っていると知りながら間違ったことを行うことであると宣言されます。それは、聖書の言葉で言えば、「不義の中に真理を保持する」ということです。真理とは、神によれば正しいことについての知識であり、不正とは正義の法の原則、つまり神と隣人への愛に反する間違った利己的な行為です（マタイ22:38-40）。神は残した



他者に奉仕し祝福するために生きているという正義の原則に関する知識は、誰も不正義や不敬虔を実行する言い訳ができないようにするために、「それらが許しがたいものとなるように」自然の産物の中に書かれています。

「というのは、彼らは神を知っていたにもかかわらず、神を神として讃えず、神に感謝もせず、かえって言葉が弱くなり、愚かな心は暗くなったからである。

賢明にも、彼らは愚か者になったのです」ロム。 1:21、22。

人間科学の大きな間違いは、自然界にその作者の足跡を認識することを拒否していることです。「初めに神は天と地を創造されました。」 1:1。そして彼にはその働きに協力者がいました。聖書はキリストについてこう述べています：「万物はキリストによって造られ、キリストなしには造られたものは何もなかった。」 ヨハネ 1:3。自然を自己存在として説明し、その現象を自然発生的に説明しようとする科学。自然法の創造者であり、万物の維持者としての神の力として、誤った結論に達します。神の観点からは、そのような結論は闇に匹敵します。この線に倣い、科学者は偉そうに自分の結論を発表することができます。実際には彼らの説明は現実から切り離されているにもかかわらず、知恵は、将来、調査が進むにつれて狂気であることが判明します。

説明のために、ある事例を引用します。人類科学はすでに地球が宇宙の中心であると宣言しています。そしてそれは2頭の象によって支えられていたとも。これらの発言はすでに狂気であることが証明されています。聖書はずっと前に、神はヨブを「何も無いところの上に地を吊るしている」と述べていました。

26:7。数世紀後、人類の科学は神の言葉がすでに示したのと同じ結論に達し、地球は「宇宙に浮遊している」と宣言しました。したがって、自然の啓示を通じて「神を知っていた」科学の擁護者である多くの人が、「神を神として讃えなかったし、神に感謝もしなかった」のは事実である。そのため、「彼らの愚かな心は暗くなり、自分は賢いと主張して、愚か者になった」のです。

「そして彼らは、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間、鳥、四つ足のもの、はうものなどの像に変えた。そこで神はまた、彼らを心の欲望に任せ、「彼らは神の真実を偽りに変え、永遠に祝福される創造主よりも被造物を敬い、仕えたからです。アーメン。だからこそ、神は彼らを悪名高い情熱に見捨てたのです。なぜなら、彼らの妻たち

彼らは自然に反して、自然な用途を変えました。そして同じように、男性もまた、女性の自然な利用を離れて、互いに、男性と男性に対して官能的に燃え上がり、不法行為を犯し、当然の報いを自分自身に受け取るようになりました。

彼の間違いに」ロム。 1:23-27。

自然の働きを熟考するとき、人間は神の存在を自然に直観します。これは歴史を勉強すればすぐにわかります。古代以来、すべての民族は独自の神を創造し、彼らに崇拜と犠牲を捧げてきました。しかし、真の神を創造主として認識できなかったため、彼らは想像力に従って神の姿を思い描くようになりました。彼らは、彼らの仲間である人間や一部の動物にも見られる特徴が彼らにあると考えました。「彼らは神の真実を嘘に変えた」、つまり彼らは神の性質の表現として、罪に汚れた限定された被造物を採用した。「彼らは朽ちない神の栄光を人間の似姿に変えた」

腐敗しやすいもの、鳥類、四本足の動物、爬虫類のもの。」

人間は観察によって学びます。罪に汚れたこれらの不完全な存在を観想と崇拜の対象とすることによって、彼らは徐々にそれらに似てきました。彼らは練習を繰り返した。「彼らは創造主よりも被造物を尊重し、仕えました。」親密な接触さえも、動物で見られるものと同様でした。聖書は、ペリシテ人がダゴンと呼ばれるバビロンに起源を持つ神を崇拜していたと報告しています(士師記16:23)。ダゴンは半分魚で半分人間のようなアイドルでした。ダゴムの司祭は、ローマ・カトリック教の教皇がかぶるものと似た、魚の口の形をした帽子をかぶっていた。雌雄同体、つまりオスとメスの両方として生殖関係を築くことができる魚がいます。したがって、このような神を熟考し、人々が彼女に倣おうとし、魚に似た関係を維持し始めたのも不思議ではありません。神は人々が自ら選んだ道を進むことを止めません。まず第一に、自分の決定を尊重してください。「それが、神が彼らを悪名高い情熱に見捨てた理由です。なぜなら、彼らの女性でさえ、自然に反して自然な使用法を変えたからです。そして同じように、男性も女性を自然に利用することから離れ、お互い、男性と男性に対して官能的な感情を燃やし、不法行為を犯すようになった。」

数十年前、同性愛者の間でエイズ（またはエイズ）の感染率が高いことが報告されました。さらに最近では、2022年には、彼らの間でのサル痘の伝播の拡大にも関連していました。神の言葉は、同性愛が実践者の体に有害な結果をもたらし、彼らは「自らの過ちにふさわしい報い」を受けると長い間警告してきた。

「そして、彼らが神についての知識を持たないことを気にしていたので、神は彼らをひねくれた心に引き渡し、不都合なことをさせた。あらゆる不法行為、淫行、悪意、貪欲、邪悪に満ちていること。妬み、殺人、争い、欺瞞、悪意に満ちています。つぶやく者、中傷する者、神を憎む者、ののしる者、高慢、傲慢、悪を発明する者、父親や母親に従わない者である。愚かで、契約に不誠実で、自然な愛情がなく、和解できず、慈悲がない。神の裁き（そのようなことをする者は死に値するということ）を知っていて、それを行うだけでなく、それを行う者に同意するのです」ローマ 1:28-32。

表面的な読者は、上記の本文で説明されているように、神は人間にあらゆる種類の悪を犯すように自発的に指示したと考えるかもしれませんが。しかしそうではありません。「神が彼らを引き渡した」という表現は、神が人間の選択の自由を尊重していることを示しています。かつて、民が預言者たちから送られた多くの戒めを拒否した後、神はイスラエル人が悪の道を歩み、偽りの神々を崇拝する決意を固めているのを見て、こう言われました、「イスラエルは頑固な未経産牛のように反逆した…エフライムは引き渡される」ホセア 4:16,17 イエスは罪人の良心に悔い改めを強く求め、使者を送って忠告し、警告し、困難が彼らを拘束することさえ許しておられますが、彼らが道の中を歩むことを妨げることはありません。あなたがそうする決意をしているのであれば、あなたの意志に反する道を歩むこともできます。

しかし、それは人間に悪いことを選択させるのと同じように、良い道を選択し、良い行いをする権利も保証していることに注目する価値があります。この一例として、イエスの足に油を注いだ女性、マリアの場合があります。彼の話を考えてみましょう。「そして、彼（イエス）がベタニアにいて、らい病のシモンの家の食卓に座っていたとき、一人の女性がやって来て、非常に高価な純粋なスパイクナードの軟膏のアラバスターの瓶を持って、器を割った。すると、内心憤慨して言った者もいた、「なぜこんな無駄な軟膏を作ったのだろう？なぜなら、それは三百貨（またはデナリ）以上で売れるのに、それを誰かに与えたのだ」「彼女を放っておいてください。なぜ彼女を煩わすのですか。彼女は私のために良い働きをしてくれました。あなたはいつも貧しい人たちと一緒にいるのですから、いつでも彼らに良いことをすることができるのです」あなたはそう望んでいますが、あなたはいつも私を持っていただけではありません。彼女はできる限りのことをしました。埋葬のために私の体に油を塗るために前もって行ったのです。この福音が宣べ伝えられている世界のあらゆる場所で、私はあなたに真実に言います。彼女がしたことと彼女の記憶としてカウントされるでしょう。」マルコ 14:3-9。

マリアは救い主への愛で心を満たしており、手の届く範囲で最大の賛辞を救い主に捧げたいと願いました。これを行うために、彼は約 300 デナリ相当の香水を購入しました。これは当時、300 日またはほぼ 1 年分の仕事の支払いに相当しました。しかし、彼女が貴重な軟膏をマスターの足に注いだとき、彼女は客たちから反対されました。しかし、その気まずい状況に戸惑いながらも、

彼は自分を擁護する救い主の声を聞いた、「彼女を放っておけ」。イエスの言葉は、父なる神ご自身の言葉を表現したものでした。イエスはかつてこう言いました、「わたしが語ることは、父がわたしに語られたとおりに語る。」ヨハネ12:50。したがって、神はキリストを通して、ローマ人への手紙の表現を借りれば、神は「マリアに彼女の純粋な感情を与えた」のです。そして、地球上の他のすべての人々も同様に救出、または保護することができたはずですが。イエスを信じ、良い道を歩むことを選びました。

悲しいことに、ほとんどの人は「神についての知識を持つことに関心がなかった」のです。そして、神はその嘆願を決定的に拒否された後、彼らに自らの道を歩むように引き渡されました。  
知識 - 悪いもの。

ローマ人への手紙 1 章の本文は、前の節で述べられたことに基づいた明らかな結論を提示して終わります。人間は神の愛と、他者に仕え、助けるために生きる知恵を知っていて、それでも悪を行おうと決心するので、どういふわけか神の御心が何であるかを知っており、神があなたの悪いやり方を罰してくれるという直観を持っています。ローマ人の言葉を借りれば、「(そのようなことをする者は死刑に値するという)神の裁きを知っているので、彼らはそれを行うだけでなく、それを行う者に同意する」のです。

## ローマ人への手紙 2

「したがって、おお、あなたが誰であろうと、あなたが裁くことは許しがたいことです。なぜなら、あなたは他人を裁くことによって自分自身を有罪としているからです。裁くあなたも同じことをしているからです。そして、私たちは神の裁きが、裁く者たちに対する真実に従っていることを知っています。」」ロマ書 2:1-3

神が自分をどのように見ているかについての直観について話すときに、人々が次のように言うのをよく聞きます。「私は誰も傷つけず、他の人を助けます。だから神の前で私は認められると信じています。」あるいは、「重要なことは、すべてのことについて常に神に感謝することだ」とさえ言えます。あたかも、毎日受けている祝福に感謝するという行為が、悪い行いに対する一種の悔い改めの役割を果たしているかのように、最初のものを受け取ることで、神はその恩恵を見逃してくれるでしょう。最後。比喩的に言えば、自己評価という「名誉の台座」に座っている人は、他人の悪い行為を比較的安心して非難することができます。「私にも欠点はあるし、あれやこれやをしているが、この人のやっていることはやりすぎだ！」などの表現。

ローマ人への手紙によると、これらの表現の正しい読み方は次のようなものです。「私の罪はそれほど深刻ではありませんが、隣人の罪は非常に大きいので、私はそれを容認できません。」間違いのない言葉

神はこのスピーチの偽善を次の言葉で非難しています。「ですから、おお、あなたが誰であれ、あなたが裁くとき、あなたは許しがたいのです。なぜなら、あなたは他人を裁くことで自分自身を非難しているのですから。裁くあなたも同じことをしているのです。そして、「私たちは、そのようなことをする者に対する神の裁きが真理に基づいていることをよく知っています。そして、おお、そのようなことをする者を裁くあなたは、そのようなことをすることで神の裁きを逃れられると思いますか？」使徒ヤコブは靈感を受けて、「善を行う方法を知っていながらそれを行わない者は罪を犯します」ヤコブ 4 :17 と書きました。他者を見て非難するほど善悪の区別を明確に識別できる人は、「隣人を測るために用いる物差しによって」正義をもって裁かれることができ、またそうされるべきである。あなた自身を彼らはあなたを測るでしょう」 3月4:24。神は、何が良い道であるかについて自分が受けた理解に応じて、それぞれの人を裁かれるでしょう。この事実については、後のローマ人への手紙 2 章 12 節から 15 節の解説で詳しく取り上げられます。

「それとも、神の慈しみがあなたを悔い改めに導くことを知らずに、神の慈しみと忍耐と辛抱強さの豊かさを軽蔑するのか。しかし、あなたのかたくなさと悔い改めの心に応じて、あなたは怒りの日に自分のために怒りを蓄えることになる。神の裁きの現れであり、神はその行いに応じて各人に報いる、すなわち、善を行うことを粘り強く求める者には永遠の命を、しかし論争を起こし、真理に従わない者には憤りと怒りを与えるであろう。不法行為に従順です」ローマ 2:4-8。

神は毎日さまざまな方法で優しさを表します。詩篇作者は、その中のいくつかを挙げて次のように認識しました。

奇跡だけを行う者。神の愛ある親切は永遠に続くからです。理解によって天を造られた方。神の愛ある親切は永遠に続くからです。地を水の上に広げた者。神の愛ある親切は永遠に続くからです。偉大な著名人を生み出した人。神の慈愛は永遠に続くからである。一日中支配する太陽。神の慈愛は永遠に続くからである。夜を司る月と星。なぜなら、主の慈愛は永遠に続くからです…主は私たちの卑劣さを覚えておられたのです。神の慈愛は永遠に続くからである。そして私たちを敵から救い出してくれました。神の慈愛は永遠に続くからである。それはすべての肉に栄養を与えます。神の愛ある親切は永遠に続くからです。天の神を讃美します。その愛ある親切は永遠に続くからである」 詩 136:3-26。神の親切が示されるたびに、私たちの心に多かれ少なかれ印象が残ります。これはそれに対する私たちの態度次第です。

私たちは神の慈しみに深い感銘を受けることもあれば、まったく無関心になることもできます。受け入れるか抵抗するかという私たちの態度によって、私たちが心の中で神に許してくださる働きの深さが決まります。

御父がご自身の善性を示したすべての中で、最も偉大なものは、私たちを救うために御子イエス・キリストの命を捧げたことでした。「神はご自分の独り子をお与えになったほどに世を愛されました。それは、神を信じる者が滅びずに永遠の命を持つためです。」ヨハネ3:16 「しかし、神は、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことで、私たちに対する愛を明らかにしてくださいました。」ローマ 5:8 私たちが神の慈しみを認識し、神の霊の触れ合いに抵抗しないとき、使徒パウロは、神の子供たちは皆多かれ少なかれ経験しているこの経験を、テトスに書いた手紙の中で次のように報告しています。「神の憐れみは、私たちの救い主イエス・キリストを通して私たちに豊かに注がれた聖霊の再生と再生によって私たちを救ってくださいました。」テトス 3:4-6。また、ローマ人への手紙の後半でこう宣言しています。「神の愛は、私たちに与えられた聖霊を通して、私たちの心の中に注がれています。なぜなら、キリストは、私たちがまだ弱いときに、不敬虔な者たちのために、しかるべき時に死んでくださったからです。義人のために死ぬのはただ一人だけだからです。というのは、善のために敢えて死を選ぶ人もいられるかもしれないからだ。しかし、神は、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことによって、私たちに対するご自身の愛を明らかにしてくださいました。」ローマ 5:5-8。「神の優しさはあなたを悔い改めに導きます。」神は聖霊を通して、私たちに対するご自身の優しさの啓示によって私たちに感動を与えようと常に努めておられます。

したがって、それは私たちに利己主義に動機づけられた習慣や思考習慣を悔い改めさせ、私たちの心を変えることを求めています。私たちの悔い改めの深さは、私たちに対する神の慈しみに対する私たちの認識に比例します。あるいは、別の言い方をすれば、それは神の霊の影響に屈する私たちの意欲に比例するということです。私たちを悔い改めに導く働きはすべて神のものであり、妨げられるのは私たちの抵抗、つまり「頑さ」によってのみです。

しかし、人間は永遠に神の影響に抵抗し、罰を受けずにいることはできないことに注意すべきです。「罪の対価は死である」ロマ 16:30 6時23分。私たちの心の中の神の触れ合いは、次のメッセージと一致しています：「神は、無知の時代を無視して、今、どこにいてもすべての人に悔い改めを告げています。なぜなら、神は、ご自身が愛する人を通して正義をもって世界を裁く日を定めておられるからです。」使徒 17:30,31 したがって、神の霊に常に触れることで敏感になることを許さないすべての人にとって、次のような警告があります。「あなたのかたくなさと悔い改めの心に従って、あなたは神の怒りの日と神の裁きの現れに自分自身のために怒りを蓄えます。誰でも自分の行いに応じて報いを与えてくれる。すなわち、粘り強く善を行い、栄光、名誉、不朽を求める者には永遠の命が与えられる。しかし、論争を起こし、真理に不従順で、不法行為に従順な者たちに対する憤りと怒りである。」この聖句は終わりの日に神が何をなさるかを指摘しています。それから神は悪人たちに怒りを注ぎ、容赦なく彼らを石で打ち殺すだろう：「私は天にもう一つの偉大で驚くべきしるしを見た。最後の七つの災いを持った七人の天使だ。彼らの中で神の怒りが成し遂げられたからである…そして第七の天使がその杯を空中に注ぎ出すと、天の神殿、玉座から大きな声が聞こえた、こう言った、「これは終わった…そして大いなるバビロンは思い出した」

神よ、彼の怒りの憤りを表すワインの杯を彼に与えてください...そして、大いなる雹が天から人々の上に降り注ぎ、石の重さは1タラント(または34キロ)でした。そして人々は雹の災いのために神を冒涇した。彼の疫病が非常にひどかったからである。(黙示録 15:1,16:17,19,21)。今日、その刑罰は誇張されているように見える人もいるかもしれないが、その刑罰が履行される時には、地球上で犯されるであろう悪を考慮すると、それは適切であり当然のものであるとみなされるだろう。

「悪を行う者のすべての魂には艱難と苦悩が降りかかる、まずユダヤ人に、そしてギリシャ人にも。しかし、善を行うすべての人には、まずユダヤ人に、そしてギリシャ人にも、栄光と名誉と平和が、神に降りかかるからである」、人間に対する敬意がありません。」ロマ 2:9,10。

2人が同じ車でサンパウロからリオまで旅行していると仮定します。

1月の。そのうちの一人だけが道を知っています。走行中に車が正しい道路から外れた場合、道を知っている人が最初に気づきます。彼女のパートナーは何が起こっているのかまだ気づいていませんが、彼女は心配し始めます。これは神の律法に関して現実に起こっていることです。戒めを知っていながらそこから逸脱する人は、その誤りを知っているので、無知で歩む人よりも心配し、苦悩します。神の霊はあなたの罪を有罪とします。逆に、無知な人は、自分の間違いを知られるまで、良心を気にすることなく道を歩み続けます。聖書は、神は「無知の時代を顧みない」と述べていますが、一方で神はご自身の霊によって世界に「罪」を有罪と宣告します(使徒17:30、ヨハネ16:8)。悪を行う者に降りかかる「苦しみ」が起こります。最初はユダヤ人に、次にギリシャ人に。最初の人には成文された神の律法、つまり十戒を知っていましたが、二番目の人は知りませんでした。一方で、同様に「栄光、しかし、栄光と平和がもたらされる」善を行った者は「まずユダヤ人に」与えられ、次にギリシャ人に与えられます。なぜなら、律法を知っている人は誰でも、律法を無視する人よりも先に、神の道が神に承認されているという知識を持っており、したがって感覚を持っているからです。彼は自分の道が正しいと完全に確信していますが、法を無視する者は、直感によって、したがって確実性なしに正しいことを行うように導く神の霊の触れ合いに服従します。したがって、神の律法を知っていることは有益です。詩編作者はこう言います。「あなたの律法を愛する者には大きな平和があり、彼らにはつまずきの石はありません。」詩 119:165。

不従順の道を歩むことから生じる「艱難」もまた、神の律法を無視する者ではなく、神の律法を知っている者に降りかかります。ローマ人への手紙の言葉では、「まずユダヤ人に、そしてギリシャ人にも」となります。神は、意識的に罪を犯した人たちに最初に艱難が降りかかるように状況を管理されます。この一例は、カナンに向かうイスラエルの人々の軌跡の歴史に見られます。聖書には二つのことについて言及されています

イスラエル人が神に導かれて砂漠を通してカナンに向かうときに肉を求めたときの事です。イエスが彼らのそれぞれの要求に対処した方法は、まったく異なっていました。

最初のはエリムにあり、神が彼らの食物として意図していたパン、つまりマナを彼らに知らせる前でした。それから彼らは言った、「もし私たちがエジプトの地で、肉鍋のそばに座って、お腹いっぱいパンを食べたときに、主の手によって死んでいればよかった！」出エジプト記 16:3 それに対し、イエスは彼らが望んでいた肉を与え、モーセに言われた、「わたしはイスラエルの子らのつぶやきを聞いた。彼らにこう言ってください。「二晩の間に、あなたたちは肉を食べるでしょう…そして、夕方にはウズラがやって来て野営地を覆ったのです。」 16:12,13 同じ機会に、イエスは彼らの食生活を変えて肉抜ききの食事を与えたいというご意志を明らかにされ、次のように述べられました。それを集めなさい、毎日の日ごとの分、彼がわたしの律法に従って歩むかどうかを証明できるように…そして露が降るとき

彼が立ち上がると、見よ、砂漠の表面に、地面の霜と同じくらい小さな丸いものがあった。イスラエルの人々はそれを見て、互いに言い合った、「これは何だろう？」彼らはそれが何なのか知らなかったからです。そこでモーセは彼らに言った、「これは主があなたがたに食べるように与えられたパンです。」 16:3,14,15。「神は彼らを天からのパンで満たしました」詩 105:40。

神の御心を知った後、イスラエル人は再び肉を求めました。「そして、彼らの中にいた一般の人々は大きな願いを抱いていました。そしてイスラエルの子らは再び泣きながら言いました、「誰が私たちに食べる肉を与えてくれるのですか？ 私たちは覚えています。」」 . 11:4-6. 主はこう言われました。

モーセ：「あなたは民にこう言うだろう。……あなたが主の御耳で叫んで『誰が私たちに肉を与えて食べさせてくれるのか。私たちはエジプトでうまくやっていたのだから。だから主はあなたに肉を与えてくださるだろう。そして、あなたは一ヶ月間、それがあなたの鼻の穴から出てくるまで、飽きるまで食べるでしょう、なぜならあなたはあなたたちの中にいる主を拒否し、彼の前で泣いてこう言ったからです。エジプト？…それから民は立ち上がって…ウズラを集めて…陣営の周りに広げた。肉が歯の間に挟まったとき、噛む前に主の怒りが民に対して燃え上がり、彼は主を打ち殺した。民 11:18,20,31-33 この出来事について詩編作者は次のように述べています。「わたしたちは彼らの食欲を抑えませんでした。神の怒りが彼らに臨み、彼らの中で最も強い者を殺し、イスラエルの選ばれた者たちを打ち倒したとき、食物はまだ彼らの口の中にあった。」

するものとする。 78:30,31。

イエスは言われた、「主人の意志を知っていながら、自ら準備をしなかったし、主人の意志に従って行動しなかった僕は多くの打ち打ちを受けますが、それを知らずに打ち打ちに値することをした者は罰せられます」そして、多くを与えられた者には、多くが与えられるでしょう。



多くのことを託された人は、さらに多くのことを彼に求めます。」リユック。 12:47,48。社会は最高の教育を受けた子供よりもその機会がなかった子供に高い期待を抱いています。より多くの教育を受けた人に、より多くのことを期待するのは当然です。神もそのように見えています。イエスは、当時最も偉大な律法の専門家、つまり聖書を写した律法学者たちは、不従順のゆえに他の律法学者よりも大きな罰を受けるであろう、と宣言されました。「市場、シナゴグの主席、宴会の主席、彼らは口実のために長い祈りを捧げて未亡人の家をむさぼり食う。これらの人々はより大きな非難を受けるだろう。」ルカ。

20:46,47。神聖な歴史に関するこれらの記録は、客観的な実践的な教訓として役立つはずですが。「さて、これらすべてのことは数字として彼らに伝わった。そして、それらは時代の終わりが来た私たちの警告のために書かれたのである。だから、自分が立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。」(1コリント) . 10:11、12、ロマ 2:10) 。

「律法なしに罪を犯した人は皆、律法がなくても滅びます。また、律法の下で罪を犯した人は皆、律法によって裁かれるからです。律法を聞く人は神の前に義人ではありませんが、律法を行う人は義となるからです」なぜなら、律法を持たない異邦人が、律法を持っていないにもかかわらず、自然に律法に属することをを行うとき、彼らは彼ら自身にとって律法であり、心に書かれた律法の働きを示しているからです。「良心も証人となる。彼らを告発するか弁護するかにかかわらず、彼らの考えも証人となる。その日、神は私の福音に従って、イエス・キリストによって人間の秘密を裁かれるだろう。」ローマ 2:9-16

十戒の律法は、神がすべての人を裁くときの正義の基準です。「これまでに聞いたことの結論は、神を恐れ、神の戒めを守れということだ。これがすべての人間の義務だからだ。神はすべての行い、そして善悪を問わず、すべての秘密を裁かれるからである。」 Eccl 12:13,14。

法律を知っている人が法律によって裁かれることは当然のことです。ローマ人への手紙の本文には、「律法の下で罪を犯した者は皆、律法によって裁かれる」と書かれていますが、そこには「律法なしに罪を犯した者も律法なしで滅びる」という、一見するとあまり論理的とは思えない概念が導入されています。「律法を知らない人が、どうして罪を犯したために死ぬことができますか？これを理解するには、「罪」とは何かを思い出すだけで十分です。「罪とは律法を犯すことです」ヨハネ第一 3:4。法律を知らない人は法律を知っていますが、それに違反すれば罪を犯します。法律を知らなくても、間違いが正しさに変わるわけではありません。概念をより明確にするために、例として「盗んではいけない」という戒めを示します。その範囲の一部はマラキの言葉に詳しく述べられています。「人は神を盗むだろうか？それなのに、あなたがたはわたしから盗んで、「わたしたちはあなたから何を盗んだのですか」と言う。十分の一献金と献金で」マラ 3:8。この詩自体の中で、

メッセージ受信者。彼らは言います、「私たちはあなたから何を奪ったのですか？」しかし神は依然として彼らを「十分の一の献金と捧げ物で」盗む者であると宣言しておられます。

しかし、その場合、神は人間が何も知らない義務で人間を裁くのは不当だろうか。

これはそうではありません。神が御霊を通して人々に感銘を与え、何が正しくて何が間違っているかについて人々の良心に触れ、神の旨を明らかにされることが起こります。これが、神の戒めを一度も読んだことがない人でも、例えば姦淫が罪であることを認識する理由です。聖書は「律法は真理である」と詩 119:142 に述べています。そして神の霊は私たちを「すべての真実に」導きます

ヨハネ 16:13。したがって、霊はすべての人に戒めの知識をもたらします。主がアブラハムについて「わたしの声に従い、わたしの命令、わたしの戒め、わたしの法令、わたしの律法を守った」と語られたのはこの意味である（創世記 26:5）。彼は神が十戒を人々に与えられる前に 400 年以上生きていました。モーセ。二枚の石板にそれが書かれているのを見ませんでした。では、どうやってそれらを保管したのですか。彼は主が彼に与えられた指示に従い、自分の石板に触れました。

精神を通しての意識。

したがって、十戒について聞いたことのない人であっても、キリストの霊が罪を良心に啓示した割合に応じて、誰もが罪を認識しています。したがって、神が与えた律法の知識の程度によって各人を判断するのは、神の側としては公平なことである。これは、「律法なしに罪を犯した者は皆、律法なしでも滅びる」という表現によって伝えられる真理です。

したがって、私たちは、十戒の文字を知っているかどうかにかかわらず、神の霊が彼らに与えた理解に応じて、すべての人は同じように裁かれるだろうと結論付けます。言い換えれば、各人はアクセスできた神の意志に関して光によって裁かれることになります。

神聖な霊が意識に触れることが自分の「直観」であると考え人もいます。直観は、それが神の律法の精神と文言と一致する場合にのみ、安全な指針となります。そうでないと、それは罪を犯しがちな人間の、肉体の利己的な欲望に過ぎないでしょう。「肉の心は神に対する敵意です。それは神の律法に従わないからです。また、実際、そうすることはできません。」ローマ 8:7。

本題に戻ると、知識の有無にかかわらず、すべての人は律法に支配されているという概念があり、これは使徒パウロ自身が次の節で拡張しています。なぜなら、律法を持たない異邦人が、律法を持っていないくても、自然に律法に属することを行うとき、彼らは彼ら自身にとって律法であり、律法に書かれた律法の働きを示しているからです。彼らの心、彼らの良心と彼らの考えを共に証言し、彼らを告発するか擁護するかにかかわらず、神が私の福音に従ってイエス・キリストによって人間の秘密を裁かれるその日に。

裁きの日、各人は、いつ、どこで、なぜ神のご意志を行うことを受け入れたのか、拒否したのかを知るようになります。

このことを知っているのです、私たちは今日、神が私たちの良心に与えて下さるタッチに対して非常に真剣に行動し、神が私たちを救ってくださるように神の御心に従うことを選択しなければなりません。「今日、神の声に耳を傾けるなら、心をかたくなにしないでください。」ヘブライ 3:15。

「見よ、ユダヤ人と名付けられたあなたがたは、律法に安らぎ、神を誇り、神の御心を知り、律法の教えを受けて優れた事柄を認め、自分が盲人の導き手であると信頼しなさい。暗闇の中にいる人々への光、愚かな者の教師、子供の教師、律法の知識と真理の形を持った人、他人を教えるあなた、自分自身を教えないのですか、盗んではいけないと説くあなた、「あなたがたは、盗みをするのですか。姦淫してはならないと言うあなたがたは、姦淫をしますか。偶像を憎むあなたがたは、冒涇を犯しますか。律法を誇るあなたがたは、律法に違反して神の名誉を傷つけるのでしょうか。」

書いてあるとおり、あなたのせいで神の御名が異邦人の間で冒涇されているからです。」ロム。 2:17-24。

ユダヤ人は「法の民」でした。主はシナイ山でモーセに十戒を与えられました。彼は下って来てイスラエル人に教えました。それ以来、彼らは神の啓示された意志を記録したこの文書の管理者となりました。

何世紀にもわたって、イスラエルの 10 部族が背教し、アッシリア人に捕らえられ、国外に追放され、さまざまな国に散り散りになりました (列王記下 17 章)。ユダ族とベニヤミン族はカナンの地に残りました。ユダは最も強く、最も数の多い部族であり、神はこの部族が今後も有力であると約束されました。「シャイロ (シロとはキリストのこと) が来るまで、王笏はユダから離れず、立法者もその足の間から離れることはない」と彼は言いました。 49:10。したがって、新約聖書の時代、カナンの地にはさまざまな部族の人々が住んでいましたが、イスラエルの子孫は「ユダヤ人」として知られていました。ローマ人への手紙の筆者である使徒パウロ自身も「ベニヤミン族の出身」でした (フィリピ 3:5)。しかし、ローマ人への手紙の中で、彼は当時のイスラエル人を「ユダヤ人」と呼ぶことがあります (例 :ローマ 3:1)。したがって、ローマ人への手紙における「ユダヤ人」という用語は、ユダの子孫だけを指すわけではないことがわかります。そして、パウロが新約聖書の時代にこれらの行を書いたように、それらが私たちの時代まで続くキリスト教の摂理内で律法を教えられたすべての人々をカバーしていることは明らかです。、そしてキリストの再臨にまで進みます。

律法を知っている人は皆、今日でも、自分たちが「ユダヤ人」という言葉によって識別されていると考えています。

律法を知っている人は誰でも、自分たちの人生に対する神の啓示されたご意志が何であるかを知っています。したがって、彼らには、自分たちが持つ啓蒙に応じて従順を提供するという明確な義務が課せられています。ローマ人への手紙では、神は受けた教えのおかげで隣人の間違いを認識しながらも完全な従順を示さない人を欠陥があると指摘しています。「あなたは自分自身を教えません

本当ですか？...律法を誇っているあなたは、律法に違反して神の名誉を傷つけるのですか？書いてあるとおり、あなたのせいで神の御名が異邦人の間で冒瀆されているからです。」

真実を公言しながらそれに従わない人々の偽りの証言によって、どれほど多くの人が天国への道を遮られたかが永遠に分かるでしょう。あなたの行為は他人をスキャンダルにします。

イエスはこう言われました。この小さな子供たちがつまずくよりは、石臼を首に掛けられて海に投げ込まれた方が彼にとっては良いでしょう。」リュック。 17:1,2。そしてイエスは、自分の行動が他の人を最も強調した言葉で傷つけないように自分を守るよう勧めています。なぜなら、あなたの全身が地獄に投げ込まれるよりも、あなたのメンバーの一人が減る方があなたにとって良いからです。「もしあなたの右手があなたを怒らせるなら、それを切り取ってあなたから投げ捨てなさい。あなたの体全体が地獄に投げ込まれるよりも、あなたの体の一部が減る方があなたにとって良いからです。」マタイ 5:29,30。そうでない場合。あなたのせいで神の御名が異邦人の間で冒瀆されています。」

「というのは、律法を守るのであれば、確かに割礼は有益である。しかし、もしあなたが律法を犯したなら、あなたの割礼は無割礼となる。したがって、無割礼が律法の要求を守っているのであれば、おそらく無割礼は割礼とみなされないであろう。そして、無割礼は、律法を満たしているなら、それは本質的にそうなのですが、文字と割礼によって律法の違反者であるあなたを裁くことにはならないでしょうか？外見上ユダヤ人ではない人はユダヤ人ではなく、割礼を受けてもユダヤ人ではありません。」ロマ 2:25-29。

神はアブラハムと契約を結んだとき、肉において行われるしるしを彼に与えました。それは記憶であり、彼が表現した霊的現実の象徴となります。「これはわたしの契約である。あなたがたが、わたしとあなた、そしてあなたの後の子孫との間で守るべきである。それは、あなたがたの男子は皆、割礼を受けなければならないということである。」創世記 17:10 包皮の肉の一部を切り落とす。

この儀式を行うには、通常、石のナイフが使用されました。ある時、「主はヨシュアに言われた、『石でナイフを作り、イスラエルの子らに二度目の割礼をしなさい』」とジョセフは言いました。 5:2。石はキリストを表していました。「そしてその石はキリストでした」コリント 10:4 (エペソ 2:20 も参照)。したがって、肉を切る儀式は、キリストを通して私たちの内から罪を取り除く、または（切る）という神の約束を表していました。神は聖霊を送って私たちの心の中に働いて、利己心を取り除き、神への愛と忠誠を植え付けて下さるのです。精神、肉に対して、それらは互いに反対であるため。やりたいことをやらないように。しかし、もしあなたが御霊に導かれているなら、あなたは律法の下にいません。さて、

肉の業は知られており、淫行、不純、好色、偶像崇拜、魔術、敵意、争い、嫉妬、怒り、不和、不和、派閥、羨望、酩酊、暴食、およびこれらに類するものについて、私はあなたに宣言します。以前に警告したように、そのようなことを実践する者は神の国を受け継ぐことはできません。しかし、霊の実は、愛、喜び、平和、辛抱強さ、優しさ、善良さ、忠実さ、優しさ、自制心です。そのようなものを禁止する法律はありません。そして、キリスト・イエスに属する者たちは、その情熱と欲望のままに肉を十字架につけました。」ギャル。 4:6; 5:17-24。言い換えれば、霊が私たちの心の中で働いた結果、私たちは十戒の律法に従順になるのです。したがって、霊の実に対する「法律はありません」。霊が私たちの中で行う働きは霊と調和しています。

したがって、肉の割礼の儀式は、私たちの生活の中でキリストによって行われた真の割礼、つまり神の霊によって行われた真の割礼を象徴するために神によって与えられたものであることに留意すべきです。そしてそれは真のものであり、私たちの心から罪を取り除き、神に従順に生きるようにしてくれる唯一のものです。したがって、私たちは従順が私たちの内にある神の霊の働きの結果であることを理解しています。それはキリストがなさる御業です。この働きにおける私たちの役割は、キリストを信じ、キリストに働きをしていただくことです。私たちで。

真の割礼は、キリストの霊を通して私たちを神の律法に従順にするためのキリストの働きです。パウロは、「わたしたちは割礼を受けており、霊において神に仕えているのです」と言いました。3:3。彼の精神は私たちの邪悪な傾向を断ち切る「ナイフ」です。誰かが肉体的に割礼を受けていても、心をかたくなにし、神の霊によって変えられることを許さなかったとしたら、その人の肉体的な割礼は無価値になるでしょう。なぜなら、彼は神に対して敵対し、神の戒めに違反することになるからです。一方、肉体的には割礼を受けていなくても、感受性があり、キリストが霊を通して心を変えることを許す人は、真に割礼を受けることになります。

本当の割礼は霊的なものであり、私たちの心の中で起こるものであり、目には見えません。肉体ではありません。肉の儀式は、キリストがその信仰に応じてその生涯において遂行する働きを人々に理解させるための外面的な儀式にすぎなかった。したがって、肉の割礼を受けても、真の霊的な割礼を受ける保証はありませんでした。そして、これがパウロが宣言していることです：「律法を守るなら、割礼は確かに有益だからです。」（ローマ 2:25）キリストが真の割礼を行うことを許すなら、肉体における割礼はその人にとってある程度の利益になります。なぜなら、自分の肉体を見ることによって、自分の心の中で起こっている働きを理解できるからです。

2:25)。律法に従わない人は誰でも、心の中でキリストが働きを実行することを許可しなかったという証拠を自分の中に持っています。キリストは真の割礼を持っておらず、御霊によって私たちを従わせる

のはキリストです。肉に割礼を施すために使われた石のナイフが人間の中に存在する悪を取り除くことから程遠いものと同じように、私たちの働きは私たちの心を変えるには程遠いのです。私たちのあらゆる努力は、肉体的であれ、精神的であれ、この仕事には何の役にも立ちません。それはすべて天のエージェントによって実行されます。私たちの役割はそれを信じることです

キリストは私たちが従順にする働きをしてください。イスラエル人が「神の業を行うには何をしたらよいでしょうか？」と尋ねたとき、イエスは答えて彼らに言われた、「これは神の業です。あなたがたは神が遣わした方（キリスト）を信じることです。」ヨハネ 6:28,29 「どうすれば神の戒めに従えばよいでしょうか？」という質問には、次の答えが見つかります：「キリストがあなたを従わせてください。」預言者イザヤはこの真理を認識し、こう宣言しました。「あなたは、私たちのすべての御業を私たちのうちになさってくださいましたものなのです。」イザヤ26:12 したがって、「主イエスを信じなさい。そうすればあなたは救われます」。

罪（使徒 16:31）。神はあなたを義のうちに歩ませてくださるでしょう！

ローマ人への手紙 2 章の要点に戻ると、パウロの残りの言葉は、人が真の割礼を受けた証拠は神への従順であることを示しています。

十戒に書かれている律法についての知識のレベルに関係なく。キリストを信じる者は誰でも従順になります。なぜなら、「キリスト・イエスは…忠実であり続けます。彼は自分自身を否定することはできません」 2テモテ 2:13。たとえ十戒という成文化された律法をまだ知らなくても、キリストの霊が良心に触れることに敏感な人は、徐々にキリストによってその原則に従うように導かれるでしょう。このことから、「では、もし割礼を受けていない人たち（肉体的に割礼を受けていない人たちが）律法の戒めを守っているなら、割礼を受けていないことも割礼とみなされるのではないか（彼らは従順であるときみなされるだろうか）」ということが分かります。そして、生まれつきの無割礼（回心したが肉体的には割礼を受けていない人）は、それが律法を満たしているのであれば、あなたを裁くことはない、文字と割礼によって誰が律法の違反者なのか？」ロム。 2:26,27。

聖書は、罪と正義との間の争いの終わりに、聖人が悪人を裁くと教えています。「そして私は玉座を見た。そして彼らはその上に座り、裁く力が彼らに与えられた。そして私は彼らの魂を見た。彼らはイエスの証しと神の言葉のゆえに斬首され、獣もその像も崇拜せず、顔にも手にも印も受けず、彼らは生きてキリストとともに統治した。そして「裁きにおいてあなたに対して立ち上がるすべての舌をあなたは非難するでしょう。これは主の僕たちの相続地であり、彼らの義はわたしから来る、と主は言われる」（黙示録20:4、イザヤ書54:17）。

この章の議論の締めくくりとして、パウロは、神が人間をどのように見るかについての重要な教訓を教えるためにユダヤ人が割礼を受けていたことが知られているという事実を探ります。真の割礼は霊の割礼であるため、彼は霊的な意味で真のユダヤ人であり、キリストに霊によって導かれていると理解するのは正しいことです。そしてこれは、肉体的に割礼を受けているかどうかには関係ありません。パウロはこのことを次の言葉で表現しています。「というのは、彼は外見的にユダヤ人ではないし、また、割礼は肉体において外面的にユダヤ人ではないからです。しかし、彼は内面においてユダヤ人であり、割礼は体からのユダヤ人です。「手紙ではなく、心、霊において、その賛美は人からではなく神からのものである。」ローマ 2:28,29。アーメン、そのとおりです。

### ローマ人への手紙 3

「それでは、ユダヤ人には何の利点があるのでしょうか？あるいは、割礼は何の役に立つのでしょうか。あらゆる点で、まず第一に、神の言葉がユダヤ人に委ねられているからです。」ローマ 3:1,2

イスラエル人は、人間に対する神の意志の書面による啓示の保管庫として神によって選ばれる特権を持っていました。聖書は彼らの言語で入手可能であり、神は神の言葉の意味を理解して人々に教えるための手段を提供されました。彼はこの目的を果たすために部族全体、レビを任命しました。神はこの呼びかけを「レビの契約」と呼びます マラ 2:8 この部族から、モーセの兄弟アロンの子孫の中から祭司たちが出ました。そして人々は彼の口から律法を求めなければなりません。彼は万軍の主の使者だからです。」 マラ 2:7。このように、イスラエル人は神の意志の記録と啓示を自由に手に入れることができました。この意味で、彼らは他のすべての人々よりも恵まれていました。

もし彼らが学ぶことに興味を持ち、信仰を持って神の言葉を受け入れたなら、イスラエル人は世界にとって祝福となるでしょう。彼らは幸福な民となり、神への従順によって得られる祝福の生きた模範となるとともに、あらゆる国、部族、言語、人々に福音と神の律法を解説する者となるでしょう。彼に関して次の言葉が成就するであろう。「そして、もしあなたがあなたの神、主の声に耳を傾け、今日私があなたに命じるすべての戒めを注意深く守るならば、あなたの神、主はあなたを高めてくださるであろう。」そして、あなたがあなたの神、主の声を聞くとき、これらすべての祝福があなたに降りかかり、あなたを襲うでしょう :あなたは都市にいても祝福されます、あなたは野にも祝福されます。「主はあなたに向かって立ち上がるあなたの敵を、あなたの前で打たれて救い出します。彼らは一方向ではあなたに向かって出てきますが、七つの方法ではあなたの前から逃げます。主はあなたの中にあなたとともにあるように祝福を命じられます。」納屋も、あなたが手をかざすすべてのことにおいても、主はあなたの神があなたに与える土地であなたを祝福してくださいます。あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩みなさい。そして地上のすべての民は、主の御名があなたに呼ばれているのを見て、あなたを畏れ、主はあなたを頭とされるでしょう。「私が今日あなたに命じる、あなたの神、主の戒めに従うなら、あなたは下ではなく上に立つことができます。そして、それを守り実行するように。」 Deut. 28:1-13.すると、「ある町の住民は別の町に行き、『急いで主の恵みを願ひ、万軍の主を求めよう。わたしも行く』と言うだろう。

非常に多くの民族や強大な国々がエルサレムに来て、万軍の主を求め、主の恵みを懇願するでしょう。万軍の主はこう言われる、「その日、あらゆる国の言語から来た十人がユダヤ人の着物の裾を掴み、『わたしたちはあなたと一緒にいきます』と言うであろう」なぜなら、神があなたとともにおられると聞いたからです。』 ザック、 8:21-23。 "その時

彼らはエルサレムを主の御座と呼び、すべての国々がエルサレムの主の御名によってそこに集められます。そうすれば彼らはもはや自分たちの邪悪な心の目的に従って歩むことはないでしょう。」 3:17。これらすべての約束は果たされる可能性がありましたが、古代イスラエル人の不信仰と頑固さのために果たされませんでした。

「何のために？もし不信者がいるとしたら、その不信仰が神の忠実さを打ち砕くだろうか？決してそんなことはない。神は常に真実であり、人は皆嘘つきであるようにしなさい。書かれているように、あなたが御言葉によって義とされ、克服されるためである」あなたが裁かれるとき」ローマ 3:3,4。

残念なことに、ユダヤ人たちは、彼らに託された聖書の中で告げられた救世主、つまりすべての神の祝福が彼らに与えられるはずだった救世主を拒否しました。「はい、そして彼を通してアーメン」2コリント1:19,20。彼らは「栄光の主」を十字架につけました（1コリント2:8、使徒2:36）。イスラエル人はキリストを通してのみ、託された戒めに従うことができました。イエスは、「わたしなしではあなたは何もできない」と言いました（ヨハネ 15:5）。彼らは神を拒絶することによって神の力を奪われ、罪の道を歩みました。すでに旧約聖書の時代に祭司たちに語られた次の言葉も、キリストの復活後に真実であることが証明されました。「あなたは道から外れ、多くの人を律法からつまずかせ、レビ契約を汚した」「万軍の主は言われる。」 マラ 2:8 また民について神は、「あなたがたの先祖の時代以来、わたしの掟に背を向け、それを守らなかった。」 マラ 3:7 とも言われました。このため、神の約束はイスラエル国民に対して果たされることができませんでした。

しかし、神は依然として地上に忠実な民を有しており、従順な人々に対する神の祝福の約束は、神の真の教会の経験の中で成就されるでしょう。「キリストは教会を愛し、彼女のために身をささげて、彼女を聖別し、言葉によって水の洗いによって彼女を清め、シミやしわなど何もなく、聖なる、輝かしい教会を彼女に差し出した。エフェソス 5:25-27 真の教会は「神の戒めとイエスの信仰を守り」、「預言の霊」である「イエスの証しを持っています」(黙示録 14:12;12: 17日19時10分)。彼は、信者は経験の初めから戒めに完全に従って歩むと信じています。なぜなら、「あなたたちの内に働いて、ご自分の喜びに従って意志し、実行させるのは神であるからです」とフィル。 2:13。したがって、その真の成員はそれぞれ「神に従って」回心した「新しい人」である。真の義と聖さをもって創造されたのです」 4:24。

この福音の啓示を通して、キリストはご自身の教会の会員たち、  
省第四天使の最終警告、もしあなたが忠実であり続けるなら、従順と神聖さ、そして何世紀にもわたって約束されていた祝福をあなたに与えるだろう：「その時、彼らはエルサレムを神の王座と呼ぶでしょう」  
主よ、そしてすべての国々が主の御名においてエルサレムに集まります。そして二度とない



彼らは邪悪な心の目的に従って歩むだろう。」 3:17。「そして、御国のこの福音は、すべての国民への証しとして、「すべての国民の信仰の従順のために」全世界に宣べ伝えられるでしょう（マタイ24:14、ローマ1:5）。

私たちは今、神がキリストの霊の影響に身を委ねる者をユダヤ人とみなされることを見ました。したがって、次の言葉は、ユダヤ人がキリストを拒否したために肉に従って成就することができなかったが、信者の人生においては成就されるであろう：「その日、彼らはあらゆる言語から十人の男を連れて行くだらう国々の人々は、ユダヤ人の衣服の裾に「神があなたとともにおられると聞いたので、私たちもあなたと一緒にいきます」と言うだろう」ザック、8:21-23。

これらの言葉は、地球の歴史の終わりの日に、キリストの真の福音の宣教を通じてあらゆる人々が回心することを予言しています。したがって、ローマ人への次の言葉は真実であることが示されます。

神の忠実さ？決して～ない；神は常に真実であって、人は皆嘘つきであるようにしましょう。」神の忠実さは変わりません。神は、神に仕えることを選んだ人々の人生において、その約束を果たされます。

ユダヤ人の未信者とあらゆる年齢の信者の両方に対する神の扱いを分析すると、私たちは、神が各人に自分の選んだ運命を与えるのは公平であるという結論に達します。私たちが心の中で実行する神の歩みの評価について、パウロは次のように述べています。「書いてあるとおりです。それは、あなたが御言葉によって義とされ、裁かれるときに打ち勝つためです。」

それらは、神が出来事を導いた方法を考慮した後、私たちは神がなされたことすべてに理由を与えるということを意味します。

「そして、私たちの不義が神の義の原因であるとしたら、私たちは何と言うでしょうか？神は不公平であり、私たちに怒りをもたらしているのでしょうか？（私は人間として話します）。まったくそうではありません。そうでなければ、神はどのように裁くでしょう？」

世界の神？しかし、私の嘘によって神の真理がさらに豊かになり、神の栄光が得られたのであれば、なぜ私は依然として罪人として裁かれるのでしょうか？そして、なぜ私たちは（私たちが冒瀆されているように、そしてある人々が私たちが言うように）「善が来るように悪を行いましょう」と言わないのでしょうか？これらを非難するのはまさに「ロム」です。

3:5-8。

神の行動の方法は、不当な扱いを受けている人々に対して正義を行うことです。詩篇作者が言ったように、「神よ、私に正義を与えてください。そして、邪悪な国民に対して私の訴訟を起こしてください。欺瞞と不当な男から私を救い出してください。」詩篇 43:1 もし私たちが誰かに不当なことをしたとして、その人が叫んだとします。この場合、私たちは「私たちの不正義」が「神の正義の原因」であると言えます。神は抑圧されている人々に正義をもたらすのです、これがパウロが説明したことです。

しかし、だからといって、不当行為の加害者が、自分の不正行為が神の存在と正義の実現に貢献しているという言い訳で自分を正当化しようとする余地は残されていません。神が悪を正すために行動するという事実は、悪を引き起こした者を赦すものではありません。彼はこう言います。「罪を犯した魂は死ぬでしょう…悪人の悪事はその人に降りかかるでしょう」エゼ。 18:4,20。そして預言者エレミヤはこう宣言しました。「ああ、主なる神よ…あなたの目は人の子らのすべての道に開かれており、それぞれの道に応じて、またその業の成果に応じて与えてくださいます。」。 32:17-19。正義は、各人が自分の働きに比例して受け取ることを要求します。

終わりの時、神は地球の住民の悪を七つの恐ろしい災いで罰するでしょう。「そして、神殿から大きな声が聞こえ、七人の天使たちにこう言ったのが聞こえました。行って、七つの災いを地上に注ぎ出してください」黙示録 16:1 人類が時が経つにつれて悪の実践にますます深く没頭していることを考慮すると、これが起こるとき、それが真の正義の行為と見なされるだろうと予測するのは間違いありません。なぜなら、「邪悪で欺瞞的な人々は、ますます悪くなるからです」2テモテ3:13。ローマ人への手紙の言葉を借りれば、神は義人となって「世を裁き」、私たちの中の悔い改めない、反抗的で邪悪な者たちに「神の怒りをもたらす」でしょう。

ローマ人への手紙の中で、パウロは悪人の視点から見た終わりの日の現実を考察しています。彼は嘘をつき、悪を行います。そして、彼がよこしまであればあるほど、義なる隣人の聖さと、彼が従う聖書の戒めを強調します。明らかに、悪人は義人を熟考するときにそのコントラストに気づき、良心が揺さぶられます。この状況で、悪を行うことで正義の強化、ひいては神の計画に協力できるのではないかと推論したくなるとしたら、そんなことはありえないという答えを受け取るだろう。むしろ、彼がその邪悪さゆえに非難されるのは当然である。この理解から、この言葉の意味は明確に聞こえるはずだ。「しかし、もし私の嘘によって神の真実がさらに溢れて神の栄光に達したのなら、なぜ私は依然として罪人として裁かれるのでしょうか？そしてなぜ私たちはこう言わないのでしょうか。悪を行ないましょう。」 「物資が来るということですか？彼らの非難は正当です。」

また、私たちが自分の力の範囲内で、そうすることが自分の義務であると明確に認識しているにもかかわらず、誰かに助けを与えたり、そのニーズに応えたりすることを怠ったときに、上記の言葉が成就する場合があります。時間が経ち、神は別の手段を通して行動し、解放をもたらします。そのため、私たちは、救出における神の行動が明らかだったため、私たちの怠慢が神の計画に貢献し、神に行動の機会を与えたと考えたいのです。これは「善が起こるよように悪を行おう」という言い方です。聖書の意味で危害を加えるということは、単に神や他者の大義を傷つけるために意図的に行動することではありません。「善を行う方法を知っていながらそれを行わない者は罪を犯します。」

叔母。 4:17。したがって、もし私たちの怠慢が、神が別の方法で苦しむ人を救うためにご自身を現わすことを生じさせたとしても、私たちはそれを美德と考えることはできません。そうではない。そう考える人にとって、「彼らの非難は正当である」という言葉は有効です。

福音の説教者は皆、邪悪な者たちによって冒涇されてきました。辞書によると、冒涇とは、尊敬に値する人を侮辱したり気分を害したりするすべての行為を定義する用語です。人が行っていない行為をその人に帰したり、その人の行為や性格に合わないレッテルを貼ったりすることによって、冒涇することができます。パウロと信仰の兄弟たち、福音の説教者たちは冒涇されました。彼は、「私たちは冒涇されている。そしてある人たちが言うように、『善が来るように悪を行おう』と言うのだ」と語った。彼らの敵は、怠慢と邪悪を美德とみなすように教えていると宣言した。真実は違っていました。彼らは人々を「真の義と聖さ」に導くために王国の福音を宣べ伝えました。欺瞞的な欲望を捨て、心の霊において新たになり、神によれば真の義と正義をもって創造された新しい人を着なさい。

「神聖さ」エフェソス。4:21-24。

サタン（その名前は敵対者を意味します）は、神の真の福音に反することができないと見て、人間の代理人を雇って神の使者を中傷する戦略を使いました。彼は、人々が彼の言うことを聞きたくないような偏見を生み出すことを望んでいた。「この時代の神は、不信者たちの心を盲目にして、キリストの栄光の福音の光が彼らに輝かないようにした。」2コリント4:4しかし、聖書は、彼が不信心になるであろうことを明らかにしています。なぜなら、「この王国の福音はすべての国民への証しとして全世界に宣べ伝えられるからである」（マタイ24:14）からです。そのとき、「水が海をおおうように、地は主の知識で満たされるでしょう」イザヤ11:9。

「それで、何ですか？ 私たちのほうが優れているのでしょうか？ まったく、そうではありません。ユダヤ人もギリシャ人も皆罪の下にあることを以前に示したからです。書かれているように、正しい人は一人もいません。理解できる人は誰もいません。そうではありません。」神を求める者は誰もいない。彼らはみな道に迷っており、共に役立たずになってしまった。善を行う者は一人もいない、一人もいない。彼らの喉は開いた墓である。彼らの舌は欺瞞を扱う、毒は彼らの唇からは大量のアスプが降り注ぎ、その口は呪いと苦い言葉で満ちている。彼らの足はすぐに血を流す。彼らの道には破壊と悲惨が待っている。そして彼らは平和の道を知らない。以前は神を恐れることなどなかった。彼らの目」ローマ3:9-18。

ヨハネはこう書きました。「子供たちよ、だれにもだまされてはなりません。義を実践する者は義なのです。」ヨハネ第一3:7。

そして正義を実践することは神の十戒に従うことです。「神の戒めはすべて正義である」（詩119:172）からです。キリストを除いて、罪を犯さずに生きた人は誰もいません。パウロはこう述べています。「ですから、一人の人を通して罪が世界に入り、罪を通して死が入り込んだように、死はすべての人に広がりました。したがって、すべての人が罪を犯しました。」5:12。アダムは罪を犯したため、本性が悪に向かう傾向があり、自分の中に悪を行う力がありませんでした。

それに抵抗してください。彼はこの遺産をすべての子孫に伝えました。キリストがなければ、私たちは次のような状況に陥っていることに気づきます。「私は肉的で、罪の下に売られています...肉적인心は神に対する敵意です。なぜなら、それは神の律法に従わないからです。また、実際にそうすることはできません。したがって、肉にある者は神を喜ばせることができない」ローマ 7:14; 8:7,8。

生まれつき義人ではないことは、アダムの子孫全員、つまり全人類の条件です。国籍に関係なく、さらには宗教上の特権を持っていたとしても、誰もが同じ性質を持っています。この真実はパウロによってローマ人への手紙の中で探求されています。彼らはユダヤ人も異邦人も、当時も聖書を知っている人も知らない人も含めて、当時も今日もこう説明しています。

「義人は一人もいない。一人もいない。理解者もいない。神を求める者もいない。彼らはみな道を踏み外し、共に無価値になった。善を行う者は一人もいない。誰もいない。彼らの喉は開かれた墓である。彼らの舌は欺瞞を扱う。彼らの唇の下にはアスブの毒がある。その口は呪いと苦味で満ちている。彼らの足はすぐに血を流す。彼らの道では。「彼らは破壊と悲惨であり、平和への道を知りません。彼らの目の前には神への恐れはありません。」聖書を通して明らかにされた神の御心を私たちが知っているという事実でさえ、私たちの本質は変わりません。十戒は人の心を変えるものではなく、「神の力」だけが変化をもたらし、その結果として罪からの救いをもたらすことができます（ローマ 4:30）。 1:16）。

「今、私たちは、律法が言うことは何でも、律法の下にある者たちに言うことを知っています。それは、すべての口が閉ざされ、全世界が神の前に罪に定められるためです。したがって、律法の行ないによっては、肉なる者は神の前に義とされないのです。」律法によって、罪の知識がもたらされるからです」ローマ 3:19,20。

パウロは上記の言葉で現実を宣言しています。神の戒めは、どのような行為が神を喜ばせるかを知らせます。そして、この基準に従って生きることは私たち自身では不可能であるという結論に私たちを導きます。したがって、律法の文は、私たちが罪人であり、不従順に対する私たちの非難が正当であることを私たちに納得させる目的に役立ちます。「罪は律法を犯すことです」ヨハネ第一 3:4。そして「罪の対価は死である」ロム 6:13 6時23分。

人は法則を知る前から自分の間違いを直観しています。しかし、十戒を知ると、あなたの良心ははっきりと目覚めます。彼の義務が何であるか、そしてそれが彼によって果たされていないことに疑いの余地はありません。「律法を通して罪の知識がもたらされます。」したがって、「律法が言うことは何であれ、律法の下にある者たちに言うことになる」、つまり、それは人間を含む神のすべての被造物からなる神の政府の臣民に言うことになるので、すべての口は閉ざされ、全世界が神の前で罪に定められているのです。」

医者に行く必要があると感じるのは、体調が悪い人だけです。霊的生活においても同様です。人は自分自身を罪人であると感じ、救い主の真の必要性を感じるために、つまり自分が持っていない義のために「義への飢えと渇き」を感じる必要があります（マタイ 5:6）彼の手紙、ローマ人への手紙より1:18 から 3:20 は、私たち全員が罹患しているこの病気の診断を示しています。つまり、これらの節で彼は、すべての人間は、自然な状態で、キリストなしでは悪を行っていることを説明しています。十戒を知っている人であっても現実と同じであり、知識は人間の本性を変えるものではないし、悪への傾向を克服する力を与えるものでもないからである。あるいは、十戒の文字によって、誰もが自分の罪のために死刑を宣告されていることに気づきます。

すべての人を病気であると決めつけ、それを彼らに納得させた後、パウロは自分自身を表します。

彼らは癒します：

「しかし今、律法とは別の神の義が、律法と預言者の証しをもって明らかになりました。つまり、イエス・キリストへの信仰による神の義が、すべての者とすべての信じる者に現れました。違いはないからです」 「すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けられなくなったのです」ローマ 3:21-23

パウロは、神の義は「律法なしで」明らかにされたこと述べています。この用語は前の聖句から理解できます。3章の冒頭から律法の民として知られるユダヤ人、イスラエル人の境遇に焦点を当てます。19節を読んで、律法の知識によって彼らの性質が変わるわけではないので、彼らは本質的に神が提示した基準に達することはできない、と彼は主張します。それは彼らを何も知らない異教徒よりも強くするわけではありません。神の助けがなければ、彼らに対する法律の利用は、彼らがいかに違反者であるかを明確に示すためだけです。それを通して彼らは、自分たちの過去が変えることのできない罪のリストを示しており、現在でも不従順であり続けていることを知ります。

人間が神の正義を実践できるためには、単に法律の文言以上のものを受け取る必要があるでしょう。それには神からのアクションが必要です。この時点で、21節の物語が始まります：「しかし今、神の義は律法と預言者のあかしをもって、律法なしで明らかにされたのです。」律法の文字を超えた何かがこれらの言葉によって告げられます。パウロは神の御子キリストの地上への到来を告げます。

当時、入手可能な聖書は旧約聖書でした。そしてそれらは「律法と預言者」のセットと呼ばれました。イエスは、自分は彼らを変えるために来たのではないと言い、「私が律法や預言者を破壊するために来たと考えないください。私は廃止するために来たのではなく、成就するために来たのです。」マタイ 5:17 と述べました。：「聖書を調べなさい。あなたは聖書の中に永遠の命があると思っているからです。聖書はわたしについて証しする人たちです。」ヨハネ 5:39。それはそれで、「律法と預言者」は、

聖書 - キリストについて証言します。ローマ人への手紙で言及されている律法と預言者によって証される「神の義」とはキリストです。人間は律法を知っているだけでは律法に従順になることができなかったので、神は救い主キリスト・イエスを送ってくださいました。彼は私たちの正義です。パウロは、次の言葉を通して、キリストを信じることによって誰もが神の義を受けることができると述べています。

すべての人が罪を犯し、神の栄光を受けられなくなったからです。」

「キリスト・イエスにある贖いを通して、神の恵みによって無償で義とされること。神はキリスト・イエスを、神の忍耐の下で過去の罪の赦しによって神の義を証明するために、ご自分の血への信仰を通してなだめの者となるように定められた。それは、この時に神の義を実証するためであり、神が正義であり、イエスを信じる者を義とする者となるためである。」ロマ書 3:24-

26.

ここでは、私たちが積極的に参加していない作品について言及します。すべての人間の状態は、不従順、違反者でした。そこで神は率先して全員を救いました。「神は、キリストにあって世をご自分と和解させ、彼らの罪を彼らに押しつけるのではありませんでした...罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちが彼にあって神の義となるためです。」2コリント5: 20、21. キリストは「木（十字架）の上で私たちの罪をその体に負われました」1ペテロ。 2:24。それで私たちは許されました。

あらゆる時代において人間が犯した罪はすべて、十字架の上のキリストによって償われました。そして、キリスト・イエスによって与えられた無償の許しを信じる人は皆、この現実を自分のものとします。

「罪の対価は死ですが、神の賜物はキリスト・イエスにおける永遠の命です」ローマ 14:13

6時23分。これは神の恵み、あるいは過分なき恩恵です。私たちが死の宣告から救い出され、神を通して生きることができるように、聖霊によって十字架の上と復活後の両方で御子の命を捧げることです。永遠に従順です。これについてはさらに説明します

フォワード。

「神が提案した」 この表現は、主導権が神のものであることを示しています。すべての人間の中で、自分から進んで「神を求める人はいない」ように、神は私たちのところに来て、ご自分が計画し創造した救いを提案してくださいました（ローマ 3:11）。この救いは、「彼の血、つまりキリストの血への信仰によるなだめの施し」で構成されています。聖書は、「肉の命は血の中にある」(レビ記17:11)と教えています。

したがって、キリストが罪の代価として命を捧げたと信じる人は誰でも、キリストの血に対する信仰を持っています。神はキリストにあって私たちを赦してくださいました(エペソ4:32)。犠牲を信じることによって、私たちは赦しの祝福を掴むことができます。

この赦しは、「なだめ」と呼ばれるキリストによって行われた業によって保証されます。それは出エジプト記の中で、イスラエルの人々の経験の中で説明されています。モーセがシナイ山に登ったとき、彼はそこに40日間滞在しました。 ~するのための特別な指示を受ける

人々に伝えます。一方、山のふもとの人々は、彼が遅れても戻ってこないかもしれないと考え、アロンに偶像、つまり金の子牛を建てるよう促し、彼を崇拜し始めました。「そこで主はモーセに言われた、『行け、下がれ。あなたがエジプトから引き上げたあなたの民は墮落し、わたしが命じた道からすぐに背を向け、自らを溶けた子牛に変えた。そして彼らは彼の前にひれ伏し、彼に犠牲をささげて言った、「イスラエルよ、これはあなたの神です、あなたをエジプトの地から導き出した神です...モーセが陣営に入ったとき、それは起こりました。子牛とその踊りを見て、それに火をつけたので、怒りが爆発し、石板を手から投げ捨て、山のふもとで割ってしまいました...そして翌日、モーセが言ったことが実現しました。「民よ、あなたは大きな罪を犯しました。しかし、今私は主のもとに行きます。おそらくあなたの罪を償ってあげようと思います。そこでモーセは主に向き直って言いました、「今、この民は罪を犯して大きな罪を犯しました」「彼らは金の神々です。今、彼らの罪を赦してください。そうでない場合は、あなたが書いたあなたの本から私を消し去ってください。』出エジプト記 32:7,8,19,30-32。

モーセが行った宥めの行為は、モーセが神のために執り成す行為から構成されていたことが注目されます。

人々は主の前で罪の赦しを求めました。偉大な救いの計画には、「神と人間との間には...一人の仲介者、イエス・キリストがおられます」 テモテ第一 2:5。彼は、私たちの負債の支払いとして神の命、つまり神の血を捧げることに基づいて、私たちの罪の決定的な許しを与えてくださるよう神に執り成し、お願いしています。そして、神ご自身が次のように言われたように、私たちに代わって常にキリストの願いに答えてくださいます。「そして、あなたが私の名において求めることは何でも、私はそうします。それは、父が子によって栄光を受けるためです。」ヨハネ 14:13。

このように、神はキリストの犠牲とキリストが行うなだめの行為への信仰を通して、私たちに對して忍耐強く、私たちが過去に犯した罪を贖う、あるいは赦してくださることを示してくださいます。ローマ人への手紙では、「神の忍耐の下で、以前に犯した罪の赦しによって神の義を証明するため」です。

しかし、キリストが行ってくださるとりなしの働き、あるいはなだめの働きは、私たちに過去の罪の赦しをもたらすだけではありません。それを通して、私たちは神に身を委ねた瞬間に現在形で祝福も受けました。これはヘブライ人に与えられた聖所の儀式で説明されています。

なだめを行うとき、司祭は罪のためのいけにえの血に指を浸し、それを「主の前、幕の前」に振りかけました。幕は、「聖なる」と呼ばれる神の神殿の内部の2つの区画を分ける幕でした。血は命を表しているため（レビ記 17:11）、この儀式が神殿でキリストの命を捧げることを表していることがわかります。しかし、私たちは「神の神殿」（1コリント3:17）したがって、この儀式に含まれている教えは、キリストが聖所で祭司として信者のために執り成しをしながら、信者たちに自分の命を伝えるというものであった。パウロはこの儀式と儀式を結び付けている。聖所で血を振りかけることと、次の言葉によるこの神の業について、「もし、汚れた者たちに振りかけられた雄牛や山羊の血、そして未経産牛の灰が、肉の清めと同じように、彼らを聖化するとしたら、どれだけのことになるだろうか」永遠の霊によって汚れのない御自身を捧げられたキリストの血はさらに重要です。

神よ、生ける神に仕えるために、死んだ行いから良心を清めてくださいませんか？」へブ。 9:13,14.ヨハネの記述からわかるように、キリストは、今、信者たちに自分の命を捧げ、聖霊を伝えようとされました。「ヨハネ 20:21,22」ヨハネ 20:21,22

キリストは呼吸によって弟子たちに霊的な命を伝えました。これは創造において起こったことと同じでした。「そして主なる神は土の塵から人を形作り、その鼻に命の息を吹き込まれた。そして人は生きた魂となった。」創世記 2:7 神は命のない粘土の人形を作りました。彼の魂が人形に入り、それは生きた人間に変わった。

同様に、私たちも以前は「不法侵入と罪の中で死んでいた」エペソ 16:13。 2:1。しかし、私たちがキリストを信じたとき、彼は私たちに御霊を送ってください、私たちはキリストによって清められました。ペテロはこう言いました、「悔い改めて、罪の赦しのために、あなたがた一人一人、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるでしょう。」使徒 2:38 「神は御子の霊を遣わされました。」ガラテヤ 4:6。霊の力は私たちの罪深い欲望に逆らって働き、聖性への欲望を植え付けます。「というのは、肉は霊と戦い、霊は肉と戦います。なぜなら、それらは互いに反対であるからです。あなたがやりたいことをしないように。」ギャル。 5:17。さらに、御霊は私たちを強めて、神の十戒に従う業を実行できるようにします。このようにして、私たちは神によって罪の奴隷の状態から解放され、解放されるのです。したがって、「主の霊のあるところには自由があります」2コリント3:17。

神の霊が信じる人を改心させるので、その人は事実上不正行為をやめ、神の戒めへの従順である正義を実践し始めます。神の戒めは義だからです（詩 119:172）。パウロはこう言いました：「しかし、もしあなたが霊に導かれているなら、あなたは律法の下にありません。」ガラテヤ 5:18. それを実践する人は律法の下にいませんし、律法によって罪に定められることもありません。聖書は聖霊と呼んでいます。（イザヤ 4:4）このように、キリストが信者の心にご自分の霊を注ぐとき、キリストは文字通り信者の心に従順を注いでいるのです。

別の言い方をすれば、神は人の心を、私の心も、あなたの心も、純粹で従順なものに変えておられるのです。したがって、戒めに対する私たちの従順は完全に神から来ていることがわかります。キリストは神から受けた霊を手放すことによって、信仰によって私たちの心の中で働きを実行してくださいます。その結果、「今」、つまり私たちが信じている瞬間に、神の正義が私たちの人生に示されるのです。

「それは、神が正義であり、イエスを信じる者を正当化してくださるためです。」もし神が、イエスを信じていると主張するという理由だけで、悪を行おうと決心した不敬虔な人間を「義人」と宣言するとしたら、神は不公平であろう。イエス この点について、使徒ヤコブは明確に次のように述べています。あなたはよくやっていますよ。悪魔も信じて震えています。しかし、おお虚しい男よ、行いのない信仰は死んだものであることを知りたいですか？」叔母。 2:19,20。しかし、神が人の心を新たにし、その人が罪から義へと変わるとき、神の宣言は人間に対して行われます。



彼は公平であるということを尊敬している。それはヨハネが言ったとおりです。「子供たちよ、誰もあなたを騙してはならない。義を实践する者は、彼が義であるのと同じように義である。罪を犯す者は悪魔から出た者である。悪魔は最初から罪を犯しているからである。この目的のために、神の子は悪魔の働きを打ち消すために自らを現しました。

神から生まれた者は誰でも罪を犯しません。なぜなら、彼の種は彼の中に残っているからです。そして彼は神から生まれたので、罪を犯すことはできません。」ヨハネ第一 3:7-9。「そうすれば、人は信仰だけではなく、行いによって（他の人や神の被造物の前で）義とされることがわかります。」ヤコブ 2:24。

神は、御霊の力によって、その心を罪から義に変えて改心させた人を正当化する、あるいは「義人」と宣言することにおいて義なる方です。そして私たちがキリストを救い主として信じる時、この働きを実行する許可を神に与えます。私たちのために彼の犠牲ととりなしによって、パウロはローマ人に、神は「信仰を持つ人々」にこの働きをしてくださると語った。

イエス”。

「では、誇ることはどこにあるのでしょうか？ それは除外されています。どの律法によってですか？ 行いについてですか？ いいえ、信仰の律法によります。」

したがって、私たちは、人は律法の行いをしなくても信仰によって義とされると結論づけます。」ロム。 3:27,28。

私たちの心の中で働きを行い、私たちが従わせるのは神であるため、私たちが行った善行を誇示する余地はありません。人は神によって赦され、心を変えられ、つまり義とされます。それは預言者が言ったとおりです：「主よ、私たちがあなたに回心させてください。そうすれば私たちは回心します。」ラム 5:21「主よ、あなたは私たちに平安を与えてくださいます。あなたは私たちの内に私たちのすべての働きをしてくださった方だからです。」いさ。 26:12。したがって、人は信仰によってのみ義とされる、つまり赦されて義とされ、十戒に従順とされるのです。あなた自身の力や能力は、この仕事にはまったく貢献しません。

前の段落が誤解されないように、ここで説明しておきます。私たちは信仰によって義とされる、つまり義とされるのです。しかし、信仰は私たちの選択の結果です。誰かが私たちに話をするとき、私たちはそれを信じるか信じないかを決めます。福音の記述に関しても同様です。私たちはこの真実を信じますか？キリストが私たちの罪のために死んで、今日復活して私たちのために執り成してくださっていることを私たちは信じますか？それを聞くと、神の霊は私たちにそれを信じるように勧めます。神は「信仰の霊」がらだからです。5:5。この信念に抵抗しなければ、私たちは信じるでしょう。私たちは人を救う信仰を持つことになります。救われるためには、私たちはこの確信に逆らわないことを選択しなければなりません。神は私たちに正しい選択をするよう求めています、それを強制することはありません。それは私たちの自由意志の城塞の中にあります。

この状況をまだ考慮していると、私たちの魂の敵が私たちに次のような考えを与えようとするのが起こるかもしれません。信じられないと思うよ。」または、「信じられません。信じられません。」私に救いはありません。」このようなことがあなたに起こったなら、キリストがこの問題をいとも簡単に解決してくださることを思い出してください。キリストがあなたに信仰を与えてくださるよう神に叫べば、それは即座に現れます。次に知ったときには、あなたはしっかりと信じるようになります。これは明確に教えられています

聖書の中で、彼女は、ある父親がキリストのところに来てこう言ったと報告している、「先生、私は言葉のない霊を持った息子を連れてきました。そしてどこで彼を捕まえても彼を引き裂き、彼は泡を立てて歯ぎしりします、そして彼は「彼は衰弱しつつあります。そして私はあなたの弟子たちに彼を追い出すように言いましたが、彼らはできませんでした...そして彼は父親に尋ねました :これはどれくらいの間彼に起こりましたか ?そして彼は彼に言った :彼は子供の頃から... 「もしあなたに何かできることがあれば、私たちに憐れんで、助けてください。そしてイエスは彼に言った、「もしあなたが信じる事ができるなら、信じる者にはすべてのことが可能です。」するとすぐに、少年の父親は涙を流しながら言いました、「私は信じます、」 「主よ、私の不信仰を助けてください。そしてイエスは、群衆が近づいてくるのを見て、汚れた霊を叱責して言われました、「口のきけない、耳の聞こえない霊よ、命じます。彼から出て、もう彼の中に入るな」。

そして彼は叫び、激しく体を揺すりながら出て行った。そして少年は死んだかのように残ったので、多くの人が彼は死んだと言った。しかし、イエスが彼の手を取って持ち上げると、彼は立ち上がった。」

3月9:17-27。

「神はユダヤ人だけの神なのでしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。異邦人の神でもあります。実際、神は唯一の御方ですから、信仰による割礼と信仰による無割礼を正当化されるのです。ですから、私たちは信仰によって律法を無効にするのですか。そうではありません。」まったくありませんが、私たちは法律を制定しました。」

ロム。 3:29-31。

パウロはその前の数節で、すべての人は同じ状態にあると述べています。 3:23。国籍があなたの内面を変えるわけではありません。したがって、彼らが神に赦される方法は同じであり、イエス・キリストを信じる信仰を通してです。モーセの律法に従って割礼を受けたユダヤ人も、割礼を受けていない異邦人も、信仰によって赦されます。そして今日に至るまで、私たちは人間の祖先と同じ性質を持っているため、信仰によってのみ義とされることができます。それ以外の方法で神に赦され救われる民族は、これまでも存在しなかったし、今後も存在しないでしょう。

この証拠は、終わりの日、黙示録の時に、同じ福音が地球上のすべての人々に宣べ伝えられると神が定めたという事実にあります。「私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た、そして彼は地上に住む人々、すべての国民、同胞、言語、人々に宣べ伝えられる永遠の福音がありました。」黙示録 14:6。国籍、哲学、政党、宗教的信条に区別はありません。福音はすべての人にとって同じです。イエスは言われました。「わたしは罪です。だれでもわたしを通して入るなら、その人は救われます」ヨハネ 10:9。

私たちは最近、キリストを信じる者は聖霊を受け、この力によって回心して義とされ、神の律法に従順になることに注目しました（ガラテヤ 4:5; 5:17,18）。したがって、律法は信じる人の心の中に確立されていることがわかります。そして、これが神が人間と結んだ契約の約束である。「これが、その日の後にわたしがイスラエルの家と結ぶ契約である、と主は言われる。わたしはわたしの律法を彼らの理解に委ね、わたしはこれを書き記す」彼らは彼らの心の中にいます。」へブ。

8時10分。したがって、「では、私たちは信仰によって律法を無効にするのでしょうか？決してそうではなく、むしろ律法を確立します。」

人は義と認められると従順になります。もし彼の作品が彼が回心していないことを示しているなら、それは彼が正当化されていないという証拠である。そして、この状況で彼が自分は正当であると考えたり言ったりするなら、彼の希望は無駄であり、彼は自分自身を欺いていることとなります。だれかがこの間違いに陥らないように、イエスは次のように警告されました。「わたしに『主よ、主よ！』と言う者が皆天国に入るわけではありません。天におられるわたしの父のご意志を行う者が天国に入ります。多くの人が私に言うでしょう。その日、「主よ、主よ、私たちはあなたの御名によって預言したではありませんか？そしてあなたの御名によって悪魔を追い出しましたか？そしてあなたの御名によって私たちは多くの奇跡を行いましたか？そして私は彼らに公然と言いますか、私はあなたのことを知りませんでした。立ち去ってください。不法を働く者よ、わたしから。」マタイ 7:21-23。

#### ローマ人への手紙 4

「それでは、肉による私たちの父であるアブラハムに到達したと言うべきでしょうか。アブラハムが行いによって義とされたとしても、彼には誇るべきことがあります。神の前ではそうではありません。では、聖書は何と言っていますか？」

アブラハムは神を信じ、それが彼にとって義であるとみなされました。さて、どんな仕事をする人にも、その報酬は恵みに応じてではなく、負債に応じて与えられます。しかし、実践せず、不敬虔な者を義とされる方を信じる者にとって、その信仰は義とみなされます。同様にダビデもまた、神が行いなしに義を押しつけている人を祝福していると宣言し、こう言っている、「咎が赦され、罪が覆われた人たちは幸いである」。主が罪を押しつけない人は幸いである。」ロム。 4:1-8。

聖書の中で「父」という言葉は、祖先、つまり尊属を指すのに使われています。イスラエル人はアブラハムの子孫でした。だからこそ、彼らはアブラハムを自分たちの父親とみなしていたのです。この章の後半で、パウロは自分が「父」であると考えていると説明しています。信仰の」（ローマ 4:12）と彼を「父であるアブラハム」と呼んでいます。私たち全員」、ユダヤ人も非ユダヤ人も。（ロム 4:16）。このような理由から、アブラハムの物語がイスラエル人だけでなく、信仰を持つすべての人々にとっての有益な例としてここで提示されていると私たちは理解しています。あなたの経験は真の信仰の一例です。

提示された議論は、アブラハムは自分の力によって、つまり「肉に従って」神の前では何も達成しなかったということです。創世記で語られている彼の物語は次のとおりです：「そしてアブラムは（主に）言いました、見よ、あなたは私に子供を与えませんでした。見よ、私の家で生まれた一人が私の跡継ぎになります。すると見よ、主の言葉が彼に臨んだ、こう言われた。しかし、あなたの子宮から出てくる者は誰でもあなたの相続人になります。それから彼は彼を外に連れて行き、「さあ、空を見てください。

数えられるなら、星を数えてください。そして彼は彼に言った、「あなたの子孫もそのようになるでしょう。」そして彼は主を信じ、それが自分の義であると信じた。」 15:3-6。アブラハムには子供がいませんでした。しかし神は彼に、何百万もの人々からなる国全体が彼の子孫になると約束されました。彼自身には、それらを生み出す力も力もありませんでした。妻「サライは不妊で子供がいなかった」

将軍11:30。彼が何をしてもこの現実が変わりません。しかし、彼は神が約束を果たしてくださると信じていました。そこで神は彼の信仰を考慮し、それを尊重し、彼のために働きを実行した。彼に息子を与えた。

この物語では、「彼は主を信じ、それを義とみなした。」「神のすべての戒めは義である」(詩 119:172) ため、正義とは神の御心を行うことに対応し、アブラハムの信仰は正義として語られました。なぜなら、それを通して神はご自分の力で働いて、

建築物。

アブラハムの経験は、神がどのように私たちの罪を赦してくださるかを示しています。また、赦しは2つの祝福を含むパッケージであることも示しています。(1)過去の罪の記録が置き換えられること、および(2)以下に示すように、現時点で神に従う力が与えられることです。

(1) 私たちの過去の罪の記録の置き換え。私たちの過去の人生を考えると、私たちは十戒に何度も違反していることがわかります。したがって、私たちは律法が要求する義や従順を持っていません。私たちには過去を変える力が全くありません。しかし、神はそれでもキリストにあって私たちを赦してくださいました(エペソ4:32)。したがって、神がキリストにおいて私たちを赦してくださったと信じて、私たちは義とされる、つまり赦されるのです。アブラハムと同じように、神は私たちの信仰を義とみなされます。その結果、信者は神には一度も罪を犯したことがない人として見られます。

これについては以下で詳しく説明します。

神の許しには交換が伴います。神は私たちの過去をキリストの命に置き換え、罪の報いとして私たちに降りかかる死をキリストの死に置き換えます。最初から最後まで、飼いや葉桶から十字架まで、罪のないイエスの完全な生涯の記録が、私たちの過去の罪の記録に取って代わります。そして彼の死は、私たちが罪のために当然受けるべき死の代わりとなります(ローマ6:23)。この交流を通して、私たちは神の前に清い状態を保ちます。神は私たちを御子と同じように完全だとみなしておられます。これは聖書の中で、司祭ヨシュアの汚れた服をきれいな服と交換するキリストの姿によって表されています。それから彼は自分の前にいた人々に答えて言った、「これらの汚れた服を彼から脱ぎなさい」。そして彼はヨシュアに言った、「見よ、私はあなたの咎をあなたから去らせた、そして私はあなたに素晴らしい衣服を着せます」ゼク。 3:4。清潔な衣服はキリストの完全な従順の生涯、またはキリストの義に対応します。アブラハムは神を信じ、これは息子の義、つまり約束の成就としてみなされました。そして彼はそれを受け取りました。したがって、私たちも神を信じており、これは私たちにとって義とみなされます。つまり、私たちの借金を返済し、私たちの過去をキリストの過去と交換するという神の約束の履行としてです。

(2) 現在形で、神に従う力を与えること。パウロがローマ人への手紙で引用したアブラハムの例は、上で述べた交流が私たちにとって素晴らしいものであるにもかかわらず、それが神の許しによって私たちに与えられるすべてを網羅しているわけではないことを示しています。信仰の結果、神はアブラハムとサラの中で働きを行い、彼らに力を与え、子供を産むことができるようになりました。約束が果たされた時点では、どちらも体調を整える体力がありませんでした。アブラハムは「ほぼ百歳だったため、体は死んでいました」、そしてサラは不妊であることに加えて、「子宮が死んでいた」（ローマ 4:19）聖書には、「サラはすでに女性の習慣をやめていた」とあります。」 将軍。 18:11。言い換えれば、彼女はもう月経がありません。しかし、アブラハムは「希望に反して信じ、『あなたの子孫もそうなるだろう』と言われたとおり、多くの国民の父となった。そして信仰が弱まることなく、自分の体がもう死んでいるとは考えなかった」「……サラの子宮を死なせることについても。そして彼は神の約束を疑いませんでした……そして、神が約束したことは神にもできると完全に確信していました。ですから、それも神にとって義とみなされていました。」ローマ 4:18-22。

アブラムは神が息子を与えてくださると信じていました。この仕事は完全に神の力の働きに依存していました。したがって、イサクが生まれたとき、彼はすべての栄光を神に与え、それは実際に神に属していましたが、自分自身には何も与えませんでした。私たちも同様です。私たちはキリストを信じており、その結果、「神は御子の霊をあなたがたの心に遣わされました」、つまり聖霊が、私たちに十戒を守る力として与えられました（ガラテヤ 4:6）。（ガラテヤ 5:17）したがって、私たちが「霊に導かれている」とき、私たちは「律法の下」ではありません（ガラテヤ 5:18）。私たちはそれに従うので、それによって非難されることはありません。アブラハムの場合と同様、私たちの内にある聖霊の働きは完全に神からのものです。

上記のことから、神が私たちに与えてくださる罪の赦しのパッケージに組み込まれた直接の祝福は神の働きであり、神だけのものであることがわかります。キリストの死を私たちにふさわしいものと交換し、キリストの完全な命を私たちの汚れた過去と交換すること、そして聖霊を通して私たちの内に回心を実行することは、どちらも神の御業です。したがって、彼ら全員にとっての栄光は彼だけのものであり、すべては彼のものであり、私たちのものではありません。サタンは時々、たとえ善意の人々であっても、キリストに身を捧げた後の私たちの生活の変化を称賛するために人々を利用します。しかし、私たちが学んでいることに照らして考えると、私たちは賞賛を受け入れて主に属する栄光を自分のものにしないように注意しなければなりません。

もし私たちが神の赦しの働きに積極的に参加していれば、私たちは自分自身を赦すに値すると判断するかもしれませんが、それは恵み、つまり神から与えられた恵みとして与えられているものですが、私たちには値しないものなのです。そして、パウロが言及しているように、ダビデが次のように宣言したのはこの理由です、「神が行いなしに義を押しつけてこう言われた人は幸いである、『咎が赦され、その罪が覆われた人は幸いである、その人は幸いである』。主は罪を非難されません」（詩 31:1,2）。

「この祝福は割礼を受けた人だけに与えられるのでしょうか、それとも割礼を受けていない人にも与えられるのでしょうか？

アブラハムにとって信仰は義とみなされていたと私たちは言うからです。それでは、それはどのようにして彼に帰せられたのでしょうか？

割礼を受けていますか、それとも受けていませんか？割礼の場合ではなく、割礼のない場合です。そして受け取った

割礼のしるし、彼が割礼を受けていないときの信仰の義の印、それは、彼が割礼を受けていない間、信じるすべての人の父となるためです。

それは彼らにも義が押しつけられるためである。そして、割礼の父であり、割礼を受けただけでなく、私たちの父アブラハムが無割礼の時に持っていた信仰の歩みを歩む人々の父でもありました。」

ロム。 4:9-12。

神はアブラハムに割礼のしるしを与える前に、多くの国民の父となるという約束を与えられました。まず、創世記 15 章で報告されているように、「彼は彼を外に連れて行き、『さあ、天を見て、数えられるなら星を数えてみなさい。そして彼は彼に言った、あなたの子孫はこうなる』と言った。」創世記 15:5 「後に、17章にあるように、神は自分が約束を果たすことを思い出させるしるしとして割礼をお与えになった。」それからアブラムはひれ伏し、神は彼にこう言われた、「わたしに関して言えば、見よ、わたしとの契約を」あなた :あなた は多くの国々の父となるでしょう…神はアブラハムに言われました :しかし、あなたとあなたの子孫は、世代を超えて私の契約を守ります。これがわたしの契約であり、あなたがたがわたしとあなた、そしてあなたの子孫との間で守るべきである。それは、あなたがたの男子はすべて割礼を受けなければならないということである。そして、あなたは包皮の肉に割礼をしなければなりません。そしてこれは私とあなたとの間の契約のしるしとなるでしょう。」

17:3,4,9-11。したがって、アブラハムは割礼を受けていないときに約束を受けたことがわかります。さらに、それを受け取ったとき、彼は、ある日、神が自分の肉体に割礼を施すよう求められることさえ知りませんでした。

したがって、その約束は割礼とは無関係でした。肉を切るという行為には、約束を果たせるほどの徳はなく、アブラハムをそれに値するものにすることさえできませんでした。族長にとって、それは神の約束を常に思い出させるしるしに他なりません。パウロの言葉を借りれば、「信仰によってもたらされる義の印章」です。

したがって、アブラハムはすべての人々にとって真の信仰の模範となりました。彼は割礼を受けたユダヤ人の先祖であり、そのため割礼のしるしを受けていたため、割礼を受けたユダヤ人の模範と考えられています。しかし、彼は割礼を受けていない人々にとっての模範でもあります。なぜなら、彼は割礼を受けていないときに約束を受け、それを信じたからです。

この意味で、彼は「信仰の父」とみなされます - 彼は、割礼の有無にかかわらず、信じるすべての人にとって真の信仰の模範です。これと同じ論拠で、パウロはアブラハムが「父」であると主張します。ここで彼は、ローマ人への手紙 2 章 28 節と 29 節で解説されている真の割礼、つまり霊の割礼について言及しています。これについては、これらの聖句の解説ですでに議論しました。

霊はイエス・キリストを救い主として信じる者に与えられます。したがって、それは信仰によって受け入れられます(ガラテヤ3:14)。したがって、アブラハムが「割礼の父」と言うのは、彼がキリストを信じるユダヤ人だけでなく、「私たちの父アブラハムが持っていた信仰の足跡をたどる」人々の信仰<sup>1</sup>「割礼を受けている」の父であると言うのと同じです。彼はまだ割礼を受けていませんでした。

「なぜなら、彼が世の相続人になるという約束は、アブラハムやその子孫に対して、律法によってではなく、信仰の義によってなされたからです。なぜなら、もし律法に従う者が世継ぎであるなら、信仰は無駄であり、その約束は無駄だからです。ローマ 4:13,14

ここで言及されている約束とは、罪のない新しくなった新しい地球のことです。「わたしたちは、神の約束に従って、義が宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」2ペテロ 3:13 神はアブラハムに、カナン土地を与えたと約束されました。アブラハムはその場所に住んでいましたが、聖書はこう述べています、「アブラハムは…信仰によって、異国の地のように、約束の地に住み、仮小屋に住んでいた…それは、彼が、その建設者と建設者がいる基礎のある都市を待っていたからである」ヘブライ 11:8-10。アブラハムは、イエスが来られた後、新しくなった新しい地球を受け継ぐと信じていました。パウロはローマ人に、神が約束したこの相続財産を手に入れることができるのは信仰によってのみであると説明しています。「神がいる限り、約束は神の中にあるのです。そうです、神を通してです。アーメン。」コリント第二 1:20。アーメンとは「そのとおりです」という意味です。言い換えれば、神の約束はキリストを通してのみ成就されるということです。神を信じる者は誰でもそれを受け取ります。

アブラハムの業は、彼の信仰に応じて送られた聖霊の働きの結果でした。この力によって彼は法に従いました。しかし、彼の従順は神との交渉の材料ではなかったし、あり得ませんでした。そのため、彼は新しい土地を一インチも購入して所有することができませんでした。人間の従順は信仰の成果、つまり結果です。しかし、それは彼に神に対して何のメリットももたらさない。もし人間の行い、あるいは人間の従順によって将来の相続の場が与えられたのであれば、律法に従った者は誰でも、新しい地での場所を神に求める資格があることが分かるだろう。そして、それは信仰によって受け継がれることはありません。そして、それは信仰によって得られるものではないのですから、神が信仰によってそれを与えると約束するのは意味がありません。その約束は無効になるでしょう。これがパウロの言葉の意味です。「律法に従う者が相続人であるなら、信仰は無駄であり、約束は破られるからです。」

「律法は怒りを生むからである。律法のないところには違反はないからである。したがって、恵みに従って、約束がすべての子孫に確実なものとなるようにするには、信仰によるのである。」

それは律法によるものだけでなく、私たち全員の父であるアブラハムが信じた彼の前に持っていた信仰によるものでもあります（「私はあなたを多くの国民の父とした」と書かれているように）すなわち、死者を生き返らせ、そうでないものをあたかもそうであるかのように呼び出す神である。」ロム。 4:13-17

この聖句の 2 番目の文は、私たちが違反者であることを知るのには律法を通してであることを示しています。「罪は律法に違反することです」ヨハネ第一 3:4 (新アメリカ訳)。したがって、律法がなければ、律法違反や罪について知ることはできません。

律法は、私たちが自分自身の中に正義を持っていないことを私たちに確信させます。なぜなら、「神の戒めはすべて義である」のに、私たちはそれに従わないからです（詩 119:172）。したがって、私たちが自分たちだけで新しい地を受け継ぐことができない理由を示しています。そこには「義が宿っている」のです。そして私たちは義人ではありません（2ペテロ3:13）。したがって、相続財産は、イエス・キリストとその義に対する「信仰によって」、神の「恵みによるものであることによって」のみ私たちに与えられることができます。、アブラハムのすべての霊的の子孫を対象としています。アブラハムは「信仰の父」であるため（ローマ 4:12）、彼の霊的の子供たちはイエス・キリストを信じる人々です。これらは「律法の」人々、つまりユダヤ人のいずれかです。「アブラハムが持っていた信仰」を持っている限り、他のすべての国籍の人々と同様に、シナイで律法が与えられた人たちにも、この霊的な意味で、アブラハムは「私たち皆の父」、つまり模範となるのです。国籍に関係なく、すべての信者が持つであろう真の信仰。

17 節では、アブラハムが「死者を生き返らせ、そうでないものをあるものであるかのように呼び出す神」への信仰について語る際に、復活を信じていたという概念を紹介して推論を締めくくっていますが、この点は後ほど明らかになります。次の聖句を読んで説明することから始めます。

「希望を持って希望に反して信じた者は、『あなたの子孫もそうなるであろう』と言われたとおり、多くの国民の父となった。そして信仰は衰えず、もはや自分の体のことなど考えもせず、死んでしまった。なぜなら、彼は百歳近くであったし、サラの子宮が死んでしまったこともありませんでした。そして、彼は不信仰によって神の約束を疑うことはなく、信仰が強められ、神に栄光を帰し、神の約束は正しいと完全に確信していました。「それは彼にとっても正義であると考えられました。」

ロム。 4:18-22。



アブラハムは、神が約束を果たし、息子が生まれ、彼を通して多くの子孫が生まれると信じていました。しかし、彼の人生のある時点で、この信念はすでに人間の希望に反していました。アブラハムが成長するにつれて、「彼自身の体は死んだ」ようになりました。そして彼の妻もまた「子宮を死滅させられた」のです。言い換えれば、サラは不妊であることに加えて、もう月経もありません。そしてアブラハムは彼女と関係を持つことさえできませんでした。人間の目から見ると、この夫婦に子供が生まれることはまったくありえないことだった。この状況自体が族長の信仰に対する厳しい試練であった。神は二人に子供を産むことができるでしょうか？しかし、アブラハムは「不信仰によって神の約束を疑うことはなかったが、信仰が強められ、神に栄光を帰し、神が約束したことは神にもできると完全に確信した。したがって、アブラハムにとってもそれは義とみなされていた。」この文脈において、「正義」の実現は神の約束、つまりイサクの誕生の成就と同等でした。アブラハムの信仰が試され、承認されると、神はそれを実行されました。

アブラハムもサラも自らを生み出すための条件を何も持っていなかったという事実は、私たちがどのように義とされるかを表すために使徒パウロによって探求されています。私たちの人生には正義がありません。私たちの過去には多くの罪の記録が含まれています。そして、過去を作り直すことは私たちには不可能です。しかし、私たちがイエス・キリストを信じる信仰によって義とされるという神の約束を信じるなら（ローマ 3:22）、イエスが私たちの救い主であり、私たちの罪が赦される唯一の希望であると信じるなら、私たちは赦されます。人間の目には、私たちが自分自身に対して何をしても、過去の罪を消すことはできません。私たちは失われた大義のように見えました。

しかしローマ人への手紙の教えにより、私たちはアブラハムのように「希望に抗して」信じるように勧められています。私たちは神がその約束を果たしてくださるのを待ちます。そして私たちは自分自身ではなく神のみに望みます。神への私たちの完全な信頼により、神は私たちの信仰を「義」とみなし、私たちが達成できなかったことを私たちのためにやってくれます。私たちの過去の罪と引き換えに、キリストの完全な命を与えてくださいます。

その結果、私たちは許されるのです。キリストの義が私たちを覆います。

前の段落で説明したのと同じプロセスと同じ信仰によって、私たちは変えられます。

- 神の戒めに従わない反逆者から忠実な臣下へ。私たち自身にはそれがありません

私たちが生まれつき邪悪な傾向にある心を変えることのできる力や美徳はありません。しかし、イエスへの信仰を通して神が私たちに義を与えてくださるという神の約束に私たちが全幅の信頼を置くと、神は私たちの信仰を受け入れ、私たちの中で働きをしてくださいます。つまり、私たちの心に神の霊を注ぎ、私たちを変えてくださるのです。イエスは言われました：「あなたは新しく生まれなければなりません。」ヨハネ 2:7。この働きは、私たちの内に働いてくださる神です。そして、罪の赦しに関して前に説明したのと同じように、義を実践するために、私たちは「希望に反して」信じます。私たちがどれだけ誘惑の餌食になり、依存症に陥り、どれだけ変化の約束を破ってきたかを考えるとき、私たちは自分の誠実さを疑いたくなります。人間の目には希望がないように見えます。しかし、信仰はこれらの鎖を断ち切ります。アブラハムの例では、神は私たちの中で約束を果たしてくださると信じています - 神はそれを実現するとおっしゃったからです - したがって、それを実現します

それは私たちではなく、神にかかっています。そして神は私たちの信仰を義とし、イエスを通して奇跡を起こします。

「ですから、御子があなたを自由にしてくださいなら、あなたは確かに自由になるのです」ヨハネ 8:36。神は私たちを罪の鎖から解放し、十戒に従わせます。私たちは、それらに従うことが可能であるだけでなく、「神の戒めは重荷ではない。神の力によって、私たちはどんな仕事も実行できる。私たちはパウロとともにこう宣言する。「私はキリストを通してすべてのことを行うことができます。」フィリピ 4:13 「神から生まれた者は皆、世に勝つからです。そしてこれが世界、私たちの信仰に打ち勝つ勝利です。イエスが神の子であると信じる者でなければ、誰が世に打ち勝つことができるでしょうか？」ヨハネ第一 5:3-5。

18節から22節をまだ検討していると、そこからもう一つの真理の真珠を引き出すことができることがわかります。従順は「試されて承認された」信仰の成果です。アブラムが初めて多くの国民の父となるという約束を受けたとき、彼は「神を信じ、それが彼にとって義であるとみなされました。」しかし歴史は、彼が信じ続けなかったことを示しています。「約束が遅れたため、サラは子孫を残すために僕と団結するよう彼に提案しました。神の約束への不信仰の明らかな証拠として、族長は妻のアドバイスに同意しました。彼にはハガルとの間に息子が生まれました。しかしその後、神は神の約束は正妻サラから生まれる息子によって果たされると繰り返し述べ、その後、神はアブラハムもサラも高齢のためその条件が整うまで何年も待ちました。人間の観点からは希望がなく、アブラハムは確固たる信仰を維持し、「自分が約束したことは自分にもできると完全に確信していた」ため、神も「彼の信仰を義とみなし」、約束を果たした。この機会に関連して、「それはまた義であるとみなされた」ということは、アブラハムが約束を最初に受け取ったときに最初に示した信仰だけでなく、信仰の試練の間とその終わりに示した信仰もカウントされたことを意味します。言い換えれば、彼の信仰が「試され、承認された」後、約束は果たされたのです。最も不利な状況下での20年以上の遅れによって「証明」され、最後には「承認」された 約束が履行されるまで堅固であった。

アブラハムの例は、私たちがどのように信仰によって神に従うかを示す例として使われているので、正義を実践するためには、つまり十戒に従うためには、最初から最後まで信じ続けなければならないという結論になります。神の御心を知らせる言葉を聞いてから、それへの従順を逸脱させようとする試みが終わるまで。従順は「試されて承認された」信仰によって表れます。どうしてそのような信仰を持つことができるのでしょうか？イエス・キリストを通して。なぜなら、イエスは「信仰の創始者であり完成者」だからです。ヘブ。 12:2。神は私たちの信仰を生み出し、維持してくださいます。

したがって、私たちは神としっかりと結ばれ続けましょう。私たちは試練に遭っている間ずっと神に祈りを捧げましょう。そうすれば私たちは必ず勝利するでしょう。なぜなら、「それはあなたには起こらなかった」

人間ではないにしても、誘惑。しかし神は真実であり、あなたができる限りの誘惑に遭うことはお許しにならず、誘惑とともに逃れる道も備えてくださるのです」1コリント10:13。

上記の考察に基づいて、私たちは次の結論に達します。

使徒パウロはこの章の最後でこう述べています。

「さて、このことは彼（アブラハム）のためだけでなく、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちにとっても考慮されるべきであると書かれています。それによって、イエスは私たちの罪から解放され、私たちの義とされるためによみがえられました。」ロマ書 4:23-25

アブラハムの物語は、正義とは人間の信仰による神の約束の成就であることを教えています。彼の場合、正義は息子の誕生によって実現した。私たちの場合、それは私たちが神の許しを獲得し、神が私たちを従順にしてくれるときに成就します。この類似点は、神が私たちの生活の中で約束を果たされるときに私たちの従順が起こるという真実を証明します。そして、神の戒めをよく見てみると、それは実際、私たちがイエスを信じた場合に神が私たちの人生で何をしてくださるかという約束であることが分かります。次に見てみましょう。

シナイ島で戒めを宣言するとき、イエスが最初に語った言葉は「わたしはあなたの神、主であり、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。」出エジプト記 20:2 霊的な意味での解放とは、束縛から解放されるということは、罪からの自由と相当します。最初の戒めを発する前でさえ、神は私たちが罪から自由であると宣言されます。そして、キリストが私たちのために死んで私たちの借金を支払ってくださったので、私たちは自由なのです。そして彼はこう付け加えました。「私の前に他の神はあってはならない」 " 元。

20:3.これが第一の戒めです。使用されている動詞の時制に注意してください:「terás」。未来形です。

たとえば、神が「他に神はいない」と現在形で語られた場合、私たちは神の言葉を私たちに課せられた義務として理解するでしょう。私たちは、決められたことを自分たちの努力で実行する全責任を自分自身に負っていると考えます。しかし、それをそのまま、つまり未来形で読むと、それが約束であることがわかります。「あなたには... はありません。」神は、今後、私たちに他の神はもう存在しないと約束しています。神は父親のように私たちに近づき、将来の勝利の保証を与えてこう言います。「この約束を果たし、私たちが偶像崇拝者にならないようにする責任があるのは神です。私たちの役割はイエス・キリストを信じることです。神が私たちに約束を果たすのは彼を通してのみだからです。」神、イエス・キリストの……神の約束はすべて神の中にあり、そうです、そして彼を通してアーメン。」コリント第二 1:19,20。

他の戒めについても同様です。これらは、神がキリストを信じるすべての人を変え、神のご意志に従うようにするという神からの約束です。言い換えれば、神は私たちを造るでしょう

偶像崇拝者ではない（第一戒め）、像崇拝者ではない（第二戒め）、冒涇者ではない（第三戒め）、安息日を守る人（第四戒め）、父と母に従順（第五戒）…そしてすべての約束に従って貪欲を持たない人（第十戒）十戒（未来形に注意）には次のように含まれています。「自分のために彫刻した像を作ってはならない…それらにひれ伏してはならない」。「あなたの神、主の御名をむだに取ってはならない」。「六日間、あなたは働いてすべての仕事をしなければなりません。しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたは彼において何の働きもしないだろう」。「あなたは貪ってはならない」（出エジプト記 20:3-17）。

私たちの従順は、神がご自身の約束を果たし、私たちの生活の中でそれを実現して下さるために起こります。また、神の働きはすべて完璧であることを考えると（神 32:3,4）、神が私たちが完全に従わせて下さるということになります。したがって、私たちは、従順の完成はクリスチャン生活の初めにすでに起こっていると結論付けます。別の言い方をすれば、「あなたがたのうちに働いて望ませ、行わせて下さるのは神であり」（フィリピ 2:13）、その御業は完全であるため、十戒に対する私たちの従順は、信じた最初から完全であるということです。これは、実際の生活におけるそれらの応用について私たちが知っていることと比例しています。神は良心を通して私たちを導いて下さるからです。「しかし、すでに達成したことについては、同じ規則に従って歩もうではありませんか。」フィリピ 3:16. 神は私たち一人一人に祝福された者となることを提案しています。それを通して、神は私たちが天国で罪を犯さない天使に似せ、天の邸宅で神の仲間となる準備をして下さいます。そして、間もなくイエスが地球に再臨される時、私たちは彼の忠実で従順な民を捜すことになるでしょう。アーメン！

## ローマ人への手紙 5

「したがって、私たちは信仰によって義とされたので、私たちの主イエス・キリストによって神との平和を持っています。また、私たちは信仰によってこの恵みの中に入れられ、その中に立って神の栄光を望んで喜ぶのです。」ロマ 5:1,2

第3章から始まるローマ人への手紙の福音の説明全体を通して、神がキリストにおいて私たちに与えて下さる2つの賜物の宣言が常に存在します。それは、(1) 過去の罪の赦し、および (2) 私たちを変え、従わせる力です。現在における彼の戒めに。この時点で、手紙はそれを最も要約され、明確な方法で提示しています。それは最初の言葉で始まります。「したがって、私たちは信仰によって義とされたので、私たちの主イエス・キリストを通して神との間に平和があります。」次に、彼は2番目で修正します。「それによって、私たちも信仰によって、私たちが立っているこの恵みに入ることができます。」そして彼は次のように締めくくっています。「そして私たちは神の栄光を望んで栄光を表します」。この表現が指すのは、

キリストの再臨における永遠の救いの希望。私たちは神との平和を保ち、神の戒めに従い、栄光を受ける神の再臨の日を希望を持って待ち望んでいます。そして、「私たちは皆変えられます。一瞬のうちに、瞬間に…死者は朽ちないものとしてよみがえらされ、私たちは変えられるのです。」1コリント1:15

15:51,52.神は「わたしたちの卑しい体を神の栄光の体に似たものに変えてくださる」フィル。  
3:21.キリストが再臨されるとき、私たち信じる者は永遠の若さの活力を身につけるでしょう。

「そしてこれだけではなく、私たちは艱難を誇りに思います。艱難が忍耐、忍耐、経験、経験、希望を生み出すことを知っているからです。」ロマ 5:3,4

辞書によると、艱難とは、煩わしい、不快な状況、苦難、苦しみ、逆境に与えられた名前です。義人であろうと悪人であろうと、すべての人に艱難は訪れます。イエスは弟子たちに、「世では患難があるでしょう」と言いました（ヨハネ 16:33）。一方、パウロは、「悪を行う者の魂全体に艱難と苦しみが降りかかる。まずユダヤ人であり、ギリシャ人でもある」と述べました（ローマ 2:9）。

艱難は、私たちの間違いの結果として、あるいは信仰の試みとして起こることがあります。2番目のケースでは、それを引き起こすために何もしなかったときに発生します。あなたの動機が何であれ、私たちが忍耐強くそれに耐えられるようにしてくれる神の恵みがあります。神は「いつくしみの父であり、あらゆる苦難の中で私たちに慰めてくださるあらゆる慰めの神」です。2. コリント 1:3,4.預言者はこう叫びました。「主よ、私たちに憐れんでください。私たちはあなたを待ち望んでいます。あなたが毎朝私たちの腕となって、困難の時に私たちの救いとなってくださいますように」イザ。 33:2。

「艱難は忍耐を生む。」艱難の真っ只中にキリストを信頼して神を求めるとき、主がそれを私たちの道から取り除いてくださる時が来るまで、私たちが忍耐を働かせることができます。「あなたにはできるのです。誘惑を受ける前に、神はまた、あなたがそれに耐えられるように、逃げ道を設けてくださるのです。」1コリント10:13 忍耐をもって耐え忍ぶ信仰の試練が信仰を発展させます。忍耐は働きます」ヤコブ 1:3。

したがって、最初のを克服した後、主を待ち望み、二番目のものを克服することが容易になります。それは、誰かが運動を始めるようなものです。1キロを走るの、初めて行く人よりも、長年トレーニングをしてきた人の方がはるかに簡単です。

この時点で、アスリートの経験を振り返ることで、クリスチャンの旅の進歩をより深く理解できるようになります。ランナーがレースに出場するための体調を整えるためには、努力とトレーニングを積み重ねなければなりません。適切なトレーニングをしていない人は良い結果を得ることができません。これは信仰の旅にも当てはまります。使徒ヤコブは次のように警告しています。

「しかし、忍耐には完璧な働きをさせなさい。そうすれば、あなたは一つ欠けることのない完全で完璧な者となります。」 ヤコブ 1:3,4. 期間中忍耐を維持することによって試練を克服する経験は、信者が問題にうまく立ち向かうことを可能にする経験です。使徒パウロがローマ人への手紙 5 章で「忍耐は経験を生む」と書いているのはこのことを考慮しています。「神との体験」。

そして経験は「希望」を生みます。クリスチャンの最大の希望は自分の魂の救いです。使徒ペテロは、「あなたの信仰の終わり」は「あなたの魂の救い」であると述べています。1:9. 信仰の終わりですから、信仰によって心の中に大切にすることはできません。パウロはこう述べています。「希望によって、私たちは救われたのです。今、目に見える希望は希望ではありません。何を見ている人が、どうして望むことができますか？」ローマ 8:24. 救われるという希望は、今日私たちが見えないものに対する希望の中にあります。そして信仰とはまさに、「見えないものについての確信」です ヘブライ 11: 1. したがって、救いは信仰によって保たれるので、信仰が大きければ大きいほど、救いの希望も大きくなります。

使徒の言葉は私たちに好循環をもたらします。試練を通じて私たちの信仰が完成すればするほど、私たちの忍耐力は養われ、救いの希望はより堅固になり、より困難な試練への備えがより強くなります。言い換えれば、神との経験が深まれば深まるほど、キリストが戻ってきて私たちを救ってくださるという確信が高まるのです。神が小さな試練の中で私たちに与えてくださった救いは、神が間もなく地球に来られ、神の子の栄光のために罪の墮落から私たちに最終的な解放を与えてくださるという私たちの確信を強めます。新たな信仰の成功体験が生まれるたびに、私たちの確信は深まります。そして、私たちは使徒パウロの言葉を繰り返すことができます。「誰が私たちをキリストの愛から引き離すのでしょうか？ 艱難、苦難、迫害、飢餓、裸、危険、剣… 私は確信しています。死も、生も、天使も、支配者も、権力も、現在のものも、これから来るものも、高さも、深さも、その他のいかなる被造物も、神の愛から私たちを引き離すことはできない。私たちの主キリスト・イエスにあって」ローマ 8:35-39。

「そして、希望は混乱を引き起こしません。なぜなら、神の愛は、私たちに与えられた聖霊を通して、私たちの心の中に広く注がれているからです。キリストは、私たちがまだ弱かったとき、不敬虔な者たちのために、しかるべき時に死んでくださったからです。意志はただ一つだからです」「義人のために死ぬこともできます。善人のためにあえて死なない限り、死ねるのです。しかし、神は、私たちがまだ罪人であったときにキリストが私たちのために死んでくださったことによって、私たちに対するご自身の愛を証明してくださいました。神によって義とされた今、なおさらです」 \_ロマ 5:5-10

私たちは、救いの希望が信仰によって保たれることを見ました。しかし、神の愛を熟考するとき、信仰は心の中に生まれます。このことは、私たちが救うために御子が犠牲になったことに特に顕著でした。「神は、ご自分の独り子をお与えになったほどに、世を愛されました。それは、神を信じる者が一人も滅びず、永遠の命を持つためです。」ヨハネ 3:16 この愛について黙想することによって、私たちは聖霊を受け、信仰で満たされます。パウロはガラテヤの人々に、「イエス・キリストがあなたがたの間に十字架につけられて現された」と語り、その結果「あなたがたは霊を受けた」と語り、これが「信仰の霊」であると付け加えました（ガラテヤ3:1,2,5）。.:5). もっと簡単に説明すると、私たちが十字架でのキリストの犠牲を熟考し、それが私たちの愛のためであり、私たちが救い、永遠の命を与えるためであったこと、そしてキリストがそれをしてくださったことを理解するとき、私たちはキリストが本当に気にかけてくれていると信じ始めるのです。" \_ \_しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことで、神は私たちに対する愛を示してください。私たちに對する神の愛の深さ、賞賛、神が私たちの利益を望んでいるという信念に気づくにつれて、神に對する私たちの信頼と愛が増してきます。こうして私たちの信仰は強められ、深まります。

神は私たちに対する愛を示すことによって、ご自身の霊によって私たちの心を動かし、神を信じるように私たちに招いてくださいます。私たちが抵抗しなければ、同じ霊によって神は私たちが神への愛で満たしてくださるのですが、これはパウロが「神の愛が、私たちに与えられた聖霊を通して私たちの心の中に注がれる」という言葉で表現した経験です。

「神の血によって義とされた今ならなおさら、わたしたちは神を通して怒りから救われるでしょう。なぜなら、敵であるわたしたちが神の御子の死によって神と和解したのなら、ましてや和解したなら、わたしたちは救われるでしょう」神の愛を熟考することによって私たちの信仰が目覚め、強められた後、私たちがまだ神に反逆していたときに、神が私たちの救いのためにそれほど熱心に働いてくださったなら、御子の命を犠牲にしてまで私たちの救いに尽力してくださったのだと、私たちは考えます。私たちが救ってください、神はすでに私たちが命の道に導いてくださったのですから、最後まで私たちがその道に留まらせるために必要なことは何でもしてくださいます。別の言い方をすれば、私たちが反抗的で、道から遠く離れていたときに、神が私たちが救うためにそれほどのことをしてくださったとしたら、ということです。神は、私たちが中間点に導いた今、つまり私たちは和解したのですから、私たちが救う働きを完遂するために必要なことはすべて必ず行ってくださるでしょう。この確信の成果として、パウロは別の場所でこう宣言しました。まさにこのことについて、あなたの中で良いことを始めた方が働き、イエス・キリストの日までそれを完成させてくださるのです。」

終わり。 1:6。この確信の結果として、私たちは自分の魂の世話を神に委ねます。彼は彼女を救う方法を知っており、この仕事を実行する全能者です。

「そしてこれだけでなく、私たちは主イエス・キリストを通して神の栄光を誇ります。このキリストを通して私たちは今や和解に達しました。」ローマ 5:11

神だけではなく、キリストも私たちを永遠の死から救うために働き、働いてくださいました。

「神は御子をお与えになったほどに世を愛されました」（ヨハネ 3:16）。そして御子は、今度は「わたしたちを愛し、わたしたちのためにご自身をささげてくださった」エペソ 16:14。5:2。「神の愛はキリスト・イエスのうちにあります」（ローマ 4:30）

8:39）。父は私たちに聖霊、つまり私たちが克服できる力を与えてくださいますが、それはキリストを通して与えられます。御子は、「父から出る真理の霊」を私たちに送ると言われました（ヨハネ15:26）。したがって、私たちは救いを実現したことを父と子の両方において等しく誇ることができ、またそうすべきです。「というのは、父が死者をよみがえらせ、命を与えるのと同じように、子も自分の望む者に命を与えるからです…それは、誰もが父を敬うのと同じように、子を敬うためです。

御子を敬わない者は、御子をお遣わしになった父をも敬わないのです」ヨハネ 5:23。したがって、「王座に座しておられる方と小羊に、感謝と栄誉と栄光と力が世々限りなく与えられますように」（黙示録5:13）。アーメン！

「ですから、一人の人を通して罪が世に入り、罪を通して死が入り込んだように、皆が罪を犯したために死がすべての人に広がりました。」ローマ 5:12。

この地球に最初に住んだ人間であるアダムは、完璧に創造されました。このような状態にあったとき、彼は「善悪の知識の木の実を食べてはならない」という戒めを受けました（創世記 4 章）。

2:17）。しかし彼はそれを犯した。その日、神は彼を訪ねて来て、「食べてはいけないと命じた木から取ったものを食べたのか」と尋ねると、彼は「食べました」と答えました（創世記3:11,12）。アダムは罪を犯しましたが、それは神の「律法に違反すること」です（ヨハネ第一 3:4）。そして、罪人として子供たちの父親になりました。聖書には、彼が罪を犯したその日に、エデンの園から追放されたと記されています、「主なる神は言われた、見よ、この男は我々と同じで、善悪を知っている。手を広げないように祈りなさい。「そして、命の木からも取って、食べて永遠に生きなさい。主なる神が彼をエデンの園から追い出されたからである。」創世記 3:22,23 彼女が提示した次の記述は、彼の長男の誕生である。そしてアダムは自分の妻エバを知っており、彼女はみごもってカインを産んだ」創世記 4:1。したがって、アダムの子孫はすべてアダムの子供です。

罪人たち。

アダムは最初の状態では、誘惑に抵抗する力を自力で持っていました。神は人間を完璧な性質をもって創造されたため、神聖さと従順に向かう傾向がありました。しかし、初めて落ちてしまった後、彼には誘惑に打ち勝つ力がもう自分の中に残っていませんでした。最初の罪は



依存症の始まりとして。彼のせいで彼の性質は変わり、情熱の奴隷となった。そして、これは遺伝的継承を通じて、すべての子孫に受け継がれる性質でした。これについてパウロはこう言います。「私は肉的で、罪の下に売られています…肉に従っている人は肉のことに心を向けます…肉の心は神に対する敵対です。それは神の律法に従わないからです」神、また、そんなことはあり得ません」ロム。 7:14; 8:5,7. すべての人間はアダムとエバの子孫であるため、皆この傾向を持って生まれています。そして、それに導かれて、すべての人が罪を犯し、「罪の代償は死であるから」（ローマ 16:30）死の宣告を自らに課しました。

6:23) 。パウロはこの真理を他の場所で次のような表現で宣言しました。  
アダム』 1コリント15:22。

この時点で、人間が死んだ理由は「すべての人が罪を犯した」からであると聖書が明確に述べていることを強調することが重要です。罪は神に対する不従順の行為であり、人間の性質ではありません。パウロが説明しているように、「肉の心は神に対する敵意です。それは神の律法に従わないからです。」ローマ 8:7。しかし、それ自体は罪ではありません。「罪は律法に違反することです。」1ヨハネ 3章:4. 生まれながらにして、私たちは罪を犯す傾向がありますが、だからといって私たちの本性自体が罪になるわけではありません。したがって、聖書によれば、「原罪」などというものは存在しません。あらゆる罪は常に存在し、今後も存在し続けるでしょう。私たちが殺すのは、私たちの本質ではなく、私たちがそれに導かれて犯す行為なのです。

私たちは性質によってではなく、「行いによって」（黙示録20:12）裁かれることになります。イエスが定めの際に人間を復活させるとき、「善を行った者は命の復活に、悪を行った者は滅びの復活に来るであろう。」ヨハネ 5:29. 死は罪の報酬ではなく、罪の報酬です。このような理由から、イエスは私たちを不従順から救い出し、従順に導くために来られました。

彼は「罪深い肉に似た」ロムとして生きました。 8:3.死が人間の本性によってではなく行為によってもたらされたことが明らかになったら、次の節から研究を続けることができます。

「というのは、律法ができるまでは、罪はこの世にありましたが、罪は転嫁されず、律法も存在しませんでした。しかし、死はアダムからモーセに至るまで、アダムの罪に似て罪を持たなかった人々の上にも支配しました。それは神の姿です。だれが来ることになっていたのか」ローマ 5:13,14。

「法律の範囲内で」。この表現は、シナイ山でモーセに十戒の律法が伝えられた出来事を指します。アダムの最初の罪からこの瞬間まで約2500年が経過しました。この時代全体を通して、人類は神の律法を記録することができませんでした。

書面形式。しかし、それは彼らが彼女のことを知らなかったという意味ではありません。主は、モーセの先祖であるアブラハムが「わたしの声に従い、わたしの戒め、戒め、掟、律法を守った」と言われました（創世記 26:5）。

保存され、口頭で伝えられました。

使徒は続けて、「罪は帰属されず、律法など存在しない」と主張しています。戒めは口頭伝承によって教えられていたため、それを知っている人にアクセスできる人だけが学ぶことができました。聖書は、洪水の前、セトやその後のノアのような人々は、神の意志の知識を受け取り、人々に伝えるために神によって特別に召されたと教えています(創世記4:26; 6:13-18)。洪水の後、アブラハムはそれを自分の子孫に伝えるという同じ任務を受け、子孫がそれを地球の他の住民に配布できるようになりました。このようにして、次の言葉が成就します。「あなたは祝福となるでしょう…あなたによって、地球上のすべての家族が祝福されるでしょう。」 12:2,3.したがって、当時、神の戒めに関する知識はアブラハムとその子孫の影響範囲に限られていたでしょう。

地球の他の住民に関して言えば、彼らは皆、キリストの霊が良心に触れることによって、何が正しくて何が間違っているかについての直観を吹き込まれていたにもかかわらず、神の意志についての正式な知識にアクセスすることができませんでした。したがって、彼らはアダムと同じように有罪であるとは考えられません。後者は、神ご自身からご自身の意志について教えを受けていたため、その行為を行う際には十分な知識を持っていました。彼らの場合はそうではありません。「彼らはアダムの罪と同じように罪を犯していませんでした。」しかし、神は彼らに彼らの過ちについての概念を与え、「彼らの良心と彼らの考えを証言し、彼らを非難するか、彼らを守ってください」（ロマ 2:15）。

したがって、当然のことながら、彼らの罪の結果として死が彼らにやって来ました。ローマ人の言葉を借りれば、「アダムからモーセに至るまで、アダムの罪と同じように罪を犯さなかった者たちにも死が支配した。」

「来るべき方の姿とは誰ですか。来るべき方とは、神が世界の救い主として地上に遣わすと約束されたキリストです。この時点でパウロはアダムをキリストの代表者として示しています。、これから説明する議論を読者が理解できるように準備します。  
導入。

「しかし、無償の賜物は、罪を犯すようなものではありません。なぜなら、一人の罪によって多くの人が死んだとしたら、神の恵みはなおさらであり、一人の人イエス・キリストからの恵みの賜物が多くの人に豊かに与えられるからです。」ロマ 5: 15.

使徒は対照的に、アダムとキリストを比較します。それは、アダムが罪を通して遺産として引き継いだ悪とは対照的に、キリストが全人類に与えた恩恵を強調するでしょう。アダムの罪によって人類が受け継いだ悪に大きく比例して、人類は父と子の慈悲と愛によって祝福も受けました。

アダムは「一人の男の罪によって」「多くの人が死んだ」、つまりアダムの子孫は皆、罪深い性質を受け継いだのである。彼女に打ちのめされて、彼らは罪を犯して死んだ。しかし、神はイエスに「咎」、つまり「私たち全員の」罪を負わせました(イザヤ 53:6)。

5:14)。彼の命は父から贈り物として、全人類への贈り物として与えられました。「罪の対価は死です」(ローマ 6:23)。このキリストがすべての人の代価を支払ってくださったので、誰も自分で支払う必要がなくなりました。これはすべての人に与えられた神の恵みです。一人の人によって不幸がすべての人に起こりました。しかし、一人の人によって、私たちの主イエス・キリストによって、恵みがすべての人に降り注ぎました。

前の段落で説明した真実は、使用されている表現の分析に基づいてローマ人への手紙から抽出されています。パウロは神の恵みが「多くの人に満ち溢れた」と述べています。聖書では「多くの人」という用語が罪人と神の恵みの受益者の両方を指すのに使われていることに注意してください。「多くの人が死にました…」そしてその後、恵みが「多くの人に満ち溢れた」とあります。どちらの場合も、同じグループを指すことがわかります。しかし、前の節(14)でパウロは、すべての人が罪を犯したと述べています。したがって、15節の「多くの人が死んだ」という表現はすべての人間を指しているため、神の恵みの「多くの」受益者はすべて男性ということになります。地球上にこれまで生きてきた、そしてこれからも生きていくすべての人。神の恵みは、赦しを与えてくださったキリストの犠牲を通して、私たちとすべての人々、あらゆる世代に満ち溢れています。

したがって、キリストの「無償の賜物」は、罪が死をもたらしたのに対し、キリストは永遠の命をもたらしたという点で、アダムの罪とは異なります。「アダムにあってすべての人が死ぬのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされる」1コリント 15:22。

"もっとたくさん"。この表現は、神が罪深い人類を墮落前よりも優れた状態に回復されることを示しています。この聖句にはこう書かれています。「もし一人の人の罪によって多くの人が死んだとしたら、神の恵みはなおさら…多くの人に満ち溢れているからです。」聖書は、ヨブの物語の中でこの原則の客観的な教訓を示していますが、ヨブは裕福で尊敬され幸せな家庭人だったのに、サタンによって子供がいない、貧しい、軽視され、冒涇された悲しい男に変えられました。

しかし、試練の終わりに、「主はヨブの最初の財産よりも最後の財産を祝福され」、彼はその二倍の財産を受け取りました(ヨブ 42:12) アダムは創造されたとき、エデンの園に住んでいました。救い出された者は、すべて純金でできた都市であり、巨大な真珠でできた12の門があり、それぞれの基礎に驚くべき寸法の宝石が含まれている壮大な新エルサレムを受け継ぐこととなります(黙示録21:18,19-21)。神は天に住んでいましたが、神は天に住んでいました。しかし、回復された地球では、救われた人たちは神とキリストの直接の臨在の中で暮らすこととなります。「神は彼らとともに住み」、都市の中に、そして「その中には、神の玉座と

「小羊の」(黙示録 21:3; 22:3)。これら 2 つの例は、最初の例をはるかに超える将来の栄光のほんの一部です。パウロは幻視の中で彼女のことを観望しましたが、自分が知っていることすべてを私たちに詳細に提示することは許されませんでした。(私は知りません;神は知っています)彼は第三の天国に追上げられました、そして私はこの男が(体内にいるか、体外にいるかはわかりません;神は知っています)楽園に追上げられたことを知っていますそして彼は、人間が話すことは合法ではない、言いようのない言葉を聞いた。」コリント第二 12:2-4。

神はその摂理の中で、今日私たちが、約束された相続について、私たちに啓示されたものを通して、信仰によって熟考することを定められました。そしてこの啓示から、神は私たちが「私たちが求めたり考えたりすることをはるかに超えて豊かに行うことができになる」こと、また「目は見たことも、耳も聞いたこともなく、天に入ったこともない」ことを信頼することを期待しておられます。人の心は、神を愛する者のために神が備えておられるものである」(エペソ3:20、コリント 2:9)。

「さらに」という表現には、現時点における霊的な祝福も含まれています。

アダムは神の似姿に造られました。しかし、彼には後天的な習慣から形成される、成長すべき性格があった。彼は罪によって、自分自身の中にある神の道徳的イメージを歪めてしまったのです。

しかし、神の恵みによって、キリストを通して、神はご自分の民、つまり神の教会を道徳的に完成させます。「キリストは教会を愛し、教会のためにご自身を捧げ、教会を聖別し、言葉によって水の洗いで教会を清めました。「それは、しみやしわなどの何もない、聖で非の打ちどころのない、栄光に満ちた教会をご自分に差し出すためであった。」エペソ人への手紙 5:25-27 ヨハネは終わりの日の教会を見て、それに関する宣言を聞いた。彼らは小羊の行くところどこへでもついて行きます…彼の口には偽りは見つかりませんでした。彼らは神の御座の前に何の罪もないのですから」とアポック。

14:4,5。この経験が現実となるためには、私たちが罪から守るために神の恵みによって与えられた力が、私たちの傾向、依存症の強さ、社会の圧力、社会の圧力などの反対の力を合わせたものよりも大きくなければなりません。悪魔の力。そして、パウロが次の節で説明しているように、そのとおりです。

「そして、その贈り物は、罪を犯した人の罪のようなものではありませんでした。というのは、裁きは確かに有罪判決のための一つの罪から来たのですが、無償の贈り物は正当化のための多くの罪から来たからです。

なぜなら、もし一人の人の罪によって死がその人を通して支配したとしたら、豊かな恵みと義の賜物を受けた人は、なおさら、一人であるイエス・キリストを通して命を支配することになるからです。というのは、一つの違反行為によってすべての人に裁きが下され、有罪判決を受けたのと同じように、一つの正義の行為によってすべての人に恵みが与えられ、命が正当化されるからである。一人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同じように、一人の従順によって多くの人が義人となるのです」ローマ 5:16,19。

アダムは罪を犯した後、長男をもうけました。こうして彼は自分の罪深い本性を彼に遺贈したのです。それ以来、すべての子孫は同じ性質を受け、その傾向に従って罪を犯してきました。このようにして、より多くの子供が生まれ、他の子供が生まれるにつれて、人間が犯した罪の数は急速に増加しました。アダムの行為を通して罪が広がることを説明するために比較すると、アダムは「山の頂上に行き、羽根枕を開いた。そして彼らは山の下に散り散りになり、休んだ場所で呪いを唱えました。そしてキリストは再びすべての罰を集め、それらが落ちたすべての場所から呪いを取り除いた。」キリストの行動はアダムの行動とは逆でした。アダムの行動は罪を生み出し、その結果として神の裁きと有罪判決をもたらしました。詩節：「裁きは、一つの罪から…有罪判決に至るまでに生じた。」しかし、キリストの犠牲は全世界の罪の代価を支払った。このようにして、神の「無償の賜物」は「多くの罪から義とされるためにもたらされた。」すべての罪、「神の羽」「神はキリストにあって、世をご自分と和解させ、彼らの罪を彼らに押しつけるものではありませんでした。」2コリント 5:19。そうすれば、誰も自分の間違いを良心に負わされる必要がなくなります。私たちは罪の世界に生まれ、その性質に負けて罪を犯してしまいます。しかし、私たちが義とされるために、キリストが私たちのために死んで罪の代価を払ってくださったことを、私たちは今でも覚えておく必要があります。「彼を信じる者は罪に定められない」

ヨハネ 17:3。信仰によって神に身を委ねましょう、そうすれば私たちは救われます。

上記から、神の恵みから除外される人々の階級はないことも理解されます。すべての人はキリストの血によって買い取られており、平等にキリスト・イエスによる救いに選ばれています。「神が御子を世に遣わされたのは、世を罪に定めるためではなく、世が御子を通して救われるためである。」ヨハネ 3:17。キリストは「世の救い主」ヨハネ 4:42。したがって、キリストの福音は、地球上に住むすべての人、「すべての国民、部族、言語、人々」に宣べ伝えられなければなりません（黙示録 14:6）。

次の節 (17) でパウロは、アダムの罪が人類に引き起こした呪いをすべてキリストが地上から集めたという議論を展開し続け、救いによって私たちは元の状態よりさらに輝かしい状態に導かれるという概念を付け加えています。一人の人の罪が彼を通して死を支配したのであれば、なおさら、豊かな恵みと義の賜物を受けた人々は、一人のイエス・キリストを通して命を支配することになるでしょう。」この概念については前の段落すでに説明したので、次の節に進みます。

「というのは、たった一度の罪によってすべての人に裁きが下され、有罪判決を受けたのと同じように、一度の正義の行為によって、命が義とされる恵みがすべての人に臨んだのです。」ここでパウロは読者の信仰の目を、教会のキリストの犠牲に向けています。十字架。キリストは地上にいる間、多くの善行を行いました。しかし、私たちが救いを受けたのは特に彼の最後の善行によってでした。彼の生涯最後の「義の行為」は、私たちの罪を負い、私たちのためにそれを放棄することでした。

彼はこう言いました：「それは終わった」ヨハネ 19:30。刑期は完済し、男性たちは釈放される。闘争と罪に対する完全な勝利の生涯は完成され、全人類の罪の生涯の代替品として天の父によって受け入れられました。したがって、キリストを信じる人は皆、今日、こう宣言することができます：「わたしの魂はわたしの神において喜ぶでしょう。神はわたしに救いの衣を着せてくださったので、神はわたしを義の衣で覆ってくださったのです。」イザヤ書 61:10キリストの完全な命は私たちに覆う義の外套であり、キリストへの信仰によって私たちは神から見て罪を一度も犯していないかのように見られます。

さらに、キリストは私たちの信仰を通して御父から受けた聖霊を与え、それによって罪に打ち勝ち十戒を守る力としてご自身の霊的命を私たちに与えてくださいます。したがって、私たちに与えられる許し、つまり正当化は、私たちの過去を置き換える神の働きに限定されません。むしろ、それは私たちの心を変えること、「主の御心にかなうように意志し、行うように」私たちの内に働くことも包含しています（フィリピ 2:13）。

したがって、「一人の男の不従順によって」 - アダム - 「多くの人が罪人にされたのと同じように、一人の男の従順によって」 - キリスト - 「多くの人が義とされるだろう。」 アダムの行為の結果として、多くの人が罪人となった人々は、十字架上のキリストのささげ物を通して、キリストを信じる多くの人が十戒に従順になるでしょう。そしてこのようにして、神は彼らの人生においてご自身の契約の約束を成就されるでしょう。信じなさい：「わたしはわたしの律法を彼らの心に置き、彼らの心に書き記す……そしてわたしはもう彼らの罪を思い出さないであろう。」 10:16,17。

「しかし、律法が生まれたのは、罪があふれるためです。しかし、罪があふれるところには、恵みがますますあふれるのです。それは、罪が死において支配するのと同じように、恵みも義を通して支配し、私たちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。」ロマ 5:20,21。

シナイでモーセに律法が伝わるまで、神の十戒の記録はなく、神の意志の知識は神と共に歩むことを選んだ人々の影響範囲に限られていたことを以前に見ました。彼から指示を受けました。十戒が与えられたことでこの状況は変わりました。それらはモーセの書かれた本、出エジプト記と申命記のページに記録されています（出エジプト記 20:3-17および申命記5:6-21を参照）。それ以来、それらは、最初はイスラエルの範囲内で祭司とレビ人によって実行される律法の教えによって徐々に知られるようになり（マタイ2:7参照）、その後、イスラエルの人々自身によって諸国民に知られるようになりました。彼らは移住したり、捕虜になったりしたのです。法律に関する正式な知識が人々に伝わると、彼らはもはや無知を弁護することができなくなりました。彼らによって彼の不従順は強調され、明らかに暴露されました。これが「しかし、律法は罪が増えるために設けられたのです。」という表現の意味です。ここで使われている「多い」という言葉は、律法を知ることによって罪の行為が大きくなるという意味ではありません。携帯電話を1台盗んだ人は、2台盗んだ罪はありません

戒めを発見するために。しかし、知識のおかげで彼の良心は目覚め、自分の罪をより明確に認識します。

同じ意味で、しかし逆の方向にあるのは、人間が神の恵みを体験することです。一方では、律法の知識が犯した罪の恐るべき悪を明らかにするとすれば、キリストが命を捧げ、それらを自ら引き受けるという観想は、罪の悪のすべてが克服できなかった優れた愛を示します。キリストは心の中で人々の罪をすべて吸収し、それでもすべての犯罪者に豊かな愛と許しを与えられました。傷ついた岩からは、私たち全員のために豊かな救いの水が湧き出たとと言えます。

このように、「罪があふれるところには、恵みもなおさらあふれた」のです。「神の愛はキリスト・イエスのうちにあり」、「神の優しさ」は私たちが悔い改めに導きます（ローマ 8:39; 2:4）。

この事実についてもう少し考えてみましょう。「罪があふれるところには、恵みもなおさらあふれる」のです。罪は地球全体に増殖し、あらゆる場所に悪を蔓延させるという意味であふれています。それからキリストはすべての罪とその悪を負い、十字架上でご自分に負われました。

彼が受けたあらゆる悪に対して、他のすべての人間と同じように、復讐の脅しで反応することが予想されていました。しかし、それどころか、イエスは「口を開かれませんでした。小羊が屠殺場に導かれ、毛を刈る者の前の羊が沈黙するように、イエスは口を開かれませんでした。」イザヤ 53:7。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分たちが何をしているのか分かっていないのです。」と祈りました。

リュック。 23:54。罪の規模と悪質さは、多くの人に驚きと賞賛をもたらしました。しかし、キリストの愛は非常に深かったので、彼が受けた多くの悪を前にしても少しも変わることなく、むしろ犯罪者のためにとりなしをするように導かれ、限りなく大きな賞賛を引き起こしました。勝者は常に敗者よりも賞賛されます。彼は常に記憶に残りますが、敗者は忘れられます。罪は間もなく存在しなくなります。しかし、「イエスの名のもとに、天と地と地のすべての膝がかがみまます」とフィル。 2:10。

罪が溢れていたり、強調されていたところには、キリストの愛の中に恵みが現れ、罪を克服しました。それは限りなく強調されました。彼女は、キリストがご自身を取り囲むすべての悪から完全に汚れのない状態で現れたという点で、完全な勝利、つまり広範で完全に壮大な、罪の偉大な征服者とみなされていました。

この壮大で強力な恵みを熟考すると、新しい人生を生きたいという願望が私たちの中に目覚め、私たちの興味が吸収されます。新しい霊的生命が私たちの心の中に芽生えます。

新しい考え、新しいモチベーション。キリストを信じて、誘惑に打ち勝つ力を祈り、徐々に誘惑に打ち勝っていきます。そして私たちは、パウロがこの節の最後で述べた「罪が死を支配するように、恵みも義を通して支配するであろう」ということを、自分の生活の中で発見します。キリストと共にいる前と同じように、「私たちは肉の欲望のままに歩み、肉と精神の欲望を行い」、神の目には「罪と罪の中で死んでいた」のです（エペソ2:3、1）今、私たちは「人生の新しさの中」を歩んでいます。 6:4。「それで、もし誰かが

彼はキリストのうちにあり、新しく造られた者です。古いものは過ぎ去りました。見よ、すべてが新しくなった」 2コリント5:17。

私たちは新しい人、あるいは聖書の言葉で言えば、エペソ人への手紙「神によれば、真の義と聖さをもって創造された新しい人」を着ていると言えるでしょう。 4:24。

私たちの新しい命は、キリストの愛と犠牲の中に表れる神の恵みを見るとき、神の力によって創造され、維持されます。「人間に対する救い主神の優しさや愛が、私たちが行った義の行いによってではなく、神の憐れみに従って現れたとき、神は再生の洗いと聖霊の新たな働きによって私たちに救い、それを豊かに注いでくださいました。」 「わたしたちは、救い主イエス・キリストによってわたしたちに与えられます。それは、わたしたちが神の恵みによって義とされ、永遠の命の希望に従って相続人とされるためです。」テトス 3:3-7. キリストの犠牲によって表された神の愛を熟考し、わたしたちは自分たちの世話を委ねます。そうすれば、神の恵みがキリストの義を通して私たちの人生を支配し、神の戒めに従順になり、最終的には永遠の命が得られます。

## ローマ人への手紙 6

「それでは、何と言えいいでしょうか？恵みが豊かになるように、罪を犯し続けるべきでしょうか？そんなことはありません。罪に対して死んだ私たちは、どうして罪の中で生きられるのでしょうか？それとも、イエス・キリストへのバプテスマを受けた私たち全員が、イエス・キリストの死へのバプテスマを受けたことを知らないのですか？それで私たちは死へのバプテスマによって主とともに埋葬されました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも新たな命の中を歩むためです。ロム。 6:1-4

5章で、罪が拡大し、あるいは「増えて」驚きを引き起こすのに比例して、神とキリストの恵みがそれを打ち破り、さらに大きな賞賛を呼び起こしたことを見ました。この推論に続いて、パウロは質問を提示しますが、その答えは誰ですか「恵みが豊かになるように、私たちは罪を犯し続けるべきでしょうか？」ということが暗黙的に示されています。言い換えれば、罪が大きければ大きいほど、それを贖う恵みはより強く、より輝かしいものであることが判明したので、私たち自身もそれを実践し、罪の増加に貢献して、赦しの恵みが明らかにされるようにしましょう。いいえ、それは高揚する目的で現れたものではないからです。彼女は罪を取り除くためにそこにいたのです。「イエスが私たちの罪を取り除くために現れたことをあなたは知っています。」 ヨハネ第一 3:5



要点を説明する例。都市の中心部にある公園を大勢の人が歩いており、その真ん中に強い川が流れている状況を考えてみましょう。突然、子供が川に落ち、すぐに水に流されてしまいました。父親が川岸に沿って走って激流に身を投げ、子供のところまで泳ぎ、抱き上げて岸辺まで連れて行き、命を救ったのを見て、群衆は川岸に駆け寄った。すると、その場面を見ていた群衆は、子供を救うために即座に命を危険にさらした父親の愛と勇気に感動し、笑いと涙の中で拍手を送りました。この物語では、父親は息子を救うという唯一の目的のために川に身を投げました。彼女は「勇気を誇示する」ことさえ考えていませんでした。しかし、彼の行動は結果的に彼の高貴な性格を示すものとなり、それは誰もが熟考し認めたものでした。

同じことが神にも起こりました。十字架の犠牲は、主の善良さを示すことを主な目的として設計されたものではありません。もしそうなら、それは利己的な動機になります。しかし神は愛です。そして愛は「自分の利益を求めません。」 1コリント13:5. 救いの計画において、神は人間の子供たちを救うことだけを考えて、父親としての役割を果たしました。「神は、神を信じる者が滅びずに永遠の命を得るために、ご自分の独り子をお与えになったほどに世を愛されました。神が御子を世に遣わされたのは、世が御子を通して救われるためである。」 ヨハネ 3:16,17. 父と子のこの行動は、隠すことのできない形で神の愛と恵みをすべての人に明らかにしました。その結果、私たちは両方の愛に惹かれます。このことについて、神はエレミヤにこう言われました、「わたしは永遠の愛であなたを愛したので、親切心をもってあなたを引き寄せたのです。」 エレミヤ 31:3 そしてキリストはこう言われました。すべての人をわたしのもとに引き寄せなさい」ヨハネ 12:32。

したがって、十字架の犠牲の時、神の関心はご自身ではなく私たちに向けられ、神の評判の向上ではなく、私たちの利益を求めました。しかし神は、人間を救うための犠牲の行為によって、最終的にはすべての被造物に自分自身を知らせることを知っていました。そして、この知識は神の政府の正義を示し、すべての人々からのより大きな忠誠をもたらし、その結果、宇宙全体で政府の完全かつ永続的な安定がもたらされるでしょう。したがって、イザヤにキリストの到来を告げたとき、彼は「政府は彼の肩にある」と宣言しました。 9:6。

キリストは人間を救うために行動し、神の政府を正当化するでしょう。

これらの考察を行った後、ローマ人への手紙 6 章の考察に戻りましょう。十字架の犠牲による神の目的は罪を取り除くことであったため、神の捧げ物に感謝した結果、私たちが罪を犯し続けることにはなりません。それどころか、神の恵みによって、私たちは罪を犯すことをやめるように導かれています。キリストの無私の愛と御父の戒めへの完全な服従を熟考することは、私たちを古い人生にとっては死に等しい状況に導きます。キリストの知識の崇高さに直面すると、世界と罪は魅力を失います。もう要りません。むしろ、私たちは救い主に従いたいと願っています。そして、私たちがバプテスマを受け、主の足跡をたどるのはこのためです。イエスは宣教の初めにバプテスマを受けました（マタイ 3:16）。彼はいいえ

それは必要でしたが、彼は「すべての義を成就するため」にそれを行いました（マタイ 3:15）。そして彼は後でこう付け加えました。「わたしがあなたたちに模範を示したのは、わたしがあなたにしたように、あなたたちも同じようにするためです。」ヨハネ 13:15。

パウロはバプテスマの意味を次の言葉で説明しています。「それとも、イエス・キリストにバプテスマを受けた私たちと同じくらい多くの人が、死のバプテスマを受けたことを知らないのですか。ですから、私たちは死のバプテスマを通してキリストとともに葬られたのです。ですから、キリストがそうであったように、「父の栄光によって死者の中からよみがえられたので、私たちも新たな命の中を歩んでいます。」キリストは世の罪を背負って死なれた「罪を知らなかった方」神は「彼を私たちのために罪として造られた」2コリント。

5:21。しかし、イエスは罪なく復活され、「救いを待ち望む人々に、罪なく二度目に現われます。」ヘブライ 9:28 それは私たちにも当てはまります。私たちがバプテスマを受けるとき、私たちは次のことを証します。私たちの心、罪、そしてその魅力を失って彼らは死んだのです。洗礼は私たちがキリストの経験を生きていることの象徴であるため、私たちはキリストに似せて、キリストのように墓ではなく水の中に埋葬されています。そして、キリストが墓に埋葬されたのと同じように、「地球の最も低い部分」

エフェ。 4:9 私たちはバプテスマを受けるとき、全身を水の中に浸します。そして、私たちは罪なく、キリストの復活のように水から上がります。キリストは御父の栄光によって復活されました、そして私たちはバプテスマの水からよみがえったとき、人生の中で働く神の力、それが「キリストの復活の美德」であることを知るようになります。 3:10。これはキリストが信者に与えた聖霊の力です。この点については、「悔い改めて、罪の赦しのために、あなたがた一人一人、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けましょう。」使徒行伝 2:38 と書かれています。キリストを死者の中からよみがえらせるために行使されたこの力は、私たちが罪と罪の中で死んだ以前の人生から、十戒に従う新しい霊的な人生へと引き上げるために用いられます。

ヨハネ 12:50。

「というのは、もし私たちが彼の死に似せて彼とともに植えられたのであれば、私たちもまた彼の復活に似せて植え付けられることになるからです。このことを知っているからこそ、私たちの老人は罪の体が清められるために彼とともに十字架につけられたのです」「それは、私たちがもう罪を犯さないためです。死んだ人は罪から義と認められるからです。」ローマ 6:5-7。

イエスは私たちに「わたしに従ってきなさい」と言われます。マタイ 8:22。彼の経験は次のとおりです。彼は罪を抱えて死に（それを自分自身に負って）、罪を持たずに復活しました。ペテロは、十字架の木の上で「私たちの罪をその体で負われた」と述べました（1ペテロ2:24）。したがって、イエスは最悪の罪人として死なれたと言えます。これはモーセの時代にすでに表現されており、神はモーセに青銅の蛇を木に吊るすよう命じました。聖書では罪の根源であるサタンの象徴としてよく使われていました。でもその瞬間に

サタンが人間を犯させた罪の担い手であるキリストを表しています。イエスは、「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。」ヨハネ 3:14 という言葉で、この象徴の意味を確認されました。（コロサイ 2:13）；そのとき、私たちは象徴的に彼らに対して死んで埋葬されました - それはバプテスマの際に水に浸されることで表されます。

パウロはこのことを次の言葉で宣言しています。「私たちの古い自分は彼とともに十字架につけられました。」

罪の有罪判決は死です(ロマ6:23)。もし私たちがキリストを救い主として信じる真の信仰をもって水のバプテスマを受けるなら、この儀式を通して私たちは彼の死を私たちに代わって受け取ることになります。私たちの借金は天で支払われます。私たちの非難を彼は私たちの代わりに受け止め、私たちは自由になりました。しかし、私たちがこの経験を経験するのは、罪の道、つまり古い生活を捨てる決断をしたときだけです。大切なのは、私たちに確実に降りかかるであろう誘惑を克服する力が自分にはないかどうかではなく、むしろ私たちの決断です。これは私たちにしか取れないことです。人生を変えるという決断を伴わない信仰告白は、私たちにとって何の役にも立ちません。私たちはキリストの死に似た形でキリストとともに植えられる必要があります。彼は自らが背負った罪のために決定的に死に、二度と罪を背負うことのないようによみがえりました。そして、もし私たちが「彼の死と同じように神とともに植えられたのであれば、私たちはまた彼の復活と同じように植えられる」のです。イエスの死は私たちのものであり、それが私たちの死と取って代わり、私たちはもはや律法の義務を負っていません。「死んだ者は罪から義と認められる。」

これらの聖句の中でパウロが用いた表現は、通常は理解するのが難しいのですが、「罪の体は取り除かれる」というものです。今から考えてみましょう。使徒はバプテスマを扱っています。それから彼は、彼を通して「罪の体」が「元に戻される」と述べています。元に戻すとは、破壊される、解体するという意味です。さて、人が洗礼を受けるとき、その肉体は解体されたり破壊されたりしません。私たちが理解していることから、この表現は「これは文字通りではなく、象徴的な意味を持っています。バプテスマ候補者の以前の状況を考慮すると、それが理解できます。彼は罪人でした。罪を犯すことは彼の人生の習慣でした。そして習慣が性格を形成します。したがって、私たちは彼が以前からそうであったことを理解します」前世で罪深い性格を形成しました。パウロはこの性格を「罪の体」と呼んでいます。罪の体は、キリストに身を委ねる瞬間まで構築され、成長していました。その後、変化が起こりました。悪い習慣は、罪の体によって打ち破られます。「救い主の力が与えられ、新しい人生が始まります。新しい従順の習慣が形成されます。人格は培われた習慣によって形成され、形作られます。このように、洗礼後の新しいクリスチャン生活の間に、以前に形成された人格のモデルは徐々に崩れていきます。」パウロの言葉、「罪の体は滅ぼされる」。新しい良い習慣を築くことによって、人格はキリストに似たものになります。

もう一つの象徴性、これは非常に重要なものですが、パウロは次の詩で取り上げています。ローマ人への手紙上では、バプテスマの水の上昇は、次のような経験を表していると述べています。

復活。死者を復活させることができるのは神だけです。彼はキリストをよみがえらせることによってその力を行使しました。主イエスへの信仰を持ってバプテスマを受けた人は、神が彼を新たな従順の人生に引き上げてくださるという確信を抱きます。したがって、彼はもはや罪に仕えることはありません。キリストを信じ続ける限り、彼は神の力、つまり聖霊から解放されます。

パウロはこの経験を次の節で続けて述べています。

「さて、私たちがキリストとともに死んだのなら、私たちはまたキリストとともに生きると信じます。死者の中からよみがえられたキリストはもはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配するものではないことを知っています。なぜなら、彼が死んだということは、すぐに罪のために死んだのだから。でも生きることに関しては、ずっと生きてください神よ」ロム。 6:8-10。

上の言葉は、信者の人生に働く神の力の大きさを表しています。イエスは復活された後、二度と死の支配下に置かれることはありませんでした。彼は完全に、そして永遠に罪から自由でした。これも信者の人生です。神は、彼女を不従順から完全に自由にするほどの力で彼女の中に働いておられます。別の言い方をすれば、神は彼女を既知のあらゆる義務、戒めから受けたあらゆる光に対して完全に従順にさせます。そして、神の律法の知識が増すにつれて、神は律法をより従順なものにしていきます。罪に対する完全な勝利、これが信者の経験です。ただし、それを維持するには条件があります。これらは次の聖句に示されています。

「同じように、自分は罪に対しては死んでいるが、私たちの主キリスト・イエスにあって神に対しては生きていると考えなさい。死ぬべきからだを罪が支配し、その欲望に従って罪に従わないようにしなさい。また、自分の肢体を罪にさらさないようにしなさい。」不正の道具：しかし、自分自身を死者の中から生きている者として神に差し出し、自分のメンバーを義の道具として神に差し出しなさい：なぜなら、罪はあなたを支配することができないからです、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのですから。私たちは律法の下ではなく、恵みの下にいるから罪を犯すのですか？ まったく違います。あなたがたは、自分を従うべき召使であることを知らないのです。あなたがたは、死に至るまでの罪か、義への従順のどちらかで、自分が従う神の召使であるということを知らないのです。「しかし、あなたがたが罪の僕であったにもかかわらず、自分に与えられた教義の形式に心から従ったことを神に感謝します。」ローマ 6:11-17。

この抜粋の中でパウロは、クリスチャンとしての生活において鍵となるいくつかの行動、すなわち「考慮する」、「存在する」、「心から従う」を紹介しています。それらはすべて私たちの個人的な選択に関係しています。

「かつて犯した罪をもはや実践していないと考える」かどうかは、私たち次第です。「祈りのうちに自分自身を神に差し出し、神の御心が何であるか、またそれを実行する力について導きを求めなさい」そして「御言葉に心から従う」、つまり、御言葉を誠実に受け取り、それに自分の意志を服従させなさい。使徒はこの手順の結果を報告し、私たちの祈りが聞き届けられるという確信を与えています：「罪はあなたを支配することはありません。それは完全な解放の約束であり、私たちの選択を条件としています。望む人は誰でも力を受け取るでしょう」キリストによって与えられた霊は自由になります。

注目に値するのは、「罪はあなたを支配することはありません。あなたは律法の下ではなく、恵みの下にあるからです。」という表現は、神の生涯において神の恵みを受けた人々の経験が罪に対する勝利であることを保証します。十戒への従順です。もし誰かが自分をクリスチャンだと呼びながら、この経験を生きていないとしたら、その人は自分を欺いていることであり、天国への望みは無駄です。使徒ヨハネはこれをはっきりと述べました。「そして、このことによって、私たちは神を知っていることがわかります。主の戒めを守りなさい。「私は神を知っています」と言いながら神の戒めを守らない人は嘘つきであり、彼の中に真理はありません。しかし、神の言葉を守る人は誰でも、神の愛はその人の中で真に完全になります。これによって私たちは自分が神の中にいることを知ります。

イエスのうちにとどまっていると言う者は、イエスが歩まれたように歩まなければなりません」ヨハネ第一 2:3-6。神の恵みによって人間は律法を守ることが免除されるという理論は、キリスト教を公言する世界で広く流布されているが、天と地が異なるのと同じくらい真実からかけ離れている。「子供たちよ、だれにもだまされないでください。義を行う者は、義であるのと同じように義です。罪を犯す者は悪魔から出た者です。悪魔は最初から罪を犯しているからです。この目的のために、神の御子はご自身を現されました。悪魔の仕業を打ち消すために。

神から生まれた者は誰でも罪を犯しません。なぜなら、彼の種は彼の中に残っているからです。そして彼は神から生まれたので、罪を犯すことはできません。この中に神の子と悪魔の子が現れています。

義を実践せず、兄弟を愛さない者は神から出た者ではありません。」ヨハネ第一 3:7-10

「そして、あなたがたは罪から解放されて、義の僕となったのです。私は人間として話します、あなたの肉体の弱さのゆえに。なぜなら、あなたが自分の食口たちに、悪に対して不潔を、悪に対して仕えるよう勧めたのと同じように、今度は、聖化のために義に仕えるよう食員に勧めなさい。なぜなら、あなたがたが罪の僕であったとき、あなたは義から自由だったからです。そして、あなたが今恥じている事柄から、その後どのような実を結びましたか？なぜなら彼らの最後は死だからです。しかし今、あなたは罪から解放され、神の僕とされたので、聖化のための実を結び、最終的には永遠の命を得ることができます。というのは、罪の代償は死ですが、神の賜物は私たちの主イエス・キリストによる永遠の命だからです」ローマ 14:15 6:18-23。

義の僕であることは、罪の僕であることとは異なります。キリストと共にいる前、私たちは奴隷として「汚れと邪悪」に仕えていました。「罪を犯す者は皆、罪のしもべ（奴隷）です。」ヨハネ 8:34。私たちは自分の意志の主人ではありませんでした。しかしそれに支配されている。しかし、ひとたびキリストの霊によって解放され強められると、私たちは自分自身の意志の主人となり、それを支配することができるようになります。たとえそれが私たちの生来の傾向に反するとしても、私たちは神に従うことを選択し、神の働きを効果的に実行することができます。私たちは正義を実践し、十戒を遵守します（詩 119:172）。そして私たちは、神の前で神聖のうちに歩みます。

神。

「あなたたちが罪の僕だったとき、あなたたちは義から自由でした。」本文中のこの表現は、逆転した推論を示しています。私たちは通常、「自由」という言葉を奴隷の反対語として連想します。しかし、この場合、使徒はそれを別の方法で使用します。彼は、奴隷である者は誰でも「正義から自由」であると主張する。この式の意味は、免除される、または免除されないという意味です。罪に仕える者は誰でも、それを実践しないので、自分の中に義（従順）を持っていません。

この状態にあると、「罪の報酬は死である」ので、あなたの最後は死になります。「しかし今、あなたは罪から解放され、神の僕とされたので、聖化に至る実を結び、最終的には永遠の命を得ることができます。罪の代償は死ですが、神の賜物は永遠の命、つまり私たちの主イエス・キリストだからです。」

## ローマ人への手紙 7

「兄弟たち、あなたは知らないのですか。（私は法律を知っている人たちに話しているのです）、法律は生きている限り男を支配するのです。なぜなら、夫が生きている限り、夫に服従する女性は夫に束縛されるからです」法律によって；しかし、夫が死ぬと、彼女は夫の法律から解放されます。したがって、夫が生きていれば、彼女が他の夫のものであれば、彼女は姦淫者と呼ばれます；しかし、夫が死亡すると、彼女は姦淫から解放されます。ですから、兄弟たちよ、あなた方もキリストのからだを通して律法に対して死んでいるのです。それは私たちが神のために実を結ぶためです。」ロマ 7:1-3。

パウロはここで、十戒の律法を知っている人なら理解できる議論を紹介しています。だからこそ彼は、「私は法律を知っている人たちに話します」と言うのです。彼の第 7 戒めは結婚に関するもので、「姦淫してはならない」(出エジプト記 20:14) です。結婚式の終わりに、「死が二人を分かたずまで、あなた方を夫婦と宣言します」という言葉を聞くのが一般的でした。この文では、

戒めによって神の意図を表現します。不倫を除いて、結婚の誓いを解消してはならない。

法律は、新郎と新婦が生きている限り、忠誠の誓いによって新郎と新婦を「縛る」と言えるでしょう。本文から：「夫に服従する女性は、夫が生きている限り、法律によって夫に拘束されます。しかし、夫が死ぬと、彼女は夫の法律から解放されます。したがって、夫が生きていても、別の夫のものであれば、彼女は姦淫者と呼ばれることになります。しかし、夫が死ぬと彼女は法律から解放されるので、別の夫のものであれば姦淫にはなりません。」同じことが私たちの霊的生活にも当てはまります。パウロの兄弟たちと私たち信者は結婚の律法によって夫と結ばれていましたが、3節までは言及されていませんでした。

さらに、この夫は、私たちに罪を犯させた肉、つまり私たちの「利己心」です。

神。これについては後で説明します。

結婚は配偶者の一方が死亡した場合にのみ解消されるため、この最初の結合を破り、新しい結合を形成するには、私たちは死ななければなりません。 「死んだ者は罪から義と認められるからです」（ローマ6:7）。

「ですから、兄弟たちよ、あなた方もキリストのからだによって律法に対して死んでいるのです。

一方では、私たちが神のために実を結ぶために、死者の中からよみがえられた方からです。」

7:4

私たちは、「死者の中からよみがえられた方」、つまりイエス・キリストから、もう一人の夫となるのです。次の節で、ポールは彼女の最初の夫が誰であることを明らかにし、彼が説明したいことを詳しく述べています。

「というのは、私たちが肉体を持っていたとき、律法を通じた罪の情念が私たちの体に働いて、死に至る実を結んだからです。」ロム。 7:5

元夫は「肉」だった。腕、腹、脚を見てください。それらは肉でできています。それは私たちの「わがまま」を表しています。パウロは「自分」を喜ばせる態度を「肉の業を行う」という言葉で表現しています。彼はガラテヤ人への手紙で次のように書いています。「肉の業は…淫行、不純、好色、偶像崇拜、魔術、敵意、争い、真似、怒り、争い、意見の相違、異端、ねたみ、殺人、酩酊、暴食である」（ガラテヤ人） .5:20,21）。この結婚の妻は、後の数節にあるように、私たちの心です。「内なる人によると、私は神の律法を喜んでいますが。しかし、私は私の会員の中に、私の心の法則\*に反抗し、私の会員の中にある罪の法則の下に私を縛り付ける別の法則があるのを見ます。」ロム。 7:22,23。真理を知るまで、私たちの心は「自分」に執着しており、利己主義の奴隷になっていました。

パウロはこれを「罪の情熱」という言葉で説明しています。

情熱、つまり燃えるような、しかし非合理的な感情が、多くの人を結婚式の祭壇へと駆り立てるのです。パウロは、これは私たちと私たちの利己主義の間にある種の結婚があったことの証拠であると述べています。そして結婚は法律によって「姦淫してはならない」という戒めによって規制されています。

彼は律法に言及して、私たちが利己主義から自分自身を切り離すことは不可能であることを示しました。しかし、私たちはそれを知りませんでした。内部紛争はありませんでした。私たちは毎日、これが人生と幸福の理想であるかのように、自分の意志を貫こうとしました。私たちの心と「自分」は

同じ悪い感情を共有するカップルのように、彼らは仲間でした。

私たちの中に存在した結婚生活はハッピーエンドには至りませんでした。私たち二人とも間違っているところが好きだったので、そこにはまだ調和がありました。このようにして、私たちは日ごとに悪行、罪を増やし、死への道を歩むことになりました。なぜなら、「罪は律法を犯すこと」であり、「罪の報酬は死\*であるからです」(1ヨハネ3:4、ローマ1:4)。6:23) 。パウロはこれらすべてを次の言葉で描写しています。「律法に従っている罪の情念が、私たちの成員の中で働いて、死に至る実を結んだのです」。

※アルメイダ訳を改訂・更新しました

「しかし今、私たちは律法から自由になっています。なぜなら、私たちは拘束されていたものに対して死んだからです。それは、私たちが文字の古さではなく、精神の新しさに仕えるためです。」 7:6。

神の律法によれば、姦淫の場合（ローマ人への手紙7章の議論では取り上げられていない）を除いて、夫と妻の結合は配偶者の一方の死によってのみ壊れることができます。パウロはこの概念を利用して、「自己」に死ぬだけで、私たちの「自己」との結合を断ち切ることが可能であることを示しています。すると、それまで自分の利己的な意志に囚われていた心は、新しい夫であるキリストに従い、神に仕え始めるのです。そして神に仕える者は十戒の律法を守ります。「罪は法律に違反することです」。「しかし今、あなたがたは罪から解放され、神の僕とされたので、聖化に至る実を結び、最終的には永遠の命を得るのです」(1ヨハネ3:4、ローマ6:22)。罪から解放され神の僕とされた人は誰でも従順になります。これを別の言い方で言えば、その人は今「別の精神」を発揮しているとも言えます。これは、誰かの行動の顕著な違いに気づいたときによく使われる表現です。私たちはこう言います。彼は神経質で暴力的でした...今の彼はとても違って、穏やかで、明晰です...彼は別の精神を持っています!これが「新しい心で奉仕しましょう」という言葉の意味です。この変化は私たちの心の中にある神からの奇跡です。それがどのようにして起こるのかを説明することはできません。しかし、信者なら誰でも、それを経験しているので、それが起こることを知っています。

新しい経験を報告するパウロは、私たちは「手紙の古い時代ではない」神に仕えていると述べています。私たちは最初の結婚のために亡くなって以来、それを支配する法律は私たちにとって「古い」ものになりました。



それは私たちを古い（または古い）結婚生活に結びつけました。別の言い方をすると、この表現は、私たちが最初の結婚に縛られて神に仕えようとしていないことを意味します。結婚は「死が二人を分かたずまで」だった。私たちが死ぬと、結婚の法則は私たちには適用されなくなります。それは私たちの過去の一部であり、現在ではありません。

戒めの文字が古くなっているのはこの意味においてのみであることは注目に値します。他にはありません。自分は「古い」と言って、神の戒めを守らなかった自分を正当化しようとして、本文の意味を歪曲する人たちがいます。しかし、彼はそうは言いません。私たちは、新しい結婚において、神の戒めに従順な神の僕に変えられることをすでに見てきました。

そして使徒ヨハネはこう付け加えています。「『わたしは神を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は偽り者であり、その人の中に真理はありません。」(1ヨハネ2:4)。そして、まさに自分が書いたことについて誤解の余地を与えないようにするために、パウロは次の節で次のように説明しています。

「それでは何と言いましょか？法律は罪ですか？全くない！しかし、私は律法以外に罪を知りませんでした。なぜなら、律法が「むさぼってはならない」と定めていなければ、私は情欲を知らなかっただろうからである。しかし、罪は戒めを機会に、私の中のすべての欲望をかき立てました。

律法がなければ、罪は死んでいました。」 7:7,8

問題は結婚法にあったのではない。問題は、上記の文章の中で「罪」と呼ばれる「私」そのものであり、彼は物語の中では悪い人であり、悪い夫でした。私たちの心が彼と「結婚」しているという事実を利用して、彼は彼女に自分の望みをすべて叶えるよう誘導しました。そして、私たちは神の律法によって啓発されていませんでしたが、良心の痛みを感じることなく神の望むことを行いました。言い換えれば、私たちは無知の中でそうしていたので、自分自身を満足させ、非難されているとは感じませんでした。これがこの言葉の意味です。「律法がなければ罪は死んでいたからです」。

私たちにとって、それは何の害も罪もありませんでした。同じ立場にある人々が「その何が問題なのか」という声を何度聞いたことでしょうか。それをするだけでさらに何が起こるのでしょうか？私たちは、間違っていると知らずに行動したことで非難されているとは感じませんでした。聖書が「神は無知の時代を考慮しない」（使徒 17:30）と述べているのはそのためです。

理解を容易にするために、パウロによる比較の図を示します。

下に：



妻と夫、心と肉体は私たちの中にあります。ローマ人への手紙第7章で、パウロはこの結婚を2つの段階に分けて描いています。最初の段階では、妻と夫が調和しています。私たちの心は自分を喜ばせるだけを考えています。もう一つは、彼女が神の律法について啓蒙され、クリスチャンのように違う行動をしたいと思っているが、自分が夫の奴隷になっていることに気づくというものである。前者について彼はこう述べています。「私たちが肉体を持っていたとき、律法に従っている罪の情念が私たちの肢体の中で働き、死に至る実を結びました。」私たちがより良いものを何も知らない限り、私たちには内部の葛藤はありません。私たちはこのように振る舞うことが非常に自然であると感じているため、真に無私の人のお話を聞くと、その人を「愚か者」として片付けてしまいがちです。

人生のある瞬間に、神はご自身の意志を知ることによって私たちを啓発することがあります。その後、第2フェーズが始まります。何が正しいかを確信していますが、正しいことを実行できるようにするイエスの力がまだありません。私たちは罪人であり、罪の代償は死であることを知っていますが、方向を変える力がありません。そうだと確信しました。しかしまだ変換されていません。

転換とはコース、方向を変えることを意味します。そうならない限り、私たちが回心したという証拠はありません。私たちは、死に至る同じ間違った方向に進み続けていると確信しているだけですが、唯一の違いは、以前は無意識であったのに、今では自分がどこへ向かっているのかを知っているということです。これは回心する前のパウロにも起こりました。

「私はかつて律法なしで生きていましたが、戒めが与えられると罪が復活し、私は死にました。そして、その戒めは一生続くものでしたが、私は死ぬためのものだと思っていました。」ロム。 7:9。

神の戒めは人間を殺すために作られたものではありません。イエスは、「わたしは、彼の戒めが永遠の命であることを知っています」(ヨハネ12:49)と言われました。そして神はモーセを通してこう言われました。それを行うことによって、人はそれによって生きるのです」(レビ記 18:5)。

もともと、それらは人間を人生の道に導いてくれました。アダムが罪を持たずに創造されたとき、彼には悪を行いたいという願望はありませんでした。彼の心は神への愛で満たされていました。必要なのは、御父が戒めを提示することだけでした。そして御父は、喜びに満ちた心と善意をもって、

従った。禁断の果実を食べた時、すべてが変わった。その後、忠誠心は恐怖と反逆に変わりました。神の介入がなければ、彼は決して以前の忠誠心に戻ることはできないでしょう。

さて、彼は神の意志を表す戒めを見て、自分にはそれに従う力がないことに気づき、自分の非難が正当であることがわかります。アダムが墮落する前に喜んで従った命令は、罪悪感と非難の感情、つまり死刑判決の記憶の原因となった。パウロはまさにそのような状況にあり、文字通り馬から落ち、自分がイエスを迫害しているのを知りました。彼はこの戒めについて次のように述べています。「そして、生涯にわたる戒めは、私が死ぬためのものだと思っていました。」

「罪は戒めを利用して私を欺き、戒めを通して私を殺したからです。したがって、律法は神聖なものです。そして戒めは聖であり、正しく、善いものである。」ロム。 7:11、12

上の聖句は、前の聖句の教訓に従っています。「罪」は元夫です。一度彼と結婚すると、私たちは法律を知りませんでした。彼の意志に従い、良心は私たちを罪に定めませんでした。私たちは間違ったことをしていましたが、それを知りませんでした。無知から行動していたのです。私たちは知らず知らずのうちに間違っていました。私たちの状況は、アルコール依存症の夫に騙された女性にたとえられます。彼はいつも彼女を飲みに誘った。彼女は彼のことが好きで、いつも一緒にいて自分の存在を主張してくれる良い仲間だと思っていました。彼女はいつも彼に誘われていることを大切に思っていた。ですから、私たちも自分自身を満足させると、自分が大切にされていると感じます。自分が犯した間違ったことを正当化するために、こう言わない人がどれほど多いことでしょう。私にもそれに値するよ！」しかし、その後、この女性はアルコールが自分の健康を害していることに気づきました。彼女は依存症に陥り、そこから抜け出すことはできません。

取り除く。気づいたときには彼女はすでにアルコール依存症で肝硬変を患い、死の床にあった。彼女を救えるのは奇跡だけだった。これはスピリチュアルな意味でも同様です。神の律法を知ると、私たちは自分が「自己」を喜ばせる罪の道を歩んできたことに気づきます。私たちは死刑を宣告された今、この内なる「夫」が私たちが欺いていたことがわかりません。パウロの言葉を借りれば、「罪が戒めを利用して私を欺き、戒めを通して私を殺したからである。」

この物語において罪の責任があることが明らかになれば、神の律法は正当化されます。問題は彼女ではなく、誰が私たちが彼女に違反させたのかです。それには欠陥がなかったことが証明されています。したがって、それが私たちに人生の道を教えるという目的で「古く」なり、時代遅れになったと理解する理由はありません。したがって、次のような議論になります。

「それで、私は死ぬのが得意になったのでしょうか？全くない！しかし、罪は、それが罪であるように見えるために、私のうちに死をもたらして善をもたらしました。それは、戒めによって罪が非常に邪悪なものとなるためです。」 7:13

このとき、その節で述べられている法律への言及の隣に、それがどのような状況を指しているのかを記すだけで、その意味が理解できると思います。参照：「では、善（十戒の法則）は死んだ私になったのでしょうか？全くない！しかし、罪（前の夫）は、自分が罪であることを示すため（自分が悪であることを示すため）、（私たちが彼と結びつけた結婚の法則のおかげで）善のために私に死をもたらしました。それは、その戒めによって（私たちが神の律法を知ることになると）罪が過度に邪悪なものになるということです（私たちが「自己」を満たすことがいかに間違っていたかがわかるでしょう。）」

言い換えれば、律法はもともと神が命のために定めたもので、アダムとその子孫がそれに従って生きようになったものであり、突然私たちが殺すための道具になったわけではありません。私たちが非難の状況に追い込んだのは、老夫である「私」でした。私たちが無知である間、彼は私たちの心を利己的に行動するように導きました。

いわば私たちが神と結びつけた結婚の律法によって、神は私たちが満足させるために罪を犯すように導きました。そして罪の代償は死です（ローマ6:23）。パウロの言葉を借りれば、「善のため」、つまり結婚の律法はそれ自体良いものであり、姦淫によって生じる悪から家族を守るものであり、「死をもたらした」のである。言い換えれば、私たちはこの法律によって、自分たちの「利己性」と死刑宣告とが一体化していることに気づきました。

しかし、神はあらゆる呪いを祝福に変えるように働かれます。それは私たちの人生の最悪の経験さえも、私たちが永遠の命への道に導くためのツールとして利用します。私たちが利己主義（元夫）の影響で罪をより深く掘り下げたという事実は、律法が私たちに提示されたとき、私たちの目に律法の正義と神聖さがさらに強調されるようになりました。殺人者は、「人を殺してはならない」という戒めの重みを平均的な市民よりもはるかに重く感じています（出20:13）。テレビのニュースでカメラが自分に向けられるとすぐに下がってしまう

頭。これは暗黙の罪の告白です。人気のことわざに、「恐れるべきではない人は恐れない」というものがあります。聖書の比較に戻ると、私たちは以前のひどい結婚生活のせいで、啓発されたとき、自分たちが神の律法の前で非常に罪を犯していることに気づきました。私たちは神の視点から罪を見ることができました。私たちの罪は、私たちの目には「非常に邪悪」なものとなっています。

「というのは、私たちは律法が霊的なものであることを知っているからです。しかし、私は肉的な人間であり、罪の下に売られています。自分のやっていることは承認しないし、自分がやりたいことはやらない。しかし、私が嫌いなことは、私がすることです。そして、私が望まないことをする場合、私は法律に同意することになります、それは良いことです。」ロム。 7:14-16

神の御心、神の律法を認識し、従おうとするとすぐに、私たちは自分の力だけではそれを達成することができないことに気づきます。正しいことをしたいと願う私たちの心は、独裁的で気まぐれな夫である「利己主義」によって、自分の意志を貫くことを強いられていることに気づきます。

この夫が悪いです。「肉の業は…淫行、汚れ、好色、偶像崇拜である」(ガラテヤ 5:20,21)などという神のご意志は、この世に生まれるすべての人を網羅しています。私たちの心は生まれたときから「自分」と結びついています。私たちは自分の利益のために行動せずにはいられません。私たちは善を行いたいとさえ願うかもしれませんが、他人のために最善を尽くすことは、何らかの形で「自己」を満足させたいという欲求に浸透しています。それは「第二の意図を持って良いことをする」と呼ばれ、見られること、他人から良いと思われること、地位を得ることなどです。パウロはここで、イエスが幻の中に現れた後、馬から落ちてありのままの自分を見たときのことにも言及しています。彼は自分が罪人であると確信していました。従いたかったが従えなかった。そしてこれは、神の御心を知っていながらもキリストに降伏していないすべての人に見られる状況です。

ここで、説明の中で小さな括弧を付けて、本文で言及されているのと同様の状況に気づかずに陥っている2つのクラスの人々のケースについてコメントするのは、私たちの責任です。1つ目は、宗教を公言していないにもかかわらず、自分たちはクリスチャンよりも優れていると自慢する人たちです。しかし、何が正しいかを知っているという彼らの証言は、神の目から見れば彼らに従う責任をさらに高めるだけです。彼らは自分たち自身が認めていないことをしていますが、自称クリスチャンが同じように行動しているのを見ることで正当化されます。しかし、そうであれば、彼らは実際に彼らが非難しているキリスト教徒よりも人格的に優れているという有効な証拠を提供する必要があるだろう。そして真実は、彼らがそのような証言をするために自分自身を改めようとする、ローマ人への手紙7章に描かれているのと同じ状況で、自分たちが奴隷にされていることにすぐに気づくということです。第2の階級は、クリスチャンであると公言しながらも、そのような行動をとらない人々に属します。キリストの意志 - 彼らは神の律法に従わないのです。彼らは真理を確信していますが、まだ回心していません。彼らには奇跡が必要です - 緊急に。しかし、彼らは変化の必要性を感じていません。彼らは「教会に所属する」という自分の職業に満足しています。「信じます」と言えば死から救われるという誤った期待で自分を欺かないようにしましょう。イエスはこう明らかにされました。

言います :主よ、主よ !天の御国に入るのは、天におられるわたしの父の御心を行う者だけです。その日、多くの人が私にこう言います :主よ、主よ、私たちはあなたの御名によって預言したのではありませんか ?そして、あなたの名において、私たちは悪霊を追い出しませんか ?そして、あなたの御名において、私たちは多くの奇跡を行ったではありませんか ?そして、私は彼らに公然とこう言います。「私はあなたのことを知りませんでした。私はあなたのことを知りませんでした。」不法行為を行う者よ、わたしから離れなさい。」 (マタイ 7:21-23)。彼らが回心し、神の律法への従順の業を通してこれを証ししない限り、彼らは決して聖徒に数えられることはない。自分たちを義人だと思っている非キリスト教徒も、名目だけのキリスト教徒も、両者には共通点が1つある。それは、彼らは真実を知っているということである。したがって、彼らは自分たちの行いを認めない。したがって、彼らは律法が「善い」ものであることに同意、あるいはパウロの言葉を借りれば同意しているのです。しかし、真理理論を知っているだけでは、彼らは永遠の命に適しているわけではありません。それを効果的に実践する者だけが栄光に入り、神の聖なる天使の霊的な兄弟となることができるのです。

聖句の説明に戻ります。「律法は霊的なものである」という用語は、律法が神の意志の表現であることを意味します。「神は霊である」(ヨハネ 4:24)。そして回心して彼女に従順になるすべての人は「霊的」と呼ばれます、つまり、彼らは神の意志と調和しています。(ペテロ第一 2:5)。パウロはキリストの御心を学ぶことを「霊的な珍味」を食べることに例えました。

(1コリント10 :3,4)。肉体と結婚している間、人間は「肉」という言葉から派生した用語である「肉的」と呼ばれます。「罪の下に売られる」という表現は、私たちが自分の意志によって奴隷にされているという事実を指します。聖書は同じ表現を使って別の場所で、「アハブは…妻イゼベルが彼をそそのかしたので、主の目に悪であることをするために身を売った」と述べています。

(列王上 21:25)。この問題をよく示す状況は、麻薬中毒者の状況です。薬物が悪いということに同意します。習慣をやめたい。しかし、離脱の危機が訪れると、依存症は依存症によって「敗北」します。自分の過ちを確信している人は、律法が神の意志を反映していること、つまり「それは霊的なものであり」、良いものであることに気づきます。しかし、彼は罪の下に売られています。パウロの言葉を借りれば次のとおりです。しかし、私が嫌いなことは、私がすることです。そして、私が望まないことをする場合、私は法律に同意した(つまり同意した)ことになり、それは良いことです。」

「ですから、今、これをしているのはもはや私ではなく、私の中に住んでいる罪です。」 7:17

上の聖句はテーマの説明の続きであり、依然として結婚の比較を使用しています。最初の結合では、私たちの利己主義は、家を支配する「夫」です。心、つまり女性は、神の御心を悟り、戒めが良いものであることに同意し、変えたいと思っていますが、変えることができません。夫は彼女を逮捕します。何人の女性がいますか「教会に行きたいのですが、夫が許してくれません。」「私ではありません。私を止めているのは彼です。」このように振る舞うことで、夫は妻の罪に対して部分的には自分自身を有罪としているのです。しかし、明らかに、だからといってそれが許されるわけではありません。なぜなら、霊的な事柄においては、「各人は自分のことを神に告げるでしょう」(ローマ 14:12)からです。

それは正当化できます。しかし、あなたは決して支払いません。診断書によって欠勤を正当化すれば、警告や解雇は免れることができますが、従業員が働いていたのと同様に給与を受け取る権利は得られません。霊的生活でも同じことが起こります。自分の心を明確にした後、男は従おうとしますが、従えません。あなたは神の御心を行うことをすでに決めているのに、自分自身の利己主義に囚われていることに気づきます。したがって、パウロの言葉は、女性が教会に行くことを妨げられたのと同じように、「これをしているのはもはや私ではなく、私の中に住んでいる夫の罪です」という言葉です。しかし、この状況で誰もが言い訳を感じるべきではありません。そのような罪の言い訳に対する神の反応は明白です。私はあなたに別の夫、つまりキリストを差し出したのです。この最初の結婚があなたを破滅に導くなら、なぜその結婚に留まるのでしょうか？彼女が最初の夫と関係を持続としても、それは選択肢がないからではありません。なぜ彼に死んで、あなたの魂の救い主である他者とともに生きてみませんか？多くの人は神の言葉を喜んで聞きます。しかし、彼女が大切にしてきた悪い習慣、大切にしてきた罪、捨てたくない悪徳を叱責すると、彼らは後退します。彼らはキリストを拒否しているとは公には言いません。彼らは神への信仰を告白し続けています。しかし、彼らは弱さを主張することで不従順を言い訳します。主は、「わたしの力をしっかりと取り、わたしと平和を結びなさい」と言われます（イザヤ 27:5）。しかし、彼らは神の力を握ることを拒否します。それは、彼らが心の奥底で、愛する罪を手放したくないからです。

パウロの言葉を借りて自分を罪悪感から免れようとする。

「私の中に宿る罪」は、それを神に課すことです。私たちの罪は私たちのせいではなく、私たちの中にある肉（自己）のせいだと言うなら、私たちは私たちの体の創造主に責任を投げかけていることになります。しかし、それぞれの罪はその人自身の決断の結果です。この間違いの責任があるのは私たち、そして私たちだけです。使徒ヤコブは、この議論を引き起こさないようにするために、次のように書いています。なぜなら、神は悪に誘惑されることがなく、誰も誘惑しないからです。

しかし、彼が自分の欲望に惹かれるとき、誰もが誘惑されます。そして、情欲は孕んで罪を生み出します。そして罪が成就すると死がもたらされます」（ヤコブ 1:13-15）。 「神は一人だと信じますか？あなたはよくやっています。悪魔も信じて震えています。

しかし、おもしろい男よ、行いのない信仰は死んだものであることを知りたいですか？」つまり、それは存在しません（ヤコブ 2:19,20）。

パウロは自分を言い訳するために「もうやらない」という表現を使いました。馬から落ち、イエスの追隨者を迫害した罪を自覚した後、彼は自分の間違いを深く後悔し、自分の過ちを自分の肉体的な性質ではなく、自分だけを責めました。「私は使徒の中で最も小さい者なので、神の教会を迫害したので、使徒と呼ばれる資格はありません。」コリント 15:9。したがって、この本文の意味は、神の律法を確信していてもそれに従わないときに自分を正当化することではなく、むしろこの章全体で展開される考え方を強調するためにそれを使用することであるということになります。考え方の変化を強調するために使用されます。

以前、彼は罪を認めていました。今、それは彼を外でも内でも非難します。したがって、「私はもうそれをしません」という表現は次のことを意味します。私がそれをする、私はイライラします

進む"。これが意味であるという証拠は、次の節での彼の議論の展開によって与えられます。

「なぜなら、私の中に、つまり私の肉体の中に、良いものは何も宿っていないことを私は知っているからです。そして実際、意志は私の中にありますが、私は良いことをすることができません。なぜなら、私は自分が望む善を行うのではなく、望まない悪を行う、それが私のすることだからです。さて、私が望まないことをするなら、それをしているのはもはや私ではなく、私の中に住んでいる罪です。そのとき、私は自分の中に法則があることに気づきました。それは、私が善を行おうとすると、悪が私とともにあるということです。なぜなら、私は内なる人に従って神の律法を喜んでいるからです。」ロム。 7:18-22

言い換えれば、私は今、神の御心と律法を知り、それが良いことであると知り、それを喜び、それを本当に守りたいと思っています。でも、私は出来ません。罪（私）が許しません。私はまだ最初の結婚生活中です。「それで、私は自分の中にこの（結婚に関する）法則があることに気づきました。それは、私がしたいときにそうするということです」  
まあ、悪（最初の夫）は私と一緒にです。」

「内なる人に従って、私は神の律法を喜んでいます。しかし、私は私の会員の中に、私の理解の法則に反抗し、私を罪の法則の下に縛り付ける別の法則があるのを見ます。

それは私のメンバーの中にあります。」ロム。 7:22,23

パウロはここでダジャレを使っていますが、その時々で彼が言及している律法を特定すると、より簡単に理解できるようになります。この用語の意味は、この研究ですでに取り上げられています。しかし、私の会員の中に、私の理解の法則（私が受け入れた神の律法）と闘い、私の会員の中にある罪の法則（結婚の律法）の下に私を縛り付ける別の律法（結婚の律法）が見えます。」ロム。 7:23

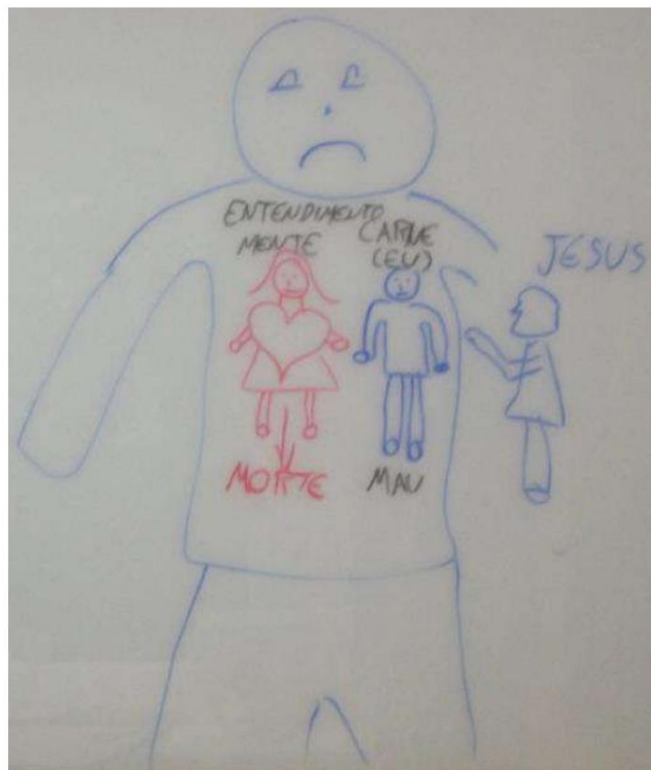
「私なんて惨めな男だ！誰が私をこの死の体から救い出してくれるでしょうか？イエス・キリストのことを神に感謝します。ですから、私自身は理解して神の律法に仕えています、肉では罪の法則に仕えています。」 7:24,25

神の御心について啓発されているものの、それに従う力がない人間は、確信はしているものの回心していないこの悲しい状況に陥っていますが、無力ではありません。黙示録は、イエスが彼を救おうとしていることを次のように描いています。誰かが私の声を聞いてドアを開けるなら、私は彼の家に入って彼と一緒に食事をし、彼も私と一緒に食事をします。」

アポック。 3時20分。彼女は自分の心を屈辱的で抑圧された不幸な女性だと認識しており、自分の状況を変えたいと考えています。彼は彼女の新しい夫となり、彼女を幸せに導きたいと考えています。罪の許しを与えます。



人が心の扉を開けると、そこに入ってきて、新しい夫となり、人生の主となります。かつて自己の奴隷だった心はキリストに従順になります。



結婚は死によってのみ解消されます。夫、つまり肉体、つまり私たちの「自己」は、私たちが死んだときに初めて私たちに征服するのをやめるのです。この夫は各人の遺伝子の中に組み込まれています。私たちはそれぞれ、両親、祖父母、曾祖父母、曾祖父母から受け継いだ傾向を持って生まれており、それは私たちの意志の一部となり、私たちを見捨てることはありません。そして、それらは時間の経過とともに身についた習慣の強さに加わります。肉体は決して変化したり、改心したりすることはありません。自分の意志を満足させるために常に叫びなさい。

したがって、私たちが神の戒めについて啓発された後でも、古い結婚生活が私たちの中に存在している限り、理解力、つまり知性をもって、私たちは「神の律法に仕える」のです。私たちは、法律が神聖で、公正で、善であることに同意します。しかし、私たちは「肉によって」「罪の法則」に仕えます。言い換えれば、私たちは結婚によって、たとえ自分の意志に反してでも、罪を犯し続けることを強いられているのです。私たちは従うことができません。彼女の年老いた夫は彼女を許しません。イエスは「罪を犯す者は皆、罪に仕える者である」(ヨハネ8:34)と言われました。彼は僕、奴隷であるために罪を犯します。これは、キリストが私たちを解放するために来られた恐ろしい束縛です。「もし御子があなたを自由にしてくださるなら、あなたは確かに自由になるでしょう」(ヨハネ 8:36)。

したがって、肉体である夫は死なないので、この耐えがたい結婚生活から抜け出してキリストとの新しい結合に入るには、私たちの心である「女性」が死ぬ必要があります。これは肉体的な死ではありません。私たちは生き続けたいのですが、霊的な生活の新しさの中で生き続けたいのです。

現在の夫に対する決定的な「いいえ」がなければなりません、その後キリストに対する「はい」が続きます。これは、カルバリの十字架の犠牲によって示されたキリストの愛を熟考するときに起こります。

私たちは、2番目の夫が最初の夫よりもはるかに優れていることを認識しており、彼のものになりたいと思っています。結婚の法則は、「死が二人を分かたず」その継続を定めた。そのとき私たちは利己的な欲望に従って死に、結婚の律法の誓いから自由になります。今、私たちはキリストのものになれるのです。私たちは夫を変えました。「誰が私をこの死の体から救い出してくれるでしょうか？」という質問です。「イエス・キリストを通して神に感謝します。ですから、キリスト・イエスのうちにある人々、つまり肉に従ってではなく霊に従って歩む人々には、今は何の罪にも定められません。」 7:25;

8:1。

私たちは神に身を委ね、神の助けを求めます。彼は私たちの中に入ってきて、状況を解決します。私たちが古い結合から解放し、私たちのガイドになってください。しかし、それは私たちの意志を強制するものではありません。私たちが自ら進んで神のご意志を行うように、神はこれからも私たちを導いてくださるでしょう。このため、私たちはキリストの御言葉の導きに服従しながら、自分の邪悪な欲望を否定します。なぜなら、そうしたいからです。なぜなら、神が私たちを愛しているからです。私たちは神のものとなり、神が私たちを神の力によって誘惑に打ち勝つことができるように助けてくださいます。

このことはパウロの言葉で次のように説明されています。しかし今、私たちは律法から自由になっています。なぜなら、私たちは拘束されていたものに対して死んだからです。それは、私たちが新しい精神で仕えるためです。」 7:5,6。



ローマ人への手紙 7 章の基本的な教えは次のとおりです。義とされ、赦された人、福音を真に受け入れた人、真の信仰を持つ人は、罪から神の律法への従順に改心した人です。なぜなら、福音は信じるすべての人にとって「神の力」であり（ローマ 1:16）、回心した人は神の力を受け、それによって人生を変えた人だからです。回心する前に、彼は罪を確信するプロセスを経ます。しかし、確信するということは、改心して神と平和になることを意味するものではありません。律法の正義と神聖さを確信した人は、自分自身をイエスに捧げ、イエスが与えてくださる力をしっかりと掴む必要があります。そうすれば、彼は新しい人、つまり真のクリスチャンとなるでしょう。神の許しを得る人は従順であることを望み、実際従順です。

なぜなら、神の許しは、神の側から「許されました」という単なる宣言に限定されるものではないからです。しかしそれには聖霊の授けが伴い、それによって神に仕えるというわたしたちの決意が強まり、すべてにおいて神に従うことができるようになります。神は私たちをご自分の子どもであると宣言し、パウロの言葉を借りれば、「あなたがたは子どもであるため、神は御子の霊を私たちの心に送ってくださったのです」(ガラテヤ4:6)。「そうすれば、あなたはもはや僕（罪の奴隷）ではなく、息子（罪から自由で律法に従順）になります。もしあなたが息子であれば、あなたはキリストを通して神の相続人でもあるのです」(ガラテヤ 4:7)。したがって、キリストから受けた力を持っている真の信者は、パウロのように、「私を強めてくださる方によって、どんなことでもできるのです」と叫びます（フィリピ 4:13）。そしてヨハネのように、「私たちが神の愛を守ることこそが神の愛だからです」

戒め。そして神の戒めは重荷ではありません」(1ヨハネ5:3)。あなたがこの祝福された経験をすること、それは永遠の命につながる唯一の経験である、それが神、キリスト、天使たち、そして私たちの心からの願いです。

ポールは改宗したかどうか？ 回数

ローマ人への手紙 7 章のパウロの言葉については議論が続いています。パウロは自分が回心したときのことについて話していますか？このような議論が存在するのは、論理的な帰結があるからです。もし彼が回心したときに自分自身について話すなら、信仰を告白し従順に生きていない人は誰でも神の臣民として数えられ、永遠の命が保証されるでしょう。しかし、彼が確信を持って自分自身について話す、回心していない場合、議論は崩壊し、1つの可能性が浮かび上がります。それは、イエスへの信仰によって戒めを実践する人だけが真のクリスチャンに数えられ、イエスが再臨されるときに救われるということです。このため、この小さなスペースをこのトピックに対処するために捧げます。ここで簡単に説明する内容の詳細な議論は前のセクションですすでに提示されているため、簡単に説明します。

1 - パウロがローマ人への手紙を書いたとき、すでに回心していました

これは誠実な人であれば疑う余地のないものであると私は信じています。まず福音を受け入れることによってのみ、私はそれを他の人に説明できるようになります。そしてローマ人への手紙を書き始めるとき、彼はそれを告知知らせる用意ができていると宣言します。「わたしのうちにあるのと同じように、ローマにいるあなたがたにも福音を告知知らせる用意ができています」(ローマ人への手紙 1:15)。

2 - ローマ人への手紙 7 章で、パウロは回心する前、神の律法の真の要求を知る前の自分自身について言及しています。

このことは9節から明らかです。

「私はかつて、法律なしで生きていました」とロム。 7:9

3 - 次に、彼は罪を確信した瞬間を次のように述べています。

「……しかし、戒めが来たとき、罪が復活し、私は死にました。」ロム。 7:9。

これは、イエスが彼に現れて、「わたしはあなたが迫害しているイエスです」と言われたときに起こりました（使徒行伝9:5）。それまで、パウロはパリサイ人であり、自分は神の律法に従う者であると考えていました - 彼の名前はサウロでした。しかし、彼はクリスチャンを迫害し、その死に同意しました(使徒8:1)。そして彼は、実際には自分が殺人者であり、犯罪者であると確信しました。

4 - 次に、自分の罪を確信した後、自分の状況を示します - 確信していますが、それでも変換されていない

彼は自分自身について現在時制で話しますが、依然として過去の状況について言及しています。「そして、生涯にわたる戒めは、私が死ぬためのものだと思っていました。」ロム。 7:9。

「というのは、私たちは律法が霊的なものであることを知っているからです。しかし、私は肉の人間であり、罪の下に売られています。自分のやっていることは承認しないし、自分がやりたいことはやらない。しかし、私が嫌いなことは、私がすることです。そして、私が望まないことをする場合、私は法律に同意することになります、それは良いことです。」ロム。 7:14-16

罪の下で売り渡された「肉のな者」は誰でも回心しません。イエスは、「肉から生まれるものは肉であり、霊から生まれるものは霊である。「あなたは新しく生まれ変わらなければならない、と私が言ったことを驚かさないでください。」(ヨハネ 3:6,7) 「罪を犯す者は皆、罪の召使です。召使は永遠に家にいるわけではありません。「子は永遠に残る」つまり、罪の僕は永遠の命を受け継ぎません(ヨハネ 8:34-36)。罪の下で売られた人々は依然として解放される必要があります。

「御子があなたを自由にしてくださいなら、あなたは確かに自由になるでしょう」(ヨハネ 8:36)。これは、パウロが、すでに真理を確信しながらも、次のような言葉で法の正義に同意していると証言し、回心する前、または回心する前の状況について語っていることの圧倒的な証拠です。どっちがいい"。この章で示されている推論全体を通して同じ方針に従い、パウロは自分の状況がまったく快適ではなかったという感嘆の声で締めくくっていますが、その表現は罪を赦され神と平和にあるクリスチャンを指すのには決して使用できないものです。

「私なんて惨めな男だ！誰が私をこの死の体から救い出してくれるでしょうか？イエス・キリストのことを神に感謝します。ですから、私自身は理解して神の律法に仕えています、肉では罪の法則に仕えています。」 7:24,25。

動詞の時制が未来であることに注意してください:「配信します」。それはあなたの経験の中でまだ起こるべき何かを示しています。パウロは、神の律法に心で仕えている、つまり神に仕えたいという願いはあっても、従うことができないという状況から解放されることを望んでいます。いいえ

彼は良いことをするという決意を実践することができました。私は罪を犯しました。彼は「肉をもって罪の法則」に仕えました。「肉から生まれたものは肉である」ヨハネ 3:6 というイエスの言葉を思い出してください。彼は確信していましたが、まだ回心していませんでした。だからこそ彼はこう尋ねます。「誰が私を救ってくれるのでしょうか？」 - 未来時制。

5 - 第 8 章の冒頭で、彼はスピーチの中で現在に戻り、回心し神の戒めに従順であるという自分の状況を説明します。

「ですから、今では、キリスト・イエスのうちにある人々、つまり肉に従ってではなく霊に従って歩む人々は、何の罪に定められることもありません。」 8:1。

これが私たち全員にとっての現実になりますように キリストによって罪から解放され、キリストの霊の力によって従順にされますように !アーメン。

## ローマ人への手紙 8

「ですから、今では、キリスト・イエスにある者たち、つまり肉に従ってではなく霊に従って歩む者たちには、罪に定められることはありません。」ローマ 8:1。

キリストの救いを信じた人は皆聖霊を受けました。私たちは、イエスへの信仰によって律法の非難から解放される、と説明します。しかし、私たち自身がこの信仰を生み出しているわけではありません。それは神からの贈り物であり(エペソ2:8)、次のような方法で与えられます。キリストは復活して天に行かれたとき、聖霊を受けて世に送り出しました(使徒2:32,33、ヨハネ16)。:8)。聖霊は私たちの良心に触れ、私たちに罪を確信させ、もし私たちが聖霊に抵抗しなければ、聖霊は「信仰の霊」(ガラテヤ 3:14)であるため、私たちの心に信仰を置きます。そして同じ精神が、人生のあらゆる面で神の律法に従う道を歩むよう私たちに感銘を与えます。私たちが神に導かれ、従う意志を働かせるなら、神は私たちを強めてくださいます。これが私たちが誘惑に打ち勝ち戒めを守る方法です。そして戒めを守る者は誰でも戒めによって非難されません。したがって、私たちは霊の導きに従うことによって、救いのためにキリストを信じているという証拠を与えます。

上記から、本物のクリスチャンの経験は、次の点で偽の経験とは異なることがわかります。本物の経験では、人は霊の影響を通して心から信じます。偽物では、

外見的にのみ、または「口によって」のみ。聖書には、「人は心から義を信じる」と書かれています。

10:10。一方、イエスは、「わたしに『主よ、主よ』と言う者が皆天国に入るわけではなく、わたしの父の御心を行う者が天国に入ります。」と言いました。マタイ 7:21。心の信仰は聖霊によって定められたものであるのに対し、単なる信仰告白は人間自身の肉体によって生み出されたものであり、人間は自らを信者であると宣言することで自らを欺き、表面上の単なる宗教の形式に固執するが、その心はそうではない。キリストの霊と神の律法に従います。

「キリスト・イエスにある命の御霊の法則が、私を罪と死の法則から解放してくださったからです。」ロム。  
8:2

「霊の法則」と「罪の法則」という表現を理解するには、読者が前章のテーマをさらに深く考え、慎重に検討する必要があります。使徒ペテロによれば、「パウロは、与えられた知恵に従って、あなたがたに手紙を書きましたが、その中には理解しがたい点もあります」。3:14,15。これもそのような例の一つです。

「霊の法則」という表現を分析してみましょう。法律とは、守らなければならない規則です。したがって、霊の法則は、霊が従うべき、または尊重しなければならない規則です。霊は神のものであるため、その霊が従う律法は神の律法、つまり十戒です。したがって、「霊の法則」とは十戒のことです。

ローマ人への手紙 8 章 2 節の「霊の法則」と「罪の法則」という表現で言及されている律法は、前の章で示された律法と同じです。「私は神の律法に仕えています。罪の法則です。」ローマ 7:26 言い換えれば、パウロは 7 章で示された議論、すなわち結婚の類推、つまり比較を続けているのです。

パウロは、利己主義の奴隷である未回心男性を肉と呼ばれる夫に縛られた女性にたとえ、回心した男性を最初の結婚のために死んで新しい夫であるキリストと結婚した女性にたとえました。最初の結婚で、女性は家の長として自分が何をすべきかを決める夫に敗北します。同様に、回心していない人は、自分の力で神に従おうとすることはできませんが、自分自身を自分の意志（肉の夫）の奴隷とみなして、常に敗北します。二度目の結婚では、女性は家の長として善を行うよう導いてくれる善良な夫（キリスト）に導かれます。二度目の結婚は、キリストによって強められて、自分の肉の求めることなく、神の意志に基づいて自分の意志と行いを制御できる回心した人を表します。

パウロは結婚を比較して、神の律法によれば、女性は夫が生きている限り夫に束縛されると主張しました（ローマ 7:2）。女性を夫に拘束する律法の要点は、「姦淫してはならない」という第 7 戒です。20:14。つまり、あなたのたとえでは、女性は神の律法によって最初の夫に縛られているということになります。それが「罪の律法」と呼ばれたのは、当時彼が律法の第 7 戒を比喩的な結婚に適用して、未回心男性（結婚している女性）は肉体に縛られているという教えを説明するためだけでした。夫生涯ずっと。あなたの肉体、あるいは意志があなたを奴隷にし、罪を犯し続けるように導きます。そして、「罪の報酬は死である」（ローマ 6:23）ので、パウロが挙げた例では、「罪の法則」は「罪と死の法則」であると言えます。彼自身が前章で述べたように、問題は法律にあるのではないことを私たちは強調します。「姦淫してはならない」という第 7 戒めには欠陥はありませんが、パウロは、その成就の力を、死ぬまで夫婦の結合を維持することを求めているという例えで適用しました。彼は、次の事実を説明するためにこれを行いました。私たちは人生の終わりまで「自己」（肉）と分かちがたく結びついています、キリストのために生きるために自己中心的に死ぬ場合にのみ、それから切り離されるのです。

前の段落で明らかにしたことから、「罪の法則」からの解放は、私たちの心を改心させ、キリストへの信仰を鼓舞し、私たちを強めてくれる聖霊の導きに従うときに起こると結論付けることができます。自分の意志の主人となり、もはや意志の奴隷ではなくなります。使徒は、「キリスト・イエスにある命の霊の法則」によって私たちはその罪から解放されると述べています。この表現では、彼は第 7 章と同じ類推に従い、今度は二度目の結婚、つまり私たちがキリストに結びつく結婚を示しています。最初のときと同じように、2番目のときも同じことが起こります。一度回心すると、私たちは夫に対する妻のように、生涯にわたってキリストに結ばれます。この新しい結合にも同じ法則が適用され、この新しい命に死ぬという選択以外に私たちをキリストから引き離すことはできないと定められています。この新しい結合の強さは、ここでは「命の霊の法則」として宣言されている神の律法の不変性によって表されています。主であるキリストは霊です。そして主の霊のあるところには自由があるのです」（2コリント 4:3）

3:17) 。キリストにあって、私たちは罪からの完全かつ永続的な自由を与えられます。「罪と死の法則」からの決定的な解放。

「肉を通して律法が弱かったために律法ができなかったことを、神は罪深い肉に似た姿で御子を遣わされました。罪が肉において罪を非難したのは、律法の義が私たちのうちに成就するためです。私たちは肉に従って歩むのではなく、御霊に従って歩むのです。」ロマ 8:3,4



「律法は…肉を通して弱かった」という記述は次のように理解されます。神は私たちの最初の両親であるアダムとエバを従順に創造されました。罪がない限り、神の意志、つまり律法を彼らに提示するだけで十分であり、彼らは自発的に従ったのです。彼らは創造者を喜ばせることに喜びを感じました。したがって、律法は彼らを従順に導くのに十分な手段であったと言えるでしょう。罪はこの現実を変えました。それを犯した後、私たちの両親にはもはや従う力も欲望もありませんでした。彼らは神を恐れ、神の御前から身を隠すようになりました（創世記 8,9）。

この新しい状態では、神の要求を単に提示するだけではもはや彼らを従順に導くのに十分ではありませんでした。そしてこの状況は今日まで続いています。薬物中毒者に「禁止されています」と法律を提示しても、薬物中毒者は薬物依存症の奴隷であるため、変わりません。パウロは、病気の人という概念を提示しながら、法律が人間を自ら変えることはできないという新たな状況を説明しました。労働者は病気のとて、家にいて仕事をしません。神の律法でも同じことが起こりました。以前は、それは人間を従順に導く、または「うまく機能」するのに十分な手段でした。罪を犯した後、神は私たちを従順に導くことができなくなり、つまり「病気」になりました。律法が罪深い人間に対して行うことは、キリストを受け入れる前に、彼が違反者であることを示すことだけである。

「律法によって、罪の知識がもたらされます」ロマ 16:30 3時20分。しかし、彼女には彼を強め、従わせるだけの徳も力もありません。この仕事はあなたには不可能です。

上の聖句では、肉は「自己」、つまり私たちの利己主義を表しており、キリストの力によってそこから解放されない限り、私たちは一生そのような罠にはまってしまいます。彼らの傾向は神の律法の主張に反しています。戒めの律法の基礎となる原則は、神と隣人に対する無私の愛です（ルカ 10:27）。利己的とは、神や他人の利益を無視して自分自身を愛することです。このような対立原理は決して共存できません。一度に支配できるのは1人だけです。パウロが用いた表現を借りれば、墮落した人間は「肉となっている」、つまり自分自身に対する奴隷であると言えます。彼は「病気」だったので、あるいはこの仕事を遂行することができなかったため、神の聖なる律法でさえ彼をこの奴隷状態から解放することはできませんでした。しかし、これは欠陥ではありません。人間を従順に導く目的で法律を襲った「病気」は、人間の過失によって発生しました。人間の不従順のせいで、法がもはや助けられない状況に人間を陥れたのです。それは穴に飛び込んだ人のようなものです。消防士のロープの長さよりも深いので、消防士は救われません。

そして、人間が新たな墮落の状態で弱くなったため、神は永遠の昔から立てておられた計画を実行に移されました（1ペテロ1:19,20）。律法が私たちを従順に導くことは不可能でした。律法は肉では「弱っていた」、つまり（人間の墮落した本性の弱さのために）不可能だったため、神は問題を解決するために御子を遣わされました。本文の中でパウロは、「罪のために」、つまり人間の罪のために御子を送ったと述べています。

キリストはその働きを行うために「罪深い肉の姿」で遣わされた。ここでの類似性という言葉は、可能な限りあらゆる意味での平等を表します。キリストは「滅ぼされた」

彼自身が召使の姿をとり、人間に似せて作られている」フィル。 2:7。ヨハネ 1:14。イエスは「肉となって私たちの間に住まわれました。」イエスは人間の体を持ち、遺伝の結果を背負っていました。ヘブライ 2:14,17 このような状態にあったので、「彼も私たちと同じようにあらゆる面で誘惑を受けましたが、罪を犯さなかったのです」。 4:15。神は私たちの肉体的、精神的な性質と限界において私たちと同等でした。地球上をさまよっている間、彼はこう言いました：「自分では何もできない。」ヨハネ 5:30。次の点においてのみ、彼は私たちと同等ではありませんでした：彼は神の起源を持っていました（彼は永遠から存在する神の子でした）、彼は彼は聖なる者として生まれ（道徳的墮落や性格的特徴に欠陥がなく）、私たちの罪に加担しませんでした、「聖なる者」としてこの地球に来られ（ルカ1:35）、ここに来た時と同じように汚れのない状態で天に戻りました。

しかし、赤ん坊、子供、若者、そして大人としての彼の勝利は、私たちがよく知っている人間の性質に共通するすべての限界を抱えながら、人間として獲得されたものでした。どうやって勝ったんですか？彼は、「肉の時代に、自分を死から救い出してくれる人に、大泣きと涙を流して祈りと嘆願をささげていたが、何を恐れていたのかを聞かれた。息子であったにもかかわらず、彼は従順を学んだ」「ヘブル書 5:7-9。天の父への信仰と常に祈ることによって、イエスは次のことを可能にする力を受けました。」ヘブライ人 5:7-9この世、肉の要求、悪魔の誘惑に打ち勝ったのです。パウロはこの勝利を次の言葉で示しています：「彼は肉において罪を非難した。」つまり、生涯を通じて、一瞬たりとも許しませんでした。罪は心の中で表現されることを求めました。このようにして、キリストは全宇宙に向かって、すべての人が克服できるように与えられた神の力を前にして、罪は容認できないと宣言されました。キリストは、その完璧な生涯によって、罪は違法であると宣言されました。、あるいは生身の人間であっても受け入れられません。

ここで、小さくて重要な観察をする価値があります。イエスは私たちの状況を克服し、イエスが勝利を得た力は私たち全員に与えられているので、故意の罪には弁解の余地はありません。もし人間が神の御心を知りながら罪を犯したとしたら、それは人間の選択であり、神の選択ではありません。したがって、「もし私たちが故意に罪を犯した場合、真理の知識を得た後は、もはや罪のための犠牲は残りません。ただ、私たちの敵を焼き尽くす裁きと燃える火に対するある種の恐ろしい期待が残ります。」ヘブライ 10:26、 27。

本題に戻ると、キリストは御父の力、つまり私たちが受けることができるのと同じ力によって罪を克服されたことが分かりました。イエスは私たちに送ってくださると約束されました。「そして、私は父に祈ります。そうすれば、父があなたにもう一つの慰め者を与えてくださいます。それは、父があなたとともに永遠に住むことができるように、真理の霊です。世界はそれを受け入れることができません。なぜなら、父は見ず、知らないからです。しかし、あなたは父を知っています。神はあなたとともに住んでおり、それはあなたの中にあるでしょう。」ヨハネ 14:16,17。聖霊を通して、キリストご自身が私たちの内に霊的に住んでくださるのです。聖霊は、キリストの霊的な命を人々に伝える力です。

私たちの魂。私たちの心の中でのキリストの行為を通して、キリストの生涯が私たちの経験の中で再現されます。したがって、イエスはさらにこう付け加えられました。「わたしはあなたたちを孤児にしません。わたしはあなたのところに行きます...その日、あなたたちはわたしがあなたの中にいることを知るでしょう。」ヨハネ 14:18,20. したがって、パウロがしたように言うのは正しいことです。、神が罪のためにキリストを世に遣わし、罪を克服されたのは、「肉に従ってではなく霊に従って歩む私たちのうちに律法の義が成就するためである。」8:3。それは、キリストから遣わされた聖霊の力によって、私たちが神の律法に従順となるためです。

「というのは、肉に従っている者は肉のことに心を置くが、霊に従っている者は霊のことに心を置くからである。というのは、肉に従っているのは死であるが、霊に従っているのは死である。霊によって思い起こされることは命と平和です。肉の心は神に対する敵意です。それは神の律法に従わないからですし、そうすることはできません。したがって、肉にある者は神を喜ばせることはできません。しかし、あなたは神の律法に従わないからです。「あなたがたのうちに確かに神の御霊が宿っているのであれば、肉であっても霊においてはそうなのです。しかし、キリストの霊を持っていない人は、その人はキリストのものではありません。」ローマ人への手紙 8:5-9

肉に従って歩む者は自分の意志の奴隷です。聖書の言葉で言えば、彼らは「肉の意志と精神の意志を行っている」エペソ 2:14。 2:2。そしてそれは神の律法と調和していません。パウロは、回心していない人について、「律法は霊的なものですが、私は肉体的なもので、罪の下に売られています。」ローマ 7:14 したがって、肉で生きている人は神に喜ばれません。そして、律法は神の意志の表現であるため、人間は自分自身を神の敵にすることがわかります。彼らは律法に違反し、罪を犯し、その結果として死をもたらします。したがって、人間の自然な傾向は次のとおりであることがわかります。彼を死に導きます。

人間が聖霊の導きに服従し、聖霊が彼に「力を与える」、つまり力で満たすことを可能にするとき、以前の状況は根本的に変わります。「精神は肉体と戦い」、「自分の思いどおりにならないように」それを克服します。5:17。それを通じて、人は自分の意志の主人となり、神の律法に含まれる神のガイドラインに従うようになります。そして従順は永遠の命への道です。イエスは裕福な若い支配者に、「しかし、命に入りたいのなら、戒めを守りなさい」と言われました。

マタ 19:17。したがって、人の人生における聖霊の働きは、人を神に従い、永遠の命へと導くのです。また、神との平和のためにも、律法に従う者は神と調和するからである。  
喜んで。

前の段落で述べたことから、心の中に聖霊が働くことを許した人だけがキリストに従う者として数えられると結論付けることができます。神に抵抗する者は皆、神のものではありません。本文では「神の霊」と「キリストの霊」について言及されています。両方

表現は同じ精神を指します。「精霊は一つだ」エフェ。4:4。彼は父なる神から出たものであるため、父なる神から出たものです(ヨハネ15:26)。そしてそれはキリストのもので、なぜなら、父がそれをキリストに与え、キリストがそれを私たちに送ったからです。このことについてペテロはこう宣言しました。「神はこのイエスをよみがえらせた…そのため、神の右の手によって高められ、父から聖霊の約束を受けて、あなたが今見聞きしているものを注いだのである」。』使徒 2:32,33。

この時点で、霊は存在や人ではなく、むしろ神が発したものであり、その性質は未定義であり、それを通して神はご自身の霊的生命を人間に伝えていることに注目する価値があります。

「神は霊である」(ヨハネ4:24)、そしてキリストは「主は霊であり、主の霊があるところには自由がある」(2コリント3:17)。罪からの自由。霊を通して、世、肉、悪魔に打ち勝つために必要なものはすべて私たちに与えられます。

強さと精神

主に對する知識と恐れです。』イザヤ書 11:2

霊はすべて十戒と調和しています。「しかし、霊の実は愛、喜び、平和、忍耐、親切、善意、信仰、柔和、節制です。そのようなものを規制する法律はありません。』ガラテヤ 5:22、23。聖霊は神から出ているので、それを崇拝することは大きな間違いであり、罪ですらあります。この場合、私たちは神ではなく、神から来るものを崇拝することになるからです。この理解と調和し、一貫して、宇宙全体が父と子だけを崇拝することはできません(黙示録 5:13)。

「そして、キリストがあなたの内におられるなら、体は罪のために死んでいますが、霊は義のために生きています。』ローマ人への手紙 8:10

人生において聖霊の働きが行われている人の状態は次のとおりである。つまり、体が悪を行うために精神によって使われていないという意味で、体は罪に対して死んでいる。

私たちの心は体をコントロールします。それは私たちが意志を行使するための道具です。6章の学びで、義を実践するために会員を神に差し出すかどうかは私たち次第であることをすでに見てきました(ローマ6:13)。誘惑に遭ったとき、私たちにはキリストに立ち返り、神の力に打ち勝つよう懇願する特権があります。「わたしの力をしっかり握って、わたしと平和を結びなさい。』イザヤ書 27:5。そうするすべての人に、約束は確かです。「わたしの羊は決して滅びず、誰も彼らを奪うことはありません」ヨハネ 10:27,28。この経験を生きると、あなたの体は罪に対して死んだ状態になります(つまり、罪を實踐しません)が、あなたの霊(心)は生きている、つまり律法と神に従順になります。なぜなら、信仰の祈りに応えてキリストの義が彼に伝えられたからであり、この伝えられた義は、キリストによって信者に注がれた聖霊である。

「そして、もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の霊があなたがたのうちに住んでいるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたの内に住む御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてくださるでしょう。」

ローマ人への手紙 8:11

父なる神は、私たちが死すべき状態にあるときでも、聖霊を通して私たちの内に働いて、私たちが霊的な生活の状態に保ってください。イエスはこう言われました：「わたしを遣わした父なる神がわたしに戒めを与えてくださった…そしてわたしは、その戒めが永遠の命であることを知っています。」ヨハネ 12:49,50 したがって、戒めに従う者は霊的な命を持っています。パウロはエペソ人に、神は「罪と罪の中で死んでいながらもかわらず、あなたを生かしてくださった」とエペソ人に語りました。2:1。言い換えれば、それは彼らを不誠実な状態から救い出し、十戒に従順な人々に変えたのです。ローマ人への手紙の一節も同じ現実を示しています。神は御霊によって私たちに霊的な命を与え、私たちが神の律法に従わせます。

「ですから、兄弟たち、私たちは肉に従って生きるために肉に対して義務を負っているわけではありません。肉に従って生きれば死ぬからです。しかし、霊によって体の行いを殺すなら、あなたたちは死ぬでしょう。」 「神の霊に導かれているすべての人にとって、彼らは神の子です。あなたがたは再び恐怖に陥る奴隷の精神を受けたのではなく、息子として養子縁組の精神を受けたのです。泣いてください、アバ、父さん。」ローマ人への手紙 8:12-15

債務者である人は誰でも、借りているものを支払わなければなりません。隣人に恩義を感じている人がいます。したがって、彼があなたに何かを頼んだとき、あなたはそれをしなければならぬと感じます。パウロは、これは私たちの場合ではないと言います。私たちは債務者ではありません。キリストを信じる信仰によって、私たちは神の子となるので、私たち自身の利己的な意志に負い目はありません。私たちには、「肉に従って生きる」という条件を満たす理由はありません。そうするなら、私たちは罪を犯すことになり、罪は一度完了すると死を生み出すからです（ヤコブ 1:15）。私たちは子供として、この家族に属する権利を証明する文書である「養子縁組の霊」と呼ばれる神の霊によって導かれる特権を持っています。聖霊は「私たちの相続財産の誓約」です（エペソ 1:13,14）。そして私たちの最大の相続財産は、私たちのためにご自身を献げてくださったキリストご自身です（ガラテヤ 2:20）。主はレビ人について次のように証言されました。「レビ族の祭司たち、レビ族全体は、イスラエルにおいて何の相続分も相続財産も持たない。彼らは兄弟たちの間に相続財産をもたない。主はあなたの相続地です。」

1:1,2。これらの祭司たちは神の民、キリストを信じる者の代表であり、後に祭司国民と呼ばれるようになりました。

「獲得した民よ、あなたがたを暗闇からその驚くべき光の中に呼び出してくださった方への賛美を宣言するためです…今、あなた方は神の民です。」 2:9,10。ですから、神の御子、主なるキリストは私たちの相続財産です。その結果、私たちの心の中には御子が住んでおられるので、御父は私たちを子供として認めてくださいます。「そして、あなたたちは息子であるため、神は御子の霊を私たちの心に送り、「アバ、父よ」と叫びました。」（ガラテヤ 4:6）。

「同じ御霊が、私たちが神の子であることを、私たちの霊によって証ししてくださいます。そして、もし私たちが子どもであるなら、私たちは相続人でもあり、神の相続人であり、キリストとの共同相続人でもあります。もし私たちが神とともに苦しんでいるのが本当であれば、私たちもまた、なぜなら、私は、この時の苦しみは、私たちの中に将来得られる栄光と比較するに値しないと考えているからです。

明らかにした。"ローマ人への手紙 8:16-18

私たちは神との間に平和があるときに気づきます。彼の霊は私たちの良心に平和と静けさを与えます。パウロは自分と同僚の奉仕者たちの経験について語り、「わたしたちは自分たちが正しい良心を持っており、何事においてもふさわしく生きることを望んでいると確信しています。」と述べました。ヘブライ 13:18 この確信は、私たちが罪の汚れのない新しくなった新しい地を受け継ぐという確信を強めます。ペテロはこう言いました、「私たちは神の約束に従い、義が住む新しい天と新しい地を探し求めます。」 2ペテロ。 3:13。キリストは神によってすべての相続者とされました（ヘブル1:1,2）。そして、キリストが私たちの内に生きておられるのであれば、私たちは信仰によってキリストの相続に参加することになり、神の霊がこの確信を私たちの心に置くのはこのためです。しかし、キリストと共に王国を受け継ぐ人々は、実のところ、地上で屈辱の道をキリストの足跡に従って歩むことになるでしょう。聖書は「小羊の行くところどこにでも従う」人々について語っています。 14:4。そしてキリストは小羊として十字架を背負い、私たちのために命を捧げた場所に行かれました。「彼は私たちのために命を捧げました。私たちは兄弟のために命を捨てなければなりません。」 1ヨハネ 3:16 つまり、私たちはすべての人類の兄弟たちに福音の音信を確実に伝えるという目標に自分の人生を捧げなければなりません。

イエスは、地上で自己否定と犠牲の道を歩む者は皆、天国でイエスと共に栄光を受けると約束されました。「そして、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、妻、子供、土地を去った者は皆、その百倍を受け、永遠の命を受け継ぐであろう。」マタ 19:29。

「被造物の熱心な期待は、神の子たちの出現を待っているからである。被造物が虚栄にさらされたのは、自らの意志によるのではなく、それを服従させた神のせいだからである。

同じ被造物が墮落の束縛から解放され、神の子の栄光の自由に入るようにと願っています。」ローマ人への手紙 8:19-21

神はアダムとイブを創造した日、地球上のすべての被造物に対する支配権を与えました。イエスはこう言われました。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。そして海の魚、空の鳥、そして地上を動くあらゆる生き物を支配せよ。」

1:28。したがって、彼らが従順を保ちながら受けた祝福は、自分たちの領域にも及ぶことになります。私たちの最初の両親は罪に陥ったとき、両親を失いました。その結果、彼らの支配下にあった創造物も彼らとともに苦しみました。罪によって、人間だけでなく動物や植物にも死が入り込みました。しかし、被造物が死にさらされたのは、それ自身の意志によるものではなく、その支配者の意志によるものでした。したがって、人間が罪の束縛から救われ、神が新しい天と新しい地を造られるとき、動植物も恩恵を受けるでしょう。私たちは栄光を受け、私たちの支配下にある被造物は罪の呪いの痕跡を一切残さず永遠に生きるでしょう。パウロの言葉を借りれば、「被造物は墮落の束縛から解放され、神の子の栄光の自由に入るでしょう。」「神は彼らの目から涙をすべてぬぐい去ってくださいます。」そうすれば、死も悲しみも叫びも痛みもなくなる。最初のことは過ぎ去ったのだから」アポック。 21:4。

「というのは、被造物全体が今に至るまでうめき、産みの苦しみを抱いていることを私たちは知っているからです。そしてそれだけでなく、霊の初穂を持つ私たち自身も心の中でうめき、養子縁組、さらには救いを待っているのです。」私たちの体です。希望によって私たちは救われたのです。今、目に見える希望は希望ではありません。人は見えるものをどうやって待てばよいのでしょうか。しかし、見えないものを望むなら、辛抱強くそれを待ちます。ローマ 8:22-25

今、私たちはキリストを信じ、新しい地球が私たちのために確保されており、「目で見たことも、耳で聞いたことも、人の心にも入らなかった」（1コリント2:9）祝福の楽園と結びついていることを知っています。地球上の私たちの生活は、私たちにとって何のものにも似ていません。どこにでも罪が蔓延し、人間と神の被造物に苦しみ、悲惨、破壊という悲惨な結果をもたらしているのを見ると、私たちはうめき声を上げます。そのような悲しみと苦悩は、誕生の痛みに匹敵します。。

私たちだけでなく、すべての被造物は苦しみます、つまり、パウロの言葉を借りれば、比喩的な意味で「うめきます」。

しかし、私たちは神の約束が確かであると信じているので、希望にうめきます。キリストは言われた、「心を騒がせてはいけません。あなたがたは神を信じ、わたしも信じなさい。わたしの父の家には多くの大邸宅がある。もしそうでなかったら、わたしはあなたに告げただろう。わたしはあなたのために場所を用意する。そして、私が行くとき、そしてあなたは

「場所を用意しなさい。わたしはまた来て、あなたをわたしのもとに連れて行きます。そうすれば、あなたもわたしのいるところにいることでしょう。」

ヨハネ 14:1。私たちの苦しみは長くは続かないでしょう。キリストは言われました、「見よ、わたしはすぐに来る」

アポック。 22:12。そして彼は私たちに確信を与えてくれました：「二度は困難が起こるでしょう。」ナホム 1:9。一度克服されれば、悪は再び起こることはありません。罪と罪人は永遠に滅ぼされます。だから、キリストへの信仰と忍耐をもって、私たちは次の確信を持って待ちます。私たちは約束されたものをすぐにすべて受け取るでしょう。

「そして同じように、御霊も私たちの弱さを助けてくださいます。なぜなら、私たちは何を祈るべきかわからないからです。しかし、御霊そのものが、言葉にならないうめきをもって私たちのために執り成してくれます。そして、心を調べる人は、何を祈っているのかを知っています。』霊の意図はそうであり、神に従って聖徒のために執り成して下さるのはこの方である」ローマ 8:26,27。

御霊が「私たちの弱さを助ける」方法は、私たちが自然に持つ邪悪な欲望と闘い、私たちの良心に触れて自分にノ—と言わせ、神に従うと決心した場合に自分を支配できるように私たちを強めることです。聖書の言葉では次のようになります。ガラテヤ5:17。「私たちは神から来る霊を…受けました。それは、神が私たちに無償で与えてくださったものを知ることができるようにするためです。」つまり、経験を積むことができるようにするためです。(2 コリント 2:12) この現実を考慮すると、聖霊の働きが私たちの心の中で起こることは明らかです。それを言葉で完全に表現することはできません。また、そうする必要もありません。ただキリストが御霊を通して私たちの内に働き、「言い表せないうめき声」をもって私たちの良心を執り成して下さるということを信じるだけでよいのです。そして、人々の心を探られる父なる神は（詩篇139:23）、キリストが霊において働いておられることをご存じです。「キリストは、御霊を通して私たちが神の御心への従順に導くことで、キリストは私たちのために執り成し、御父の御心を成就させてくださいます。」「死んだのはキリストです…そしてまた、死んだキリストです。

私たち」ロム。 8時34分。

「そして、私たちは、神を愛する者たち、神の目的に従って召された者たちにとって、すべてのことが益となるように共に働くことを知っています。なぜなら、神はまた、御子の像に形づくられることをあらかじめ予知していたからです。」ローマ 8:28-30。



キリストは全世界の救い主として遣わされました（ヨハネ 3:16; 4:42）。したがって、全員が「呼ばれた」のです。私たちは世界の創世以前から神に知られていました。そして神は私たちがキリストの道徳的像に従うようにあらかじめ決めておられました。「私は永遠の愛であなたを愛したので、親切心であなたを引き寄せました」という神の言葉は、すべての人間に向けられました（エレア 1:3）。

31:3) 神は私たち一人一人を神の独り子とみなしておられます。神は私たちの幸福を永遠から計画しておりましたが、それは私たちが神が指し示す道に従うことを条件としています。したがって、イエスは私たちの生涯を通して、「あらかじめ決めておられた人々を、また召されました。」という福音の招きのメッセージを私たちにもたらしけてくださいました。彼の目的は、私たちが義とすること、つまり、同時に私たちが赦し、義に変えることでした。そしてその後、私たちが忠実であれば、キリストの再臨の際に、神は私たちに栄光をもたらしたいと願っておられます。そして星のように永遠に多くの人に正義を教える人たち」ダン。

12:3。

しかし、幸福への予定と神の召しはすべての人に与えられるものですが、義とされるか、栄光を受けるかは私たちの選択にかかっています。私たちが救い主であり人生の主であるキリストを拒否するなら、私たちは義とされません。もし私たちが神と共に歩むことを拒否し、神に従うことをやめ、反逆するなら、私たちは栄光を受けることはありません。条件付きの約束は、「死ぬまで忠実であれ、そうすれば命の冠を与えよう」である。2:10。ローマ人への手紙のこれらの聖句の言葉の中で、パウロはすべての人に対する神の理想を示していますが、それが実現するかどうかは、私たちがキリストを通して神に私たちの内で働きを実行してもらうかどうかにかかっています。私たち全員が神にそうさせていただきますように！

「それでは、これらのことに対して私たちは何と言えましょうか？もし神が私たちの味方であるなら、誰が私たちに敵対することができませんか？ご自身の御子を惜しまず、私たち全員のために引き渡してくださった神が、どうしてご自分とともに私たちにすべてのものを与えないのでしょうか？」？」ロマ 8:29,30

この言葉には何という慰め、何という力があるのでしょうか。「神はご自分の独り子をお与えになったほどに、世を愛されました」ヨハネ 3:16。神は私たち全員に神を与えてくださいました。そして彼がそれを与えるとき、彼は彼のものすべてを彼と一緒に与えました。しかし、万物はキリストを通して創造されました。「彼なしでは、造られたものは何も造られなかった」。「すべてのものは神によって、神のために創造されました」（ヨハネ1:3、コロサイ1:16）。ですから、神はキリストを私たちに与えたとき、私たちにすべてを与え、すべての相続人にしてくださいました。かつてアダムとイブに語られた言葉は私たちのものです。「神は彼らを祝福し、神は彼らに言われた、「産めよ、増えよ、地に満ちてそれを従わせよ。そして海の魚と鳥を支配せよ」。「創世記 1:28。これをただ信じれば、神の御心に留まる限り、私たちにとって不可能なことは何もないことがわかります。この現実の確信からキリストはこう言われました、「もしあなたがからし種のような信仰を持っているなら、はっきり言います。

あなたはこの山にこう言うだろう、「ここからあそこに移動しなさい、そうすれば山は過ぎてしまうだろう」。そうすれば、あなたにとって不可能なことは何もありません」マタイ 17:20。

この点についてパウロは、「ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、そして信仰によって諸王国と正義を克服した預言者たちについて語るには時間が足りない」と述べた。「彼らは約束を得て、獅子の口を閉じ、火の強さを消し、剣の刃から逃れ、弱さから力を引き出し、戦いでは奮闘し、見知らぬ者の軍隊を敗走させた。」ヘブライ11:32-34。キリストを信じる者には、すべてのものが与えられ、服従するであろう。

「誰が神に選ばれた者たちを告発するだろうか？彼らを正当化するのは神だ。彼らを罪に定めるのは誰だ？死んだキリスト、あるいはむしろ死者の中から復活させられたキリストだから、神の右にいて執り成しもしてくれるのだから、私たちのために。」ローマ 8:33,34

この言葉には、もう一つの貴重な約束があります。神が私たちを赦し、認めてくださるという確信は、私たちが受けられる最大の祝福です。彼女は、やがて来る時代において、さらに貴重な存在であることを証明するでしょう。イエスは言われた、「彼らはあなたたちを議会に引き渡し、彼らの会堂で鞭打ち、そしてあなたたちはわたしのために総督や王たちの前に引き出されて、彼らと異邦人たちへの証言として…そして異邦人たちにさえ引き出されるだろう」「兄弟は兄弟を殺し、父親はその子を引き渡し、子供たちは親に反抗して彼らを殺すだろう。そしてあなたはわたしの名のせいで皆から憎まれるだろう。」マタイ 10:21,22彼らがキリストにしたように。「彼らは偽証人を立てて私たちの多くを非難し、あたかも私たちが最悪の犯罪者であるかのように見せるでしょう。十戒を守る者は法と社会秩序の敵として非難されるでしょう。しかし、私たちはこれらすべてに忍耐強く耐えることができます。神が私たちに助けてくださることを知っています。承認しています。キリストを信じる私たちのためにとりなしてください。そして私たちの創造者であり宇宙の主権者である父は、私たちがイエスの血によって清く、キリストの命によって義であると宣言してください。私たちは、名誉毀損を目的とした偽りの物語に基づいて行われた正義の模倣にすぎない裁判の最中であっても、地球上の偉い人の前で、神との静けさと平安を保ち続けることができます。そして無実の人を非難する。

「誰が私たちがキリストの愛から引き離すのでしょうか？ 艱難、苦難、迫害、飢餓、裸、危険、剣ですか？ 次のように書かれています：あなたのために、私たちは一日中死に渡されます。「私たちは、屠殺される羊として数えられています。しかし、これらすべてにおいて、私たちが愛して下さった神によって、私たちは征服者以上の存在なのです。死ぬ、生む、天使も、支配者も、権力も、現在も、来るべきこともないと私は確信しているからです」、または

高さも深さも、他のいかなる被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできません。」

8:35-39。

ローマ人への手紙の主なテーマは福音の提示であり、その福音には、神の独り子イエス・キリストの犠牲を通して神がすべての人に与えた赦しが含まれています。特に、神の被造物として、私たちが神に犠牲の代償として何も与えることができないことを考慮すると、神が私たちのためにそのような犠牲を払う動機となるのは愛だけです。したがって、福音が神の愛を明らかにしていることは明らかです。そして私たちのために命を捧げたキリストの愛でもあります。そして、「神が最初に私たちを愛してくださったので、私たちは神を愛します。」ヨハネ第一 4:19. この愛の絆は、解けることのないものです。サタンが人間に私たちに対して行うように仕向けるものは、何であって、それを壊すことはできません。そして、私たちが常にこの絆に包まれているという確信は、「神の愛は、キリストの愛のためにどんな試練にも耐えられるように私たちを強めます。ローマ人への手紙第 8 章の最後の言葉は、パウロが持っていたこの確信の表現です。そして、それを所有することが私たちにも特権であるため、それらは私たちのために記録されました。？来て、あなた自身でキリストを見てください。御言葉に明らかにされているように、罪人であるあなたのための父と子の犠牲を見てください。両方の愛があなたを取り囲んでいます - それはあなたにとってもそうでした - そして他のすべての人にとってもそうでした。太陽の光は街に出るすべての人を照らし、誰一人欠けることなく、それを受け取りたいすべての人の心を満たす神の愛の精神がたくさんあります。

## ローマ人への手紙 9

「キリストにあって、私は真実を言います。私は嘘をつきません（私の良心は聖霊によって証します）。私は心の中に大きな悲しみと絶え間ない痛みを抱えています。なぜなら、私自身、キリストからの嫌悪者になりたいと願うかもしれません。私の兄弟たち、肉によれば私の親戚であり、彼らはイスラエル人であり、彼らは息子として養子縁組されており、栄光と契約と律法と崇拜と約束があり、彼らの父親は彼らです。そして、その肉によればキリストは誰よりも優れたものである。

すべてのものの上にある神が永遠に讃美されますように！」ローマ人への手紙 9:1-5。

ヨハネは靈感を受けて次のように書きました。「わたしたちは兄弟を愛しているので、自分が死から命に移ったことを知っています。」ヨハネ第一 3:14. これらの言葉は、私たちの信仰を共有する人々への愛だけを指しているわけではありません。なぜなら、キリストは次のように言われたからです。「あなたの敵を愛してください…あなたを虐待し、迫害する人々のために祈りなさい。そうすれば、あなたが天におられる父の子供となれます。愛しているなら

誰があなたを愛していますか、どんなご褒美があるのでしょうか？ …それで、兄弟たちに挨拶するだけなら、他に何をしているのですか？」マタイ 5:44-47。パウロは、同胞の多くが彼の最も痛烈な敵であり迫害者であったにもかかわらず、同胞のユダヤ人に対するキリストの愛に満たされていました。それでも使徒は、もしそれが魂の救いの喜びを見つけることにつながるのであれば、キリストによって「嫌悪感を抱かれ」たり、非難されたりすることを望むかもしれない、と述べている。彼は、イスラエル人が他のすべての国々よりも多くの点で特に優遇されていることを認識していました。彼らからモーセが生まれ、神はモーセに神の律法の表と神の意志の啓示を文書で預けました。そして神は彼と彼に従う他の預言者たちに、人間との契約の福音を含む聖書を生み出す啓示を伝えました。

それらにはまた、真の崇拜の形式や、この地上で罪から解放された神の子として生き、将来の不滅の栄光に参加するという経験に導くことができるその他すべての指示も含まれていました。そして最も重要なことは、彼らはメシア、神の子、世の救い主、人類に対するすべての約束が成就される方の到来を告げ知らせたことです（ヨハネ 5:39; IIコリント 1:19,20）。キリストご自身も、アブラハム、ユダ、ダビデの子孫であるマリアから受肉して生まれました。しかし、イスラエル人はキリストを拒否することによって、キリストに伴う祝福をすべて拒否したのです。そして彼らはまた、救世主の到来を示し、世界への預け金として託された神の啓示を拒否しました。

この現実を知ったパウロの心は悲しみと痛みで満たされ、状況を逆転させるためにあらゆる手を尽くしたいと思うほどになった。

この使徒の模範は、この終わりの時代において、セブンスデー・アドベンチストと類似しています。イスラエル人と同様に、これらの人々は一連の特権を受けました。1844年に彼らが民として現れたとき、彼らは、キリストが神の御座がある天の聖所で人類のために奉仕し、キリストが統治の基礎として十戒を持っているという啓示を受けました。この時点では、キリスト教一般は十戒への従順を必要とは認めていませんでした。したがって、この啓示は、メッセージの形で世界に配信される寄託物として、法の新たな伝達として現れました。それに伴い、預言の奉仕によって次々と啓示が伝えられましたが、それらはすべてモーセに与えられ、出エジプト記から申命記までの書に記録されているものと同様のものでした。それは、食事、病気の自然な治療方法、療養所設立のガイドラインなど、健康管理に関するメッセージでした。；家庭での子供の世話や学校設立のアドバイスなど、真の教育の原則。そして、最高潮の啓示として、ローマ人に提示され、この本で明らかにされた光と一致する、信仰による義認のメッセージの伝達です。その目的は、信仰によって世のあらゆる誘惑に打ち勝ち、人々がこの地上で罪なく歩めるように導くことです(1ヨハネ5:4)。しかし、昔のイスラエル人のように、アドベンチストはメッセージの中でキリストご自身を拒否し、敵となり迫害者になりました。

それを受け入れた人々の間違いを警告します。過去に使徒の心を満たしたのと同じ愛が、現在の迫害者に対する同情心と彼らの救いへの心からの切望で私たちに満たしてくれるはずですが、彼らの目から目隠しが外れるように、私たちの祈りが彼らのために捧げられなければなりません。

「神の言葉が失敗したわけではありません。イスラエル人全員がイスラエル人ではないからです。また、彼らがアブラハムの子孫であるからといって、全員が子供であるわけではありません。しかし、あなたの子孫はイサクにおいて呼ばれます。つまり、彼らは子供ではありません」神の子である肉の子であるが、約束の子であるローマ人への手紙 9:6-8。

イスラエルという名前は「勝者」を意味します。族长ヤコブがキリストに身を投げたとき、信仰をもってこう叫びました。「あなたが私を祝福しない限り、私はあなたを手放しません。そして私は彼に言いました、あなたの名前は何かですか？そして彼は言いました、ヤコブ。そして彼は言いました、「彼はそうするでしょう」「もはや、あなたの名前はヤコブではなく、イスラエルと呼ばれるべきです。あなたは君主として神に対しても人々に対しても奮闘し、勝利を収めたのです。」創世記 32:26-28 ヤコブという名前は「欺瞞者」を意味します。

それはヤコブが人生のその時点まで自分自身をどのように見ていたかを表していました。彼は幼い頃、兄エサウに与えるつもりだった長子権の祝福を自分に与えようと父親を騙し、その結果、兄は彼を殺す計画を立てました。このため、彼は約千キロ離れた家族の土地に逃げ、そこに長年留まりました。

最後に彼は神から祖国に戻るようにとの指示を受けました。しかし、彼は兄の怒りを思い出した。そこで彼は彼女をなだめようと、自分より先に使者に贈り物を送った。しかし、エサウが400人を率いて迎えに来るといふ返事を受け取った。

絶望した彼は神を求めに行き、そこでキリストに出会い、彼の肩に触られました。しかし、夜だったため、彼はイエスに気づかず、一晩中彼と戦いました。戦いの終わりに、神の使者は彼の太ももに触れ、彼を引きずりながら放置することで彼の性格を明らかにしました。彼は訪問者の神聖な起源を認識し、神の憐れみに身を委ねました。それでそれは受け入れられました。彼は罪を赦され、新しい人生を生きる力を与えられました。聖書には、救い主が「そこで彼を祝福し」、創世記 32:29 で彼の名前をイスラエルに変えられたと書かれています。

したがって、イスラエルという名前の精神的な意味は、罪に対する赦しと勝利です。

パウロはこの確信に基づいて、「イスラエル人全員がイスラエル人ではない」と述べました。キリストとその赦し、そしてキリストが与えるであろう罪への勝利を拒否したパリサイ人たちは、実際には「イスラエル人」ではありませんでしたし、神の恵みによって信者がこの地上で罪なく生きられると今日信じていない人たちも「イスラエル人」ではありません。「」。迫害しているパリサイ人は、肉によれば単なるイスラエル人であり、パウロの言葉を借りれば「肉の子」でした。彼らはアブラハムの子孫だからではなく、神の子でした。子どもたちは神の約束を信じる人たちです。キリストにあって、そして戒め

それらは信者が従順となるために、信者の生活の中で実現する約束です。しかし、神の約束はキリストを通して実現されるので(2コリント1:19,20)、キリストを信じて従うだけが約束の子です。アブラハムには二人の息子がいました。一人は自分の行いによるもので、もう一人は信仰によるものでした。イサクは信仰の子でした。使徒が「あなたの子孫はイサクにおいて呼ばれる」と言っているのはこのためです。アブラハムは「信仰の父」と呼ばれました(ロマ 4:00)。

4:16)。したがって、彼らは霊的な意味でアブラハムの子であり、キリストと神がキリストを通して与えられた約束を信じる人たち全員です。

「約束の言葉はこうです。そのとき、私は来ます、そしてサラには息子が生まれます。そして、この子だけでなく、リベカも、私たちの父イサクの子を身ごもりました。彼らはそうではありませんでしたが、まだ生まれていないし、良いことも悪いことも持っていない(神の目的が、選びに従って堅固に立つため、行いのせいではなく、呼びかけてくださる方のおかげで)彼女はこう言われた、「一番偉い人は一番若い人に仕えるだろう。」 「私はヤコブを愛し、エサウを憎みました。それでは、何を言えばいいでしょうか?神の側に不正義があるということでしょうか?全くそんなことはありません!神はモーセに言われています、「私が憐れむ者を私は憐れみます、そして私はそうするでしょう」 「わたしが憐れむ者を憐れんでください。ですから、これは、あなたが何を望んでいるのか、何を実行しているのかによるのではなく、憐れみを持って下さる神次第なのです」ローマ人への手紙9:9-16

上記を要約すると、神はご自身の約束を果たされるかどうかにかかっています。

前の節で使徒は、イスラエル人は神の約束を信じる人々であると述べました。

ここで彼は、神の子であるかどうかは、人間が行うことや肉の親から受け取ること依存しないことを示して、議論を拡張します。「それはあなたが何を望んでいるのか、何を実行しているのかに依存しているのではなく、憐れみを持って下さる神に依存しているのです。」パウロはこの議論を裏付けるために2つの例を挙げています。1つ目は、高齢になって息子を産んだサラが、自分では何もできなかったときの話です。彼女が子供を産んだのは、神が定められた時にその力を用いて約束を果たしたからにすぎません。二つ目はヤコブとエサウの場合で、神は彼らが生まれる前にエサウがヤコブに仕えることを決めており、神の約束の成就是彼の誕生の状況にさえ依存しなかったことを示しています。この2番目の例は、イスラエル人として生まれたからといって彼らが神の子になるわけではないという教えを補強するものです。キリストを通して与えられた神の言葉の約束を信じることによって、私たちは神の霊的な家族、真の霊的なイスラエルに加わることができます。

パウロは議論の中で、「私はヤコブを愛し、エサウを憎んだ。」という預言者マラキの抜粋を紹介しますが、神は生まれる前からエサウを憎んでいませんでした。

この箇所は、エサウが生まれたずっと後、主がこのことを言われたこと、そしてエサウの行いとその子孫が悪かったからそのように言われたことを示しています。言い換えれば、神は彼が減びることを予定していなかったということです。「神は…すべての人が救われ、真理の知識に至ることを望んでいます。」(1テモテ2:3,4)。抜粋を読んでみましょう

マラキ書で引用：「わたしはエサウを憎み、彼の山々を荒廃させ、その相続財産を砂漠のジャッカルに与えた。たとえエドムが『わたしたちは貧しい、それでもわたしたちは荒れ果てた場所を再び建てる』と主はこう言われる。」 「万軍の者たち：彼らは築き、わたしは滅ぼす。そして彼らは彼らを悪の地、主が永遠に怒る民と呼ぶだろう。」マラヤ 1:3,4

神は、「私たちは貧しい」という複数形で語られたエサウの言葉を引用しながら、エサウの子孫が下した決定について言及していることに注意してください。これは、エサウが出産したときにすでに生まれていたことを証明しています。

メッセージ。

マラキは、エサウが神の祝福を軽蔑し、悔い改めずに邪悪な行為をしたため、神が「エサウを憎んだ」と書いています。物語によると、エサウは兄弟の長男として長子の権利を持っており、その特権には家庭で祭司として行動し、メシアの福音と律法の知識を家族内に保持することが含まれていました。しかし、彼は神の祝福を軽蔑しました：「エサウが野から帰ってきたが、彼は疲れていた。するとエサウはヤコブに言った。『お願いだから、疲れているから、この赤いシチューを食べさせてください。それで彼はエドムと呼ばれたのです』 「ヤコブ、今日あなたの長子の権利を売ってください。そしてエサウは言いました、見よ、私は死に瀕しているのです。私の長子の権利が私にとって何の役に立つでしょうか？...そして彼は長子の権利をヤコブに売りました...そこでエサウ 創世記 25:30 -34 またパウロ自身もエサウが「悔い改めなかった」ことをヘブライ人に強調しています。ヘブル書 12:17。

「一番偉い者は一番若い者に仕える」と「私はヤコブを愛し、エサウを憎んだ」という言葉は異なる時期に発せられましたが、パウロがそれらを順番で紹介しているという事実により、不注意な読者はどちらもエサウが生まれる前に発せられたものであると理解してしまうかもしれません。もしそうなら、彼らは、神がある者には救いを、他の者には滅びを運命づけられたという考えを支持することになるでしょう。そのような結論は、福音を教えている他のいくつかの聖句と矛盾するため、正しくありません。キリストは全世界の救い主です(ヨハネ4:42) (テトス 2:11) 本文の説明に続いて、解釈の誤りを避けるためにパウロが次のように付け加えています。神の側に不公平があるということでしょうか？

決して～ない！というのは、彼はモーセにこう言っている、「わたしは憐れむ者を憐れみ、憐れむ者をわたしも憐れむ」したがって、これは彼が何を望み、何を実行するかに依存するのではなく、憐れみ深い神に依存するのです。」言い換えれば、彼のスピーチの焦点は、神が行動するので約束が果たされることを実証することであったことを明らかにした。人間の行為に関係なく、それを達成します。

ローマ人への手紙の中心テーマは、イエス・キリストを通して神から与えられた赦し（または義認）の福音の提示です。人間に一切依存することなく、約束を果たされるのは神であることを完全に証明することによって、神は私たちを赦すという行為が完全に神の御業であることを私たち全員に証明しています。彼はそれを達成するために人間にまったく依存しませんでした。実際、人間は悪魔の影響を受けてイエス・キリストを誘惑し、失敗させました。

「十字架から降りて来なさい！」とイエスを招きます。しかし、妨害し妨げようとする人々のあらゆる努力にもかかわらず、神とキリストはその働きを完成させた。犠牲は完遂されました。したがって、私とあなたの罪に対する神の許しは不変の確実性です。なぜなら、私たちがかつて、現在、あるいはこれまでしてきたことは、神とキリストがなされたことを変えるものではないからです。この確信は、受け入れられないのではないかとというあらゆる恐怖や、自分の間違いに対する恥や、自分たちが神の子であるかどうかについての疑いをすべて捨て去ります。神が御子を犠牲にして私たちを赦してくださったので、私たちは神の子供なのです。イエスは私たちに赦しと永遠の命を完全に保証してくださる方です。そして、神の許しには常に信者の人生を変える力が伴うので、今日私たちはすでに従順のために私たちの内に働いている神の無限の力を持っていることも事実です。キリストが私たちと共におられるので、私たちは明日、すべての誘惑に必ず打ち勝つことができます。私たちに勝利をもたらす働きはすべて神からのものです。神は私たちの肉、世、悪魔に打ち勝つために私たちの力に頼ることはありません。

私たちは、自分の行いによって、生まれた環境によって、また、民族や教会に属していることによって義とされるわけではありません。「したがって、私たちは、人は信仰によって義とされると結論づけます。」

ローマ人への手紙 3:28。だから何をすべきか？「主イエスを信じなさい。そうすればあなたは救われます」使徒16:31。

この福音の真実を信じることを選択すれば、それはあなたの人生で現実になります。

「聖書はファラオにこう言っている、『わたしがあなたをよみがえらせたのは、まさにこの目的のためである。あなたの内にわたしの力を示し、わたしの名が全地に宣伝えられるようにするためである。』それゆえ、ファラオは自分の望む者を憐れみ、そして彼は「なぜ彼はまだ不平を言うのですか？誰が神の意志に抵抗したのですか？しかし、おお、あなたは何者ですか、あなたは神に答えますか？おそらく、形成されたものは、形成した彼に言うでしょう」それ：「あなたは私にこのようなことをしたのですか？それとも陶工には粘土を支配する力がなく、同じ塊から名誉のための器と不名誉のための器を作ることができないのですか？そしてもし神がその怒りを示したいと思ったら、あなたは何と言いますか？そして、滅びのために用意された怒りの器に多くの忍耐を持って耐えた神の力を知らせ、また、神が栄光のために先に備えておられた慈悲の器の中にあるご自身の栄光の豊かさを知らせるためであり、それが私たち、神でもあるのです。ユダヤ人の中だけでなく、異邦人の中からも召されたのですか？」ローマ人への手紙 9:17-24。

エジプトのファラオは神の意志によってかたくなになったわけではありません。報告書は、彼が神の言葉を信じず、それに従わないことを選択したことを伝えています。モーセがイスラエルの民を行って荒野で主を崇拝させるようにという神の命令を彼に提示したとき、彼はこう答えました。私は主を知りませんし、イスラエルを手放しません。」 5:2。

「私は主を知りません」という彼の言葉は真実ではありませんでした。彼が主を知っていたのは、主がイスラエル人の奴隷たちに崇拝されていたのを見たからだ。しかし、彼は神の言葉に従うことによって神の言葉への信仰を示すことを拒否しました。神はファラオを滅びに導く予定ではなかったし、これはパウロの教えでもありません。



この一節で、ちなみに、使徒はまさにその反対を証明するためにそれを書きました - 以下で見るように。

聖書には、神は「あなたのうちにわたしの力を示す」ためにファラオを立てたと記されています。神はファラオの心を変えることによって、その力を示したいと願われました。彼は彼を回心させ、奪う王から同情的で慈悲深い王に変えたいと願っていました。だからこそ彼は、奴隷たちを砂漠に出て神を崇拝させるように命じたのです。この命令に従うことは、ファラオの心を善くする慈悲の行使となるでしょう。もし彼らが神に従ったなら、イスラエル人は礼拝の恩恵に加えて、厳しい奴隷状態からの安らぎと休息の期間を得ることができました。しかし、その利己的な心は、慈悲を求める彼の願いに屈しませんでした。そこで神は、エジプトに疫病を送るという別の方法で、もっと苦痛な方法で、彼の力を示さなければなりません。そしてついに息子を殺してしまいました。この最後の疫病に関しては、それがエジプト人が何年も前に犯した、イスラエル人の赤ん坊を皆殺しにした犯罪に対する同様の報復であったことは注目に値します（出エジプト記 1:22）。

次にパウロは、神は「望む者には憐れみを持ち、望む者にはかたくなにされる」と主張し、この言葉で神がご自身の決定において主権を持っておられること、つまり、神は誰にも止められずにご自身の望むことをなさることを明確にしています。「神は…すべての人が救われることを望んでいます。」 1テモテ 2:4 したがって、人間が神の霊の影響に屈することを拒否すればするほど、神が自分の言葉で語ろうとすることが起こります。良心は、ますます固まるのです。神の愛に身を委ね、キリストに身を捧げる者を回心させるのと同じ精神が、悪にしがみつく人間をかたくなにしてしまうのです。悪いのは神ではありません。氷を柔らかくするのと同じ太陽です。粘土を固めます。

神はある者には救いを、ある者には滅びをあらかじめ定めている、と解釈したかもしれない人たちになお説得しようとして、使徒はさらに次のように付け加えた。あなたは何者ですか、あなたは神に答えますか？ おそらく、形成されたものは、それを形成した彼に言うでしょう：なぜあなたは私をこのように造ったのですか？ それとも、陶器師には、同じ塊から 1 つの容器を作るために粘土を支配する力がないのですか？ 私たちは神を、ご自身を喜ばせるために、いつでも神を讃美し、いつでも神のご意志を実行する準備ができている「ロボット」を創造する利己的な存在であると見ることができます。しかし、反逆者の存在は、神が人間を創造されたことを示しています。彼らは自由選択の能力を持ち、自分が見たものを検討し、分析して決定を下し、自分自身の運命を決めることができます。彼らは、自分たちを取り囲む創造された作品の中にある神の存在のすべての証拠に抵抗し、神の存在を信じないと公言することさえ選択するかもしれません。神はすべての人間に思想の自由を与えました。しかし、彼らが彼のアドバイスに従うか従わないかを選択する限り、彼らは

それらは社会にとって祝福にも呪いにもなります。パウロの言葉を借りれば、それらは「名誉か不名誉かの器」となるのです。

次に使徒は、神がすべての人に、神の恵みがキリストに身を委ねた人々の心をどの程度変えたかを明らかにするよう導いておられるという事実に言及します。この目的のために、神は悪人を長期間耐え、彼らが義人に一時的に勝利することを許可します。千年以上にわたり、無実の信者たちが権威ある地位にある不敬虔な人々によって逮捕され、裁判にかけられ、有罪判決を受け、殺害されてきました。彼らは忍耐と柔和さをもって最悪の拷問に耐えました。神の言葉は、この階級の人々を「世にふさわしくない人々」とであるとヘブライは報告しています。11時38分。

彼らは、最も残酷な虐待の下で、神の恵みが彼らの心に与えた優しさと慈悲を明らかにしました。例えば、殉教者ステパノについて考えてみましょう。彼は石で打たれながら死ぬ直前にこう言いました。「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。そして彼はこう言い終えると眠ってしまいました。」使徒行伝 7:60。彼の言葉は、十字架につけられたときに「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分たちが何をしているのか分かっていないのです」（ルカ24:34）と言ったキリストご自身の言葉と一致していますが、神の恵みを世界に明らかにするという目的を達成した後は、「イエス・キリストを真に信じる者は成し遂げられます。神は正義を行います。神は悪人に怒りを注ぎ、彼らの行いに応じて報復します。聖書は、この一例としてヘロデ王の最後を報告しています。彼は預言者ヨハネに命じました。」バプテストは斬首され、その後イエスを嘲笑した。」指定された日に、ヘロデは王室の衣装を着て法廷に座り、彼らのために練習をしました。すると人々は「人間の声ではなく、神の声だ」と叫んだ。そしてその瞬間、主の天使が彼を襲い、虫に食われて息を引き取った。」

使徒 12:21-23。このような場合、ローマ人へのパウロの次の言葉が成就します。「神は、ご自身の怒りを示し、その力を知らせたいと望み、それを知らせるために、滅びを覚悟して怒りの器に忍耐強く耐えられたのです。神の栄光の富を、神が栄光のためにあらかじめ備えてくださった慈悲の器に移されたのです。それがわたしたちであり、神はユダヤ人の中だけでなく異邦人の中からも召されたのです。」

「ホセア書にも書かれているように、『わたしはわたしの民ではなかった者、愛されなかった者をわたしの民と呼ぶ。そしてそれは、彼らに言われた場所で実現するだろう、『あなたたちはわたしの民ではない、彼らはそこにいる』イザヤはイスラエルについても叫びます「たとえイスラエルの子らの数が海の砂のようであっても、救われるのは残りの者です。神は御業を完成させ、それを実現してくださるからです」「義が足りません。主が地上での働きを迅速にしてくさるからです。そしてイザヤが前に言ったように、もし万軍の主が私たちに子孫を残していなかったら、私たちはソドムのようになり、ゴモラのようになっていたら。それでは、義を求めなかった異邦人が義を獲得したと言うべきでしょうか?そうです、信仰による義です。しかし、義の律法を求めたイスラエルは、義の律法を獲得しませんでした。なぜですか?それは信仰によるのではなく、いわば律法の行いによるのです、彼らはつまずきの石につまずいたからです、「見よ、わたしは横たわっている」と書いてあるとおりです

シオンではつまずきの石、そして攻撃の岩。そしてそれを信じる者は恥をかかされることはありません」ローマ人への手紙 9:25-33。

イスラエルの民に属さない人々は異邦人と呼ばれていました。神は預言者ホセアを通して、福音の宣べ伝えによる彼らの回心を予告されました。それが、私がこう言った理由です。「私は、私の民ではない人々を私の民と呼びます…そして、彼らに言われた場所で、あなたたちは私の民ではありません、あなたは私の民ではありません。そこで彼らは生ける神の子と呼ばれるでしょう。」異邦人はキリストへの信仰を通して教会の会員となり、ホセアを借りれば「愛する者」と呼ばれるキリストの花嫁となります。同時に、イスラエル人に関しては、救い主を受け入れた人がほとんどいなかったという悲しい現実があります。大多数の人々は、指導者たちによって広められた神と神の恵みの福音についての虚偽に夢中になっていました。キリストを受け入れたイスラエル人の割合は、「残りの者」と比較されるほど小さかった。そして、もし彼らがいなければ、ソドムとゴモラに起こったことと同じように、国全体がその罪過と罪で滅びるでしょう。そして、このようなことが起こったのは、イスラエル人が十戒という神の律法を持っていてそれを守っていると自慢していましたが、実際にはそれを履行していなかったからです。パウロは、イスラエル人が「義の律法を探し求めたが、義の律法を獲得しなかった」のは、彼らがキリストへの信仰によってではなく、自分自身の努力によってそれに従おうとしたからである、と述べています。「義は信仰によって生きる」ローマ。 1:17。キリストを信じる時、従うことを可能にする力として聖霊を受けます。「イエスを受け入れたすべての人に、イエスは神の子となる力を、その名を信じる者にお与えになった。」ヨハネ 1:12。しかし、「信じない者はすでに罪に定められています。神の独り子の名を信じないからです」ヨハネ 3:18。イスラエル人は指導者たちにひどく騙されたため、実際にはイエスが解決策であるにもかかわらず、イエスが「問題」であると考え、信じさせました。カヤファはイエスについて次のように述べています。「一人の人が民のために死ぬのが得策であり、国全体が滅びない方が良いのです。」ヨハネ 11:50。そのとき、彼らの見方では、キリストは彼らが義に達する道を妨げるであろう。それは「つまずきの石」でした。

そして彼らは、自分たちの中で育ったイエスが彼らの救い主になり得ると認めるのはばかげていると論じて、イエスに非難されました(マルコ6:3)。したがって、キリストは彼らにとって「罪の岩」でもありましたが、それでも、イスラエル人であろうと異邦人であろうと、キリストを信じる者は神に恥じることなく救われます。

過去のイスラエル人の悲しい現実は、今日、そして公言するキリスト教の中で広範な方法で繰り返されています。パウロが預言したとおりです。「終わりの日には、困難な時代が来るでしょう。自分を愛し、貪欲で、高慢で、傲慢で、冒険的で、父や母に従わない人、神を愛する人よりも快樂を愛する人、敬虔さの形を持ちながらもその力を否定する人も出てくるからです」 2テモテ3:1-5。多くの人は福音の形を持っています。彼らは聖書を神の言葉として認識し、神を賛美し、礼拝に出席します。しかし、彼らには、自分たちを従順にするだけの霊の力が欠けています。そしてそれはそうではないからです

キリストに対する生きた信仰を持っています。神に受け入れられる理由として彼らが挙げることができるのは、「教会」とのつながりと献身ですが、教会はそれ自体が目的ではありません。それはキリストの体にすぎません。キリストに生き生きとつながり、神の言葉に服従することです。このようなことをする者たちは、またもやキリストをつまづき、スキャンダルの岩としているのです。

彼らの罪を戒める靈感による言葉、彼らはそれを好みません。彼らはそれを「自分たちの教会の教義」に置き換えています。そのいくつかは明らかに神の戒めに反しています。そして彼らはそれに満足しています。彼らの教義の範囲を超えた教えは彼らを非難します。したがって、聖書に靈感を与えたキリストは、彼らにとって事実上「スキャンダルの岩」なのです。

教会でこの悲しい現実を目の当たりにしたキリストを誠実に信じる者は皆、次の言葉に従うように神に呼び掛けられています。黙示録 18: 4.エルサレムがキリストを拒絶した後 (西暦 70 年に) 破壊されたのと同じように、これらの墮落した教会も、その指導者や会員たちも同様に破壊されるでしょう。そして過去の場合と同様、彼らは、罪から解放され、救われる従順な生活を得るために、キリストへの真の信仰を抱くでしょう。これらの墮落した教会全体は、ソドムとゴモラと同様に、その罪の結果として完全に破壊されるでしょう。

しかし、繰り返しになりますが、この言葉を信じて従う人は恥をかかされることはありません。

## ローマ人への手紙 10

「兄弟たち、イスラエルのための私の心の願いと神への祈りは、彼らの救いのためです。なぜなら、彼らは神に対する熱意を持っているが、理解を持っていないことを証します。なぜなら、彼らは神の義を知らず、神の義を確立しようと努めているからです」 」ローマ人

10:1-4

真のクリスチャンの願いは、すべての人が救われることです。それは神ご自身のそれと一致しており(2テモテ2:3,4)、それを持つ者が神の子である証拠です。パウロは、ユダヤ人たちが神を喜ばせようとしていることに気づきました。しかし、彼らはキリストを義と認めず、キリストを信じず、従わなかった。

彼が救い主を必要としていることに気づき、救い主を受け入れたいと思わせてください。「律法が言っているすべてのことは、すべての口が塞がれ、全世界が神の前で罪に定められるようにするために書かれています。

したがって、肉なる者は律法の行ないによって神の前に義とされることはありません。律法を通して罪の知識がもたらされるからです。」

3:19,20. 一度この現実を確信すると、罪人は「イエス・キリストへの信仰を通して神の義」を受けると決心することができます（ローマ 3:22）。したがって、律法の目的、つまり役割は明らかです。罪深い人々は、彼らが義を受けるようにキリストのもとに導くことです。

「モーセは律法による義についてこう述べています。『これらのことを行う者は、それに従って生きるであろう。しかし、信仰による義は、こう言う。「誰が天に昇るだろうか、心の中で言うてはいけない。」（つまり、または：誰が深淵に降りるのですか？（つまり、キリストを死者の中から連れ戻すためです。しかし、それは何を言っていますか？ 言葉はあなたとともにあり、あなたの口の中に、あなたの心の中にあります。これはです。私たちが宣べ伝える信仰の言葉、すなわち、「口で主イエスを告白し、神が死人の中からよみがえらせた心で信じるなら、あなたは救われるでしょう。なぜなら、人は心で義を信じ、そして心で信じるからです」 「信仰告白は、救いのために口で行われます。聖書には、『キリストを信じる者は恥をかかされることがない』と書いてあるからです。』ローマ人への手紙 10:5-11

アダムとエバは創造されたとき、律法による義を持っていました。彼らが彼女に従う限り、彼らは彼女とともに生きるでしょう。しかし、罪人はキリストへの信仰によってのみ義を得ることができます。自分には信仰がないと考えている人がいますが、そこに到達することは、非常に遠い宝物を探すようなものです。しかし現実には、信仰は絶えず私たちの心の扉をノックし、入ってほしいと求めています。キリストは信仰の「作者」です（ヘブル12:2）。そして彼は言います、「見よ、私はドアに立ってノックしています。誰かが私の声を聞いてドアを開けたら、私は入ります」アポック。 3時20分。神の影響に抵抗しなければ、私たちは信仰を持つことができます。パウロは、キリストは天国であろうと死者の中であろうと、私たちから遠く離れたところにおられるわけではないと説明しています。彼は生きていて、私たちとともにいます。神こそが御言葉なのです。地球に来たとき、ヨハネはこう言いました。「そして言葉は肉となって、私たちの間に宿った」。ヨハネ 1:14。そしてその言葉はあなたに届きました - あなたは今もこの本の中でそれを読んでいます。パウロは、「言葉はあなたとともにあり、あなたの口と心にあります。これが私たちが宣べ伝える信仰の言葉です。」そして次のように述べています。「もしあなたが口で主イエスを告白し、心に信じるなら、神が彼を死者の中からよみがえらせたなら、あなたは救われるでしょう。」口は心の豊かさを語ります（マタイ 11:30）。

12:34) 。あなたの心を満たしてくださるキリストについて話してください。あなたの心に浮かんだ確信について話してください。キリストはあなたの救い主であり、死からよみがえってあなたに霊的な命を与えるために生きておられるということです。あなたを告白へと導いてくださるのは主です。自分の誠実さを疑ってはいけません。「聖霊によらなければ、だれもイエスが主であるとは言えないからです」（1コリント12:3）。あなたが神を自分の人生の主として認識するのは、ただ次の理由からです。

彼の霊があなたをそうするように動かしているのです。そしてこれは、あなたが神のものであり、神の子であることの証拠です。そして「彼を信じる者は恥をかかされることはありません。」

「ユダヤ人とギリシャ人の間に違いはありません。一人はすべての主であり、主を呼び求めるすべての人を富ませます。主の御名を呼び求める人は皆救われるからです。」

ローマ人への手紙 10:12,13

国籍や信条に関係なく、すべての人は神の子である主イエス・キリストを信じる信仰によってのみ救われます。なぜなら、神は私たちの罪のために死んで、私たちを聖化し、罪を犯したことの無い存在たちとともに永遠に生きられるようにするために生きているからです。それが、イエスが「世の救い主」である理由です（ヨハネ 4:42）。そのとき、神の名を呼び、罪からの救いを神に叫ぶ人は皆救われます。

「では、彼らは、信じたことのない方をどのようにして呼び求めることができますか。また、聞いたこともない方をどのようにして信じることができますか。良いことの嬉しい知らせをもたらす人々の平和の福音を宣べ伝えます。しかし、すべての人が従ったわけではありません。」 「それは福音です。イザヤはこう言っています。主よ、だれが私たちの説教を信じましたか。ですから、信仰は聞くことから始まり、神の言葉から聞くことなのです。」

ローマ人への手紙 10:14-17

福音のメッセージの役割は、イエス・キリストの犠牲ととりなしを通して人々がすでに受け取った救い、これが良い知らせであることを人々に啓蒙することです。しかし、彼らはこのことを知りません。したがって、主が彼らに告げられる必要があります。この働きに専念する人は幸いです。天は彼らが貴重なメッセージを伝える働きをしているのを見て喜んでおり、天使たちは喜んで人間の使者と協力して、人々の心に感動を与えます。

そこで受け入れます。

しかし、悲しい現実には、多くの人が信じていません。したがって、「誰が私たちの説教を信じたのですか？」という疑問が生じます。福音によって告げられるすべての祝福から私たちを遠ざける唯一のものは不信仰です。それでも、多くの人はそれにしがみつき、それが心に与える強い印象に抵抗します。それは、嵐のときに風に吹き飛ばされたくないから木にしがみつく人のようにです。ステパノはユダヤ人たちにこう言いました、「あなた方はいつも聖霊に抵抗します。」 使徒 7:51 このようなことが起こらないように、主は私たちに次のように忠告されています。

ハート」へブ。3時15分。聖霊の印象に抵抗しない人は信仰の賜物を受け取るでしょう。神の言葉を聞くと、神の霊が私たちが信じられるように促します。信仰は神の言葉を聞くことによって生まれます。そしてそれによって私たちは救われます(エペソ2:8)。ですから、御言葉を聞くたびに、私たちは救いの招きを受けていることになります。キリストは、それに対する私たちの態度について、「耳のある者は、霊の言うことを聞きなさい。」黙示録 3:13 と言われました。私たちはそれを人生の指針として受け入れ、服従します。

彼女への私たちの意志。

「しかし、わたしは言う。『彼らは聞かなかったのか。そうです、確かに、彼らの声は全地に響き渡り、彼らの言葉は世界の果てにまで響き渡ったからです。しかし、わたしは言います、イスラエルは知らなかったのか。まずモーセは言います、わたしは言います。

「あなたが民ではない人々に対して嫉妬しているなら、私は愚かな人々に対してあなたを怒らせませす。そしてイザヤは大胆に言います。私は私を求めなかった人々によって見つけられ、私は私を求めなかった人々に明らかにされました。彼はイスラエルにこう言います。「私は一日中、反逆的で矛盾した民に手を差し伸べました。」ローマ人への手紙 10:28-31

福音は最初にユダヤ人に宣べ伝えられました。しかし彼らは彼を拒否し、使者たちを追い出した。彼らがステパノを殺害した後、「その日、エルサレムにあった教会に対して大規模な迫害があった。「そして、彼らは使徒を除いて、ユダヤとサマリアの全土に散らばった。...しかし、散らされた人たちはどこへでも行って、御言葉を宣べ伝えた。」使徒 8:1,4. それから、福音はすでに世界を征服するまでに世界を征服しました。その時、「天の下のすべての生き物に宣べ伝えられた」(コロサイ1:23)。したがって、イスラエル人は皆、彼の話を聞いた。しかし、彼らの心はかたくなでした。彼らはキリストに反抗し、パウロや聖書の説教者の言葉に反対しました。(使徒 13:45) 彼らは自らを信心深いと称し、自分たちの宗教体系全体の創始者であり中心者である神に対して反乱を起こしましたが、その一方で、キリストは異邦人に知らされました。良い知らせを聞いた彼らは喜んでイエスを受け入れましたが、これがイスラエル人を嫉妬させました。この現実の一例は、使徒言行録に記されている物語の中にあります。「多くのユダヤ人や改宗者がパウロとバルナバに従った。イエスは彼らに話しかけて、神の恵みの中にとどまるように勧めました。そして次の土曜日には、ほぼ全市が神の言葉を聞くために集まりました。するとユダヤ人たちは、群衆を見てねたみに満ち、パウロの言ったことを冒瀆して反対した。

しかし、パウロとバルナバは大胆に行動して、こう言いました。まず神の言葉があなたがたに宣べ伝えられることが必要でした。しかし、あなたがそれを拒否し、自分が永遠の命を受けるに値しないと考えているので、見よ、私たちは異邦人に目を向けます。なぜなら、主は私たちに次のように命じられたからです。「わたしはあなたを異邦人の光として定めました。それは、あなたが地の果てまで救いとなるようにするためです。」異邦人たちはこれを聞いて喜び、

彼らは主の言葉を讃えました。そして永遠の命に任命された多くの人が信じました。

そして主の言葉はその州中に広まりました。しかし、ユダヤ人たちは信心深く正直な女性たちと市の支配者たちを扇動し、パウロとバルナバを迫害し、国境から追い出しました。しかし、彼らは足の埃を払い落として、イコニウムに向けて出発しました。すると弟子たちは喜びと聖霊に満たされた。』使徒 13:43-52. このようにして、預言者イザヤの言葉が成就しました。「わたしはわたしを求めなかった者たちに見つけられ、わたしを求めなかった者たちに啓示された。しかし彼はイスラエルにこう言います。一日中「わたしは反抗的で矛盾した民に手を差し伸べた。」もしユダヤ人たちがこれらの言葉の意味に注意を払っていたら、この役割を果たさなかったかもしれない。

今日も昔と同じように、多くのアドベンチストは神の真の僕たちが宣べ伝えた真理にわざわざ反論しています。彼らは、特に「唯一の神、父」の存在など、本書で説明されているローマ人への手紙の福音の真の説明と矛盾しています。1コリント 8:6 です。これらは、神の無限の恵みによって強められた神の民は、一度も過ちや罪を犯さずにこの地球を歩むことができ、そしてこれからも歩むという聖書の啓示に矛盾しています。神は彼らに手を差し伸べ、メッセージを伝えます。しかし、昔のユダヤ人のように、彼らは聞くことを拒否します。

一方、さまざまな信仰や宗派の多くの非アドベンチスト派は、喜んでこの受け入れを受け入れています。

メッセージ。

## ローマ人への手紙 11

「だから私は言います、神はご自分の民を拒絶したのでしょうか？全くそうではありません。私もアブラハムの子孫、ベニヤミン族のイスラエル人だからです。神はご自身の民を拒絶しておられませんでした。ご自身が予見しておられたのです。それともあなたは知らないのですか？聖書は、エリヤがイスラエルに対して神に向かってこう言っているとき、「主よ、彼らはあなたの預言者を殺し、あなたの祭壇を取り壊しました。そして私だけが残され、彼らは私の魂を求めています。しかし、神の答えはあなたに何を語りますか？」 「わたしは、バアルに膝を屈しなかった七千人を自分のために確保しておきました。ですから、今この時代にも、恵みの選びに従って、残りの者が残っています。しかし、それが恵みによるものであるとしても、それはもはや行いによるものではありません」；そうでなければ、恵みはもはや恵みではありません。しかし、それが行いによるものであれば、それはもはや恵みではありません；そうでない場合、その働きはもはや恵みではありません

建設現場。"ローマ人への手紙 11:1-6。

キリストとそのメッセージに対するイスラエル人の敵対的な姿勢を考えると、ローマ人への手紙の読者は、神がイスラエル人全員を完全に拒絶したと考えるかもしれません。そのような



その考えは、憤りや復讐という人間の自然な反応には一致しますが、神の性質には一致しません。「人間の怒りは神の義を働かせません。」(ヤコブ 1:20)彼はこう言います。子宮？

でも、たとえ彼女が彼のことを忘れたとしても、私はあなたのことを忘れません。」いさ。 49:15。キリストもそうではありません。国民全体から拒絶された後も、天国で国民のために執り成しを続けられました。そして彼の霊によって、すべてのイスラエル人の心に執り成してください。そして、残りの者と呼ばれる少数の人々が神の恵みの招きに応じました。彼らは律法を全うして神を喜ばせるために、自分たちの行いによって構成される自分たちの義を脇に置き、自分たちの義をもって救い主を受け入れました。それから彼らは、彼らの心を変え、真に戒めを守る者としてくださった聖霊をイエスとともに受けました。

彼らは、生活の中で次の言葉の現実を知るようになりました。「あなたがたは信仰を通して恵みによって救われたのです。そして、それは自分自身によるものではなく、神の賜物です。」エペソ人への手紙 2:8。

ローマ人への手紙のこの一節の言葉からも、イスラエル人は行いによっては決して救われないことが明らかです。イスラエル人の残りの者は、恵みの選びに従って神とのつながりを保ちました。「しかし、それが恵みによるものであるとしても、それはもはや行いによるものではありません。」救いは「行いによって得られるものではないので、誰も（イスラエル人さえも）誇ることができません」エペソ 4:14。 2:9。誰もが神の恵みによってのみ救われることができます。神の言葉を受け入れ、それに抵抗しないときに賜物として受け取る信仰によってのみです。

彼らの働きは救いに関与しません。もし救いが行いによるものであれば、それはもはや恵みによるものではないでしょう。ローマ人への手紙 11 章の文脈では、「恵み」と「行い」は反対です。作品には、人間が行うこと、または行うことができるであろうすべてのものが含まれます。一方、恵みは人間の助けなしに神のみが行うものです。罪の赦しと、私たちの心を変えて従うことができるようにする力は、神からのみ与えられます。それらは、天の父の愛を通して、天から私たちに与えられた「神の恵み」のパッケージの中に含まれています。神の愛を信じて、その贈り物を喜んで受け取るかどうかは、私たち次第です。

イスラエル人を含め、将来永遠の命を受け継ぐすべての人は、心の中で神の恵みを受け入れ、大切にしてきたので、永遠の命を受け継ぐこととなります。

前の節で述べたことと同じように、イスラエルの人々に関するローマ人の言葉は、アドベンティズムにも同様の効力を持って当てはまります。アドベンチスト教会は組織として神の呼びかけを拒否し、三位一体への信仰などのいくつかの誤った教義にしがみついています。キリストは今でもその会員にこう呼びかけています、「見よ、私はドアに立ってノックしています。もし誰かがいたら「わたしの声を聞いて、戸を開けなさい。わたしは彼の家に入り、わたしは彼と一緒に食事をし、彼もわたしと一緒に食事をしよう。」黙示録 3:20。そして彼の声を聞いた者たちは、群衆に加わる残りの者を構成するでしょう。他のすべての信条の中でも、聖書の真理を受け入れる人々の数です。

「何のためですか？イスラエルが求めていたものは彼らには得られませんでした。しかし、選ばれた者たちはそれを手に入れ、残りの者たちはかたくなになりました。そこに書いてあるとおりです。神は彼らに深い眠りの霊を与え、彼らが見えないように目と、彼らが見えるように耳を与えました」「今日の日まで彼らは耳が聞こえませんでした。そしてダビデは言いました、「彼らの食卓が彼らの報復のためのわな、わな、つまずきの石となるようにしなさい。彼らの目を暗くして見えないようにしてください。」  
彼らの背中を絶えず下げさせてください。」ローマ人への手紙 11:7-10

神の律法の遵守を擁護する者、つまり「律法の民」は、過去のイスラエル人も現在のアドベンチストも説教をし、従順を求めています。が、キリスト・イエスにおける神の恵みのメッセージに対してかたくなになってきました。彼らの中で、へりくだって、自分の無力な魂を救い主の配慮に委ねた者だけが、主の憐れみを受け、主の恵みによって強められて、真の従順、つまり変えられた心の服従を与えることができたのです。

残りの人々は偏見に満ちており、自分たちの宗派に属していない福音の説教者からは何も学ぶことができないと思い込んでいた。したがって、「彼らは耳を持っていますが、聞こえません」 - 彼らは聞きたくないからです。彼らはまた、真の福音の説教者たちを通して神が働いておられるという証拠を目の前に持っており、彼らの人生がそれを証明している。彼らには目があるが、見たくないのである。彼らが受け取るかもしれない霊的なパン、つまり彼らの魂を高貴にし、救うであろう純粋な教義を彼らは軽蔑しているが、それは彼らの教会の説教壇からも、彼らの組織によって認定された人々からもたらされたものではないからである。彼らの「霊的なテーブル」、つまり天国の光が来る説教壇は、彼らにとって彼ら自身の「絆」となった、なぜなら彼らの霊的指導者たちはそこから義認に関する真理に反駁しようとする努力をするからである。唯一の神である父とその子イエス・キリストへの完全な従順と崇拜、彼らの説教壇は、彼らを天国に続く道から逸らす欺瞞の皿となり、まさに彼らを地獄に導く罠となったのです。有害な影響により、人々の霊の目は聖書の純粋な啓示から来る天国の光に向かって上を向かなくなり、人間の哲学によって暗くなりました。彼らは背中を下げ、この暗い世界とその慣習に視線を下に向け、その邪悪な慣行にますます順応していきました。そして、彼らが指導者に対するこの盲目的な信頼を維持する限り、彼らは継続的に頭を下げ続けるでしょう。彼らの背中はずっと低くなり、御言葉におけるキリストの観想から背を向けて、欠陥のある人々を見上げるようになりました。

「だから、私は言います。彼らはつまずいたのでしょうか、彼らが倒れるべきだったのでしょうか？そんなことはありません。むしろ、彼らの墮落によって救いが異邦人にもたらされ、彼らを模倣するように奮い立たせたのです。そして、彼らの墮落が世界の富であり、彼らの衰退であるとすれば、彼らは衰退します。」異邦人の富、彼らがますます豊かになることは、私があなたがたに話しているからです。

異邦人の皆さん、私は異邦人への使徒である一方で、自分の奉仕を称賛します。何らかの方法で、私の生身の人々を刺激して、彼らの一部を救うことができるかどうかを確認してください。なぜなら、もしその拒絶が世界の和解であるなら、死者の中からの生命以外に何があるだろうか？初穂が聖なるなら、生地も聖なるのです。根が神聖であれば、枝も神聖です。」

ローマ人への手紙 11:11-16

「神はすべての人が救われることを望んでいます」と繰り返します（テモテ第一 2:4）。これは、神がすべてのものをこの目的のために導いておられることを意味します。ある人が恵みの福音を拒否した結果として取った行動でさえ、他の人には祝福をもたらします。ユダヤ人によるエルサレムからのキリスト教徒の追放により、他の場所で異邦人に福音が宣べ伝えられるようになりました（使徒8:1-4）。また、現代では、真理の説教者がアドベンチスト教会の会員から排除されたことにより、真理はあらゆる国、部族、言語、人々に広められることになりました（黙示録 14:7）。どちらの場合も、神の好意によるこれらの宗教団体の墮落と縮小は、真理による世界の精神的な豊かさ、つまりローマ人への手紙で言うところの「世の富」をもたらしました。墮落した者に真の経験を求めるよう促す「エミュレータ」、または動機付け要因。実際には、これらの団体に属する誰かが、他の人によって説教されている真実を見て叫んだときに起こります。「しかし、この真実は私たちがすべきだった」そしてこの反省の結果、彼は真理を愛するために、今いる場所を離れ、神の現代の民に加わることを決意する機会を得ました。真理の説教者たちは、現在、イスラエル人とアドベンチストに真理を求めるよう動機づける神の道具としての役割を果たしていますが、民族としての彼らの拒絶は、平和の福音を世界に宣べ伝え、信じる者すべての和解をもたらしました。（2コリント5:19）そして、これらの魂が、この二つの体の間で、神の民の仲間入りをするには、彼らにとって霊的な生活への回帰となるでしょう。

彼らは最初に呼ばれた人々（過去のイスラエル人、そしてここ数世紀のアドベンチスト）として、「初穂」、つまり最初のものと考えられていました。初穂は最初に収穫された果実、または最初の子供でした（申命記 18:4、詩篇 105:26）。まず、彼らが真理に立ち返り、真の神の民と団結することによって霊的な生活に戻るのであれば、これは彼らが団結する人々も霊的に生きているというしるしです。あるいは、別の言い方をすると、もし改宗した後にある民族に加わることを求めるなら、彼らは間違いなくすでに改宗した民族を探しているのです。なぜなら、聖書はこう述べているからです。「意見が合わないのに、二人は一緒に歩いていけるだろうか？」アモス 3:3。そして、この民は聖徒から構成されるものとして神によって任命された人々だけであることができます。ここに神の戒めとイエスの信仰を守る人々がいます。」 14:12。したがって、この民の中の者はみな聖人である。すでに彼の中にいた人も、これからも、

イスラエル人とアドベンチストの間では、彼らは神の摂理によって真理へと導かれ、神と団結しました。再任された者は初穂または根を構成します。そして残りはローマ人への手紙で言及されている塊または枝を構成します。この本文から抽出された主な真実は、出自に関係なく、最終的に恵みの招きを受け入れて神の民の仲間入りをした人は皆、同じ状態、つまり「聖人」であるということです。そして？キリストへの信仰と神の聖霊の働きによって戒めに従順になります。なぜなら、彼らが従う戒めは「聖なる」ものだからです（ローマ 7:12）。また、イエスが「彼の戒めが永遠の命であることを私は知っています。」とイエスが言われたため、彼らは同じ理由で霊的に生きています（ヨハネ 12:50）。

「そして、もし枝のいくつかが折られ、オリーブの木であるあなたがその代わりに接ぎ木され、オリーブの木の根と樹液にあずかったとしても、枝に対して誇ってはなりません。彼らに対して、あなたは根を支えているのではなく、根はあなたのものです。」ローマ人への手紙 11:17,18

ここでパウロは異邦人に語りかけています。これがローマ人への手紙であることを思い出しましょう。したがって、代名詞「あなたがた」は彼らを指します。そして現代では、「法の民」（イスラエル人とアドベンチスト）の間にすでに確立されている類似点によれば、この聖句は、次のような人々に対してより強力に語られていると言えます。律法の民についてパウロは、彼らは「砕かれた」、つまりキリストとその福音を自ら拒否したために恵みの祝福から締め出された、と述べています。「私たちはメッセージを受け入れました。私たちは霊的に「接ぎ木された」、つまり神の霊的な教会の一部になったのです。しかし、それを誇るべきではありません。むしろ、福音の教義が今日私たちを支えているということを思い出しましょう。「最初に彼らに届けられました。そして、彼らがそれを拒否したため、彼らには何の効果もありませんでした。この聖句は、かつて私たちに神の国へのアクセスを与えてくれた謙虚さを保つことを目的としています。イエスはこう言われました。「心の貧しい人々は幸いです」マタイ 5:3 私たちは罪人であり、何の価値もないことを認識し、深い謙虚さをもって、赦しと聖化の恵みを受け入れます。そして、その中にとどまることによってのみ、私たちは受けた祝福を持続させることができます。これは次の節で伝えられる考えです。

「そしてあなたは言うだろう、『枝が折れたのは、私が接ぎ木されるためだ。それは大丈夫だ。彼らの不信仰のゆえに折れたのに、あなたは信仰によって立っているのだ。だから、傲慢ではなく、恐れなさい。』もし神が自然の枝を容赦しなかったとしても、あなたも容赦しないであろうことを恐れなさい。したがって、神の善良さと厳しさを考えてみましょう。倒れた人々に対する厳しさ。しかし、あなたにとっては、

優しさ、もしあなたが神の優しさの中に留まるなら。そうでないと、あなたも切り捨てられてしまいます。」

ローマ人への手紙 11:19-22

神は公平です。誰に対しても同じように接しましょう。愛の父として、道に迷った者には厳しく対処します。それは、反抗的で不従順な人々に艱難が降りかかることを許可しており、それによって彼らは、その苦難を通じて、自らの行動が導く破滅を事前に理解し、やがて撤退することができます。したがって、神の厳しさは神の優しさの表れであり、「神の優しさはあなたを悔い改めに導く」（ロマ1:10）ためです。2:4。その一方で、神は神の愛の影響に身を委ねてキリストに身を委ねる人々に優しさを与え、彼らの道を導き、神の戒めに従うよう強めてくださいます。「そしてあなたの耳には、後ろから『これが道だ、右にも左にも曲がらないで歩きなさい』という言葉が聞こえるだろう。」イザ。30:21。この観察から、私たちは、「律法の民」に属しているか、異邦人に属しているかにかかわらず、神は常に慈しみを行使してすべての人を救いの道に導いておられると結論づけられます。神の善意の影響に身を委ねることに永久に抵抗する者だけが救われません。

「そして、もし彼らが不信仰に留まらないなら、彼らも接ぎ木されるでしょう。神は彼らを再び接ぎ木することがおできになるからです。なぜなら、あなたが天然のオリーブの木から切り離されて、自然に反して良いオリーブに接ぎ木されたとしたら、ましてや、自然のものであるこれらの人たちは、自分のオリーブの木に接ぎ木されるでしょう！兄弟たち、私は、硬化が起こっているというこの秘密を(自分で思い込まないように)、あなたがたに知らないでほしくないからです。異邦人が満ちるまで、イスラエルに分け与えなさい。そして、書かれているように、イスラエルはすべて救われるでしょう。「シオンから救出者が来て、ヤコブから不敬虔を遠ざけるでしょう。そして、これがわたしとの契約です」私が彼らの罪を取り除くとき、彼らを。」ローマ人への手紙 11:19-27

神はすべての人を救いたいと願っておられ、その目的に向かって絶えず働いておられるので、もし後戻りした人々が神の愛の影響に抵抗して福音を信じられないなら、神は彼らを受け入れてくださるでしょう。」霊（神の）と妻（神の教会）「『来なさい。来なさい。聞いた者は、来なさい、と言わせなさい。渇いている者は来なさい。望む者は、命の水を取り除きなさい。』黙示録 22:17 神は、「イスラエルの堅固さを用いられた」それは、福音が他のすべての人に届き、希望するすべての人が恵みの招きを受け入れるようにするためです。それらの人々の残りの者（イスラエル人とアドベンチスト）は、大勢の人々に加わります。あらゆる国、部族、言語、民族からの信者が集まり、救われた者の全体、つまり神のイスラエルを形成しています。

イスラエルは「勝者」を意味することを思い出してください。「勝利する者に、わたしは神の樂園の真ん中にある命の木の實を食べるように与えます」(黙示録 2:7)と書いてあるので、神の福音を受け入れる者は皆、もともとの宗教的背景や国籍に関係なく、神のイスラエルを恵みによって高め、それによって罪を克服するのです。キリストは「罪を取り除く」ためにご自身を現されました(1ヨハネ3:5)。そうすれば、彼らはみな聖人となり、従順になります。この意味で、それらはすべて一つの体、すなわち神の教会となります。

「福音に関して言えば、彼らはあなたがたのために敵ですが、選挙に関して言えば、彼らは先祖たちのために愛されています。神の賜物と召しには悔い改めがないからです。」ローマ人 11:28,29

この声明は、神が私たち全員の父であるという概念を強化します。過去に神がイスラエル人を、そして数世紀前にアドベンチストを招いて以来、神は彼らに関する目的を変えていません。国家として、そして宗派として、その指導者たちは神の召命を拒否しました。しかし神は、前者ではご自身の開拓者たち、アブラハム、イサク、ヤコブに対して、後者ではアドベンチスト宗派の開拓者創設者たちに対して交わされた約束を忘れられませんでした。これら2つの体の現在の成員は全員、天の御父からは失われたけれども依然として愛されている子供たちとみなされています。なぜなら、母親が息子を愛し続け、刑務所にまで会いに行くなら、なおさら神がそうであるからです。彼はこう言います。「女性が自分の育てた子供のことをあまりに忘れて、その子供や自分のお腹の子供に同情を抱かないということがあろうか。でも、たとえ彼女が彼のことを忘れたとしても、私はあなたのことを忘れません。」いさ。 49:15。パウロが賜物と召命には悔い改めがないと述べているのはこの意味である。

父親が息子に贈り物をするとき、彼はそれを軽蔑するかもしれませんが、父親はそれを取り返しませんが、神は賜物と使命を与えました。ギフトは与えられる贈り物です。本文の場合、それらは神によってなされた約束です。「召命」とは「召命」を意味します。神は過去に両民族の開拓者たちを召し、彼らに約束をしました。その条件は常に従順であることが条件です。多くの人の不信仰が彼らの人生における約束の履行を妨げていることが判明しました。約束は、あなたの態度に関係なく、与えられ続けます。悔い改めなくても、約束は与えられます。しかし、この場合、約束は従順を条件としているため、果たすことはできません。神はイスラエルに言われました。「見よ、神の手。」主は救われないので、縮められることはありません。また、神の耳が悲しんで聞こえなくなることもあります。しかし、あなたの咎によって、あなたとあなたの神との間は引き裂かれてしまった。そしてあなたの罪は神の顔をあなたから隠して、神はあなたの言うことを聞かないのです。」いさ。 59. 悪者にもこう言う、確かに

あなたが死んでしまう;もし彼が罪から立ち直り、裁きと正義を実践し、悪者に対する誓約を回復し、盗んだものを償い、生命の掟に従って歩み、不法行為を行わないならば、彼は確実に生きるであろうし、不法行為を行わないであろう。彼が犯した罪はすべて、彼に対して記憶されることはないでしょう。彼の下した裁きと義があれば、彼は必ず生きます。」エゼ。 33:13-16。

「というのは、あなたがたも以前は神に不従順でしたが、今はその不従順によって憐れみを得たのと同じように、彼らもまた、あなたに示された憐れみによって憐れみを得るために、今では不従順になったのです。神は彼ら全員を不従順の下に閉じ込めたからです。ああ、神の知恵と知識という富の深さよ!神の裁きはなんと探り難く、神の道はなんと不可解なのでしょう!誰が主の心を理解したのでしょうか?あるいは誰が理解したのでしょうか?」ローマ人

11:30~36

イスラエルがかたくなになったことは、その最初の時代に福音が「天の下にあるすべての生き物に宣べ伝えられた」ことを意味しました(コロサイ1:23)。現在においても同様です。アドベンティスト派の態度が堅くなったことにより、永遠の福音があらゆる国、部族、言語、人々に宣べ伝えられるようになりました(黙示録14:7)。あなたが今この本を読んでいるという事実は、これが起こっていることの証拠です。「そして、御国のこの福音は、すべての国民へのあかしとして全世界に宣べ伝えられる。そのとき終わりが来る。そのとき、人の子のしるしが天に現れ、地上のすべての民族が嘆き悲しむと、彼らは人の子が力と多くの栄光を持って天の雲に乗ってやってくるのを見るだろう、そして彼はラッパの大きな音とともに天使たちを送り、彼らは四方の風から選ばれた者たちを集めるだろう。天の端から端まで。」

マタイ 24:14, 30, 31. 「主ご自身が、命令の言葉を持ち、天使長の声を聞き、神のラッパを響かせて天から降り、キリストにある死人が最初によみがえるからです」その後、生き残っている私たちも、彼らとともに雲に引き上げられ、空中で主に会い、こうして永遠に主とともにいることになります。」テサロニケ第一4:16,17。

すべての人の善と救いのために、ご自身の善意に従ってすべてを導いてくださる神に栄光あれ!すべての人々が神の愛を知り、運命を決定する機会が得られるように、神はすべての出来事を指揮して下さいます。「そして終わりが来る」マタイ 24:14。

真の福音を知ると、神がどのようにすべてを私たちの利益のために働かせたかが分かります。

神に導かれて導いていただくことが救いへの容易な道です。イエスはこう言われました。「わたしの羊はわたしの声を聞き、わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従います。そして、わたしは彼らに永遠の命を与えます。そうすれば彼らは決して滅びず、誰も彼らをわたしの手から奪い取ることはありません。それを私に与えてくださった父は誰よりも偉大です。そして誰もそれらを父の手から奪うことはできません。」ヨハネ 10:27-29。神の恵みの招きに頑固に抵抗して、あなたの人生において神の計画が実現するのを妨げる人がいないようにしてください。あなたは、キリストの魂を救うという使命をキリストに引き渡してください。みことばの教え、良心の声、そして人生のあらゆる細部における神の摂理を神に導いてもらいましょう。ですから、道を間違えることはありません。永遠の命があなたの相続財産となり、天国があなたの家となるでしょう。

神のお恵みがありますように。